

# 公益社団法人計測自動制御学会

## 2025年度事業報告書

公益社団法人第15期 通算第64期

2025年1月1日～12月31日

### 目 次

I. 計測自動制御学会の概要.....	1
II. 2025年度事業報告	
1. はじめに.....	2
2. 2025年度事業計画.....	2
3. 2025年度の主要な活動.....	5
4. 役員と業務執行体制.....	11
5. 委員会・部門・支部.....	12
6. 2025～26年度代議員.....	14
7. 事業実績データ.....	16
III. 2025年度事業報告附属明細書	
1. 各組織の事業計画・実施報告.....	19
2. 2025年度に実施した個別事業実施報告.....	90

# SICE®

2026年（令和8年）3月

公益社団法人計測自動制御学会

東京都千代田区神田小川町1-11-9 金子ビル4階

電話 (03) 3292-0314

FAX (03) 3292-3145

URL <https://www.sice.jp/>



# I. 計測自動制御学会の概要

名称	公益社団法人 計測自動制御学会 (定款第1条)
所在地	〒101-0052 東京都千代田区神田小川町1-11-9 金子ビル4階 電話: 03-3292-0314 FAX: 03-3292-3145 URL: <a href="https://www.sice.jp/">https://www.sice.jp/</a>
目的	本会は、計測、制御及びシステムに関する学術及び技術の進歩発達をはかり、文化の向上並びに産業の発展に寄与することを目的とする。(定款第3条)
事業	本会は、本会の目的を達成するために次の事業を行う。 (1) 研究集会、講演会及び教育・育成のための講習会等 (2) 調査・研究及び資料収集 (3) 技術者の資格認定・付与 (4) 啓発・普及のための体験活動等 (5) 表彰及びコンクール (6) その他の本会の目的を達成するための事業 本会の事業は日本全国及び必要に応じて海外において行うものとする。 (定款第4条)
会長・副会長	会長 : 大須賀公一 (大阪工業大学) 副会長 : 安井 裕司 ((株)本田技術研究所) : 三平 満司 (東京科学大学)
事務局長	事務局長 : 結城 義敬
設立	設立総会 : 1961年(昭和36年)9月30日 事業開始 : 1962年(昭和37年)1月1日
法人化	社団法人 : 1963年(昭和38年)~2010年(平成22年)9月30日 公益社団法人 : 2010年(平成22年)10月1日~
会員数 2025年12月31日 現在	正会員 : 3,365名 名誉会員 : 44名 准会員 : 33名 学生会員 : 430名 永年会員 : 164名 賛助会員 : 163社 : 207口

## Ⅱ. 2025 年度事業報告

---

### 1. はじめに

2025 年度の事業活動は、2025 年 3 月 18 日に開催された公益社団法人 計測自動制御学会 第 15 回定時社員総会で報告しました。「2025 年度事業計画」に従って実施されました。事業の実施結果について、理事会、各委員会・部門・支部関係の主なトピックスを中心に報告します。

### 2. 2025 年度事業計画

2025 年度の事業計画は、「SICE ミッションと事業計画 (2025)」として策定し、2024 年 12 月 23 日開催の理事会で決議されました。この「SICE ミッションと事業計画 (2025)」に基づき、各委員会、部門および支部が個別に 2025 年度事業計画を策定しました。

「SICE ミッションと事業計画 (2025 年)」を以下に示します。

また、各委員会、部門および支部が策定しました事業計画については、本報告書のⅢ. 2025 年度事業報告附属明細書 1. 各組織の事業計画・実施報告 (2025) を参照願います。

## SICE ミッションと基幹事業

### ミッションステートメント

現代社会における「さいす学（計測・制御・SI・知能・産業・ライフ・システム・情報・社会などの調和的学術領域）」の発信中核学会として、

- ① 諸分野を横断して知を究め、新しい価値を創造し、
- ② 関連分野・産官学のハブとなり、発信・連携することで、社会的課題の抽出・解決に貢献する。

### 学会基盤の強化：

「さいす学」を発信することにより構築する本学会の存在意義を基底に据えた上で、根幹であるカンファレンス開催と論文出版を基盤とする学術活動を再強化する。更に、会員数減少等の環境変化に応じて財務構造と運営基盤を改革し、学会運営・事務局体制の効率化と、学会の魅力化・学会内連携の活性化の両立を進める。

### 社会貢献：

「さいす学」に関する学術及び技術の進歩発達を図り、文化の向上並びに産業の発展に寄与する。そのために、分野横断を推進しSICE 発信の新たな価値を創造する。その施策として、国内外の若手等の多様な人材を育成し、卓越した成果を創出し続ける場を構築する。

### 国際貢献：

アジアそして世界に向けて、「さいす学」分野に関わる様々な知の交流の活性化を図るとともに、研究・技術成果を発信する。その施策として、SICE Festival with Annual Conference(SICE\_FES)開催や英文論文誌発行を進め、更に標準化の推進において国際的役割を果たす。

### 会員への貢献：

「さいす学」に関する会員の活動を支えるために、会員に対する情報提供、情報の発信・交換する場の提供、会員活動に対する表彰に取り組む。

### 学協会・産業界への貢献：

国内外の学協会および産業界との連携活動に参加するとともに交流を促進し、関連学術・技術分野の横断的な連携の強化に柔軟に取り組む。

### 基幹事業

- ・ SICE\_FES(Festival with Annual Conference)開催
- ・ 部門主催講演会、支部主催講演会等の開催
- ・ 部門・支部内各種事業および研究会活動
- ・ 各種セミナー・展示会・見学会開催
- ・ 関連国際会議、国内会議、展示会の共催・協賛
- ・ 国内外学協会・工業会等との連携
- ・ 学会誌、論文集発行
- ・ web 等による情報発信
- ・ 技術者教育と資格認定
- ・ 標準化活動
- ・ 各種学会賞贈呈
- ・ 産学連携
- ・ ダイバーシティ推進による若手・女性研究者の活動支援・活性化
- ・ その他

## SICE 中期的課題と事業計画

2025 年度に理事会で策定された「SICE 中期的課題と事業計画」を以下に示します。

	中期的課題	事業計画	主担当組織	副担当組織
学会基盤の強化	0 そもそも SICE とは？	0.1 SICE の存在意義と「さいす学」を定義する。	全組織	
	1. 柔軟な組織間連携などによる学会活動の活性化	1.1 SICE FES 2025 等に向けた部門・支部・委員会の柔軟な連携企画	カンファレンス委、部門、支部	部門協、支部協
		1.2 特定費用準備資金の有効活用	財務委	部門協、支部協
		1.3 部門・支部のあり方についての検討	総務委	部門協、支部協
	2. 講演会活動の FES 化による充実	2.1 カンファレンス活動(FES、部門大会、部会研究会、支部大会等)の全体調整と FES 化を見据えた見直し	カンファレンス委、部門、支部	総務委
	3. 出版活動の充実	3.1 和文論文誌と英文論文誌の位置づけおよび編集方針の見直しによる投稿数拡大、和文論文誌のデジタル化	総務委、和論委、英論委	
		3.2 会誌のあり方を見直し、デジタル化の推進	総務委、会誌出版委	
	4. 緩急ある学会運営のスリム化と効率化	4.1 理事会、直轄委員会、事務局運営業務のスリム化と効率化と理事の任期の柔軟化	総務委	
		4.2 ウェブ更新効率化による情報発信の促進	メンバー委	総務委、企画委
		4.3 学会運営ワークフローの DX 化検討	総務委	
5. SICE の財務基盤の強化	5.1 年間収支のモニタリング・分析に基づく、予算立案プロセス改善と中長期施策の立案、デジタル化の影響の見極め	財務委	総務委	
6. 継続事業とコンプライアンス	6.1 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守	全組織		
	6.2 アフターコロナにおける新たな学会活動スタイルの推進	全組織		
社会貢献	7. SICE が主導する「さいす学」の発信と Society 5.0、SDGs 等社会的課題への SICE の取り組み	7.1 部門・部会・支部活動の可視化、ウェブ発信	総務委、メンバー委	各部門、支部
	7.2 社会貢献を推進する表彰制度の実施	総務委、学会賞委	メンバー委	
国際貢献	8. SICE による日本独自の「さいす学」の発信と SICE の国際性向上	8.1 SICE_FES を通じた SICE 国際プレゼンスのさらなる向上の志向（裾野の広がりと質の高さを両立する場の形成）	カンファレンス委	総務委
		8.2 SICE が主催、共催する国際会議、および招聘現地組織する国際会議(SICE202x、IFAC、IMEKO、IEEE 関連行事)への開催支援	カンファレンス委	部門協、担当部門
		8.3 英文論文集の国際的評価基準(Citation Index, Impact Factor)獲得へ向けた活動の継続	英文論文委	総務委
		8.4 国際標準化活動の促進および表彰	インダストリー委	各部門、支部
会員への貢献	9. 会員への情報発信と教育支援	9.1 AI, IoT, ビッグデータ等新しい技術に関する SICE 企画	メンバー委	インダストリー委
		9.2 若手及び中堅会員への活動支援の実施（表彰制度、会員情報の整備及びそれを活用した支援）	総務委 学会賞委	メンバー委
		9.3 教材(理科、制御)の提供、進路相談ならびに資料の提供	メンバー委	総務委
		9.4 高校生の SICE イベントへの参加、ジュニア会員の創設	メンバー委	総務委
	10. 企業会員のための施策の強化	10.1 企業成果の効果的発信と論文発表形式の見直し	論文委、カンファレンス委、部門協	インダストリー委
		10.2 SICE エグゼクティブサロンの開催	インダストリー委	総務委
		10.3 AC/部門大会におけるチュートリアル活性化	カンファレンス委、部門協	メンバー委
		10.4 地方活性化の検討(非会員地元企業との連携、など)	メンバー委、支部協	支部、カンファレンス委
学協会産業界への貢献	11. 工業会との柔軟な連携強化	11.1 他団体との連携セミナー企画	インダストリー委	メンバー委
		11.2 ニューインダストリー分野(自動車・ロボット等)の企画推進	インダストリー委	部門協
	12. 学協会との柔軟な連携強化	12.1 IFAC2023 Industry Group 活動継承(Wagora 活動の実施)	インダストリー委	
13. 見えない壁の無効化によるダイバーシティ推進	13.1 SICE Diversity and Inclusion Activity (SICE-DIA) の運営、啓蒙や情報発信の企画・実施(会誌特集号の検討)	メンバー委	総務委	

### 3. 2025年度の主要な活動

2025年度の主要な活動を以下に紹介します。

(学会運営)

●第15回定時社員総会

参加者の便宜のため、会場およびオンラインのハイブリッド形式にて開催しました。

日付：2025年3月18日

場所：早稲田大学 西早稲田キャンパス 55号館 S棟3階03-09

／Zoomによるハイブリッド開催

出席者：実参加69名、オンライン参加7名、計76名（事前議決権行使による出席者を含む）

議 題：6件

議 案：5件

●賛助会員懇談会

第15回定時社員総会時に併催しました。

●理事会

2025年度は理事会運営規則に定められた5回の理事会を開催しました。

2025年度第1回理事会（2025年3月18日、ハイブリッド開催 早稲田大学西早稲田キャンパス）

2025年度第2回理事会（2025年5月9日、ハイブリッド開催 SICE 神田小川町事務局）

2025年度第3回理事会（2025年8月8日、ハイブリッド開催 クロス・ウェーブ船橋）

2025年度第4回理事会（2025年12月19日、ハイブリッド開催 SICE 神田小川町事務局）

（2025年度第5回理事会は2026年2月17日、ハイブリッド開催 SICE 神田小川町事務局）

[2024年度監事意見への2025年度の取組み成果]

- (1) 事業：2024年度より Annual Conference から Festival with Annual Conference(SICE FES)へと拡大し、新しい試みを通じて、会員だけでなく、広く SICE のアクティビティを発信する場を作り上げ、学会活動を活発化させたことは特に評価に値する。引き続き正会員の減少が見込まれる中で、魅力有る学会作りは急務であり、今後もこうした新たな取り組みの立ち上げに期待する。

→ 総務委員会内に「さいす学」検討WGを発足し、自動制御協議会やSI部門大会でのパネル展示を行い、また会誌特集号の企画を行った。SICEFES2026 実行委員会と連携し、「ふえす化」推進策を企画、SICEFES2026をはじめ、2026年度事業計画の全組織に「ふえす化」項目を展開した。

- (2) 決算：新型コロナの影響下から学会活動も従来通り行われるようになってきている中で、健全な財政運営により赤字に陥ることなく活発に活動が行われている。遊休財産も保有限度額を超過することなく健全な運営が行われている点も評価したい。一方で、特定費用準備資金の執行について、活性化に向けた積極的な提案をいただけるよう、直轄委員会や部門、支部への情報発信を継続的に行っていただきたい。

→ 新たに設立した「国際主催共催会議推進資金」の活用毛核を前倒して IROS2025（杭州）で SICE ブースの展示を行い、トートバッグ約500枚の配布などにより学会の認知度を向上させた。国際化5カ年活動、オープン SICE プロジェクト特定費用準備資金を活用した若手向けの様々な活性策や SICE-DIA 企画、SICEFES2025 の企画支援を行った。

- (3) 財政基盤強化・健全化：引き続きファクトデータに基づく予算策定から、予算策定ガイドラインを設定していることを評価する。学会を取り巻く状況は年々変化してきていることから、最新の動向を踏まえながらファクトデータの改訂を行っていただき、健全な運用をお願いしたい。

→ ファクトデータの更新を継続し、それに基づく 2026 予算計画を立案した。

- (4) パブリケーション／カンファレンス／メンバーアクティビティ：会誌の電子化準備などが後ろ倒しとなっている状況ではあるが、学会の魅力発信に向けた重要な活動であることから、引き続き前に進めていただきたい。(1)にも記載の通り、SICE FES の初年度は成功しているものの、次年度は海外開催となっている。カンファレンス委員会を中心に、部門などの協力も仰ぎながら学会全体として盛り上げ、成功につなげるだけでなく、今後の SICEFES の方向性を定めていっていただくことを期待する。

→ 会誌電子化については計画通り 7 月から電子書籍版のお試し一般公開を開始し、1 月からは会員資格チェック機能を加えて正式な運用を始める。また、SICE FES2025 を学会全体で成功に導き、「ふえす化」を SICEFES2026 で完成させるべく準備を開始した。

- (5) 将来を見据えて、新たな取り組みを行っていくことは重要であり、直轄委員会を中心に新規の取り組みを行っていることは評価できる。こうした取り組みに加えて益々の活性化や社会的存在意義を高める工夫に期待したく、安全なシステムの開発・社会実装や倫理指針など、SICE が主導的に関わりやすい分野でも政策への反映など積極的な情報発信を期待したい。

→ 今年度は社会課題解決にむけた提言に至らなかったが、安全なシステムの開発・社会実装や AI 利用に関する倫理指針など SICE が主導的に関わりやすい分野での情報発信の検討を継続する。

- (6) 事務局長の交代を迎えることになり、学会事務局の事務作業にも多くの影響が予想されることから、業務のスリム化はもちろんのこと、過度に各理事や事務局の個人個人の業務負担が増えないよう、適宜一時的に人員を補充するなどしながら、円滑かつ健全な事務局運営をお願いしたい。

→ 事務局長交替に向け、2024 年 11 月より IT 人材派遣 2 名を増強し、業務見直しと DX (会計データ等の再利用性の向上) を進めている。また、部門・支部との共有フォルダ運用を開始し、事業報告・会計報告の業務効率向上を実現した。

(研究集会、講演会及び教育・育成のための講習会等)

●The SICE Festival 2025 with Annual Conference (SICE FES 2025)

期間：2025 年 9 月 9 日～12 日

場所：The Empress Hotel and Convention Centre  
Chiang Mai, Thailand

参加者：509 名

うち日本 438 名、タイ 41 名、中国 18 名、  
韓国 6 名、台湾 3 名、デンマーク、トルコ、インド各 1 名



●第 68 回自動制御連合講演会

期間：2025 年 11 月 1 日～2 日

場所：名古屋大学東山キャンパス

参加者：593 名（一般会員 274 名，一般非会員 26 名，学生会員 140 名，学生非会員 158 名）

講演件数：口頭発表件数 367 件（OS 214 件，一般セッション 153 件）

セッション数：全体セッション数 70 件（OS 数 43，一般セッション数 27）

●部門大会

計測部門：第 42 回センシングフォーラム 計測部門大会

（2025 年 9 月 25 日～26 日、群馬大学桐生キャンパス）

制御部門：第 12 回制御部門マルチシンポジウム（2025 年 3 月 2 日～5 日、大阪工業大学梅田キャンパス）

システム・情報部門：システム・情報部門学術講演会 2025（2025 年 11 月 12 日～14 日、東北大学青葉山キャンパス）

システムインテグレーション部門：第 26 回システムインテグレーション部門講演会（2025 年 12 月 10 日～12 日、広島国際会議場）

産業応用部門：産業応用部門 2025 年度大会（2025 年 11 月 26 日、住友重機械工業(株)横須賀製造所）

ライフエンジニアリング部門：ライフエンジニアリング部門シンポジウム 2025（2025 年 9 月 18 日～19 日、千葉大学西千葉キャンパス）

●安全のための計測・制御・システムを考える会

内容：東日本大震災以降、近年惹起されるインフラ・産業設備などの重大事故におけるオートメーションのあり方を、産業界の事故や災害の教訓に基づく帰納法的アプローチと、学界の理論に基づく演繹的アプローチの両面から検討することを目的に、講師を招いて学会内でサロン形式の討論会を実施。（ハイブリッド開催）

実施：1 月 20 日、1 月 31 日、2 月 26 日、4 月 10 日、6 月 10、12 月 8 日

参加者：約 20 名/回

●プロセス塾（プロセス新塾）

内容：現場に精通したプロセス制御関連技術者を育成することを目標に、2006 年から 3 年間、2010 年から 3 年間ずつ、5 期実施（延べ約 550 名受講）。現在はプロセス新塾 - 考究 eX を 2025 年から 3 年間実施。プロセス新塾は、日本工学会の ECE プログラムの認定を受けている。

塾長：本多 敏 慶応義塾大学名誉教授

期間：（実開催オンライン開催併用）

2025 年 10 月 10 日～11 日、10 月 24 日、11 月 7 日、12 月 5 日～6 日

2026 年 2 月 6 日、3 月 6 日、4 月 10 日、5 月 15 日

受講者：2025 年度＝14 名



(技術者の資格認定・付与)

- 計測制御エンジニア資格審査  
新制度検討中
- ECE プログラム (日本工学会) 修了審査  
2024 年度プロセス新塾修了認定 17 名

(啓発・普及のための体験活動等)

- SICE-DIA: SICE Diversity and Inclusion Activity  
内容: ダイバーシティ推進機関として以下の活動を実施した。

アウトリーチ活動:

SICE ジュニア (2025 年 6 月 22 日、12 月 13 日)

女子中高生夏の学校参加: (8 月 10 日)

SSH: Super Science High School (外部機関は実施無)

Girls in Control(共催) (3 月 2 日、7 月 26 日、11 月 3 日)



SICE-FES 2025 Japan Node (Pre-Events)企画  
(8 月 29 日・東京理科大学同窓会館・参加者約 70 名)  
Luncheon Session

特別講演: Prof. Supavadee Aramvith

(Chulalongkorn University)

若手向けキャリア・パス講演会

講演 1: 松山科子氏 (東京エレクトロン株式会社)

講演 2: 浅井徹教授 (中部大学)

若手交流会



- 女子中高生夏の学校 (システム制御情報学会 (ISCIE) と連携)

内容: 女子中高生対象に実習とポスター掲示 (どちらも 10 日)を行った

期間: 2025 年 8 月 9 日~11 日

場所: 国立女性教育会館

- スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会 (SSH) (システム制御情報学会 (ISCIE) と連携)

昨年に続き発表会は開催されたが団体、学会などによる展示は見送りとなった

(その他本会の目的を達成するための事業)

- SICE エグゼクティブサロン

内容: 賛助会員を中心とする企業の経営層を対象に、先進技術のトレンドを探り、異業種の経営者との交流を通じて学びや気づきを深める場を提供することを目的とする。

第 3 回: 実施: 2025 年 7 月 25 日(金)

講師: 菅野重樹氏(早稲田大)

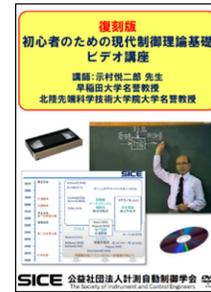
テーマ: AI・ロボット開発の現状と今後の展開 ~日本はどうすべきか~

会場: LEVEL XXI (レベル 21) 東京會館



●復刻版 初心者のための現代制御理論ビデオ講座の頒布

1985年に刊行した同ビデオ講座（VHS、ベータ全8巻）をDVD4枚組復刻版として2016年2月より頒布を開始。2025年12月末現在で、112本頒布。



(国際化の推進)

SICE 主催の国際大会

●The SICE Festival 2025 with Annual Conference (SICE FES 2025)

期間：2025年9月9日～12日

場所：The Empress Hotel and Convention Centre, Chiang Mai, Thailand

参加者：509名（うち海外より71名）

- ・ Plenary Talk 1: Awareness captured through biological signals analysis  
Prof. Eiryō Kawakami (RIKEN/Chiba University, Japan)
- ・ Plenary Talk 2: Learning-based Control with Application to Robotic Systems  
Prof. Lihua Xie (Nanyang Technological University, Singapore)
- ・ Plenary Talk 3: Sustainable agriculture from a control engineering perspective  
Prof. Thavida Maneewarn (King Mongkut's University of Technology Thonburi, Thailand)
- ・ JEMIMA Special Talk: Challenge to Drive IEC Standardization and New Technology for Educational in Automation Engineering Program at KMITL, Thailand  
Dr. Sawai Pongswatd (King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang, Thailand)

●Pre-Events: SICE-FES 2025 Japan Node

Date: August 29th, 2025

Venue: Conference Room No.2 and No.4 in TUS Alumni Association

- Luncheon networking event together with Thai Node (by SICE-DIA)
- The lectures for young professionals (by SICE-DIA)
- The networking event for young professionals (by SICE-DIA)
- Award Ceremony (by SICE)
- Social gathering party (Banquet)

●Post-Event: Cultivating Future Innovators Through Robotics

Robotics Engineering and Artificial Intelligence Program, Faculty of Engineering, Chiang Mai University, Chiang Mai, Thailand

Date: September 13th, 2025

Venue: Robotics Engineering and Artificial Intelligence Program, Faculty of Engineering, Chiang Mai University, Chiang Mai, Thailand

海外学協会との積極的な交流、連携を推進

●SII 2025 (The 17th IEEE/SICE International Symposium on System Integration)

期間：2025年1月21日～24日

場所：ドイツ・ミュンヘン

SICE International Young Authors Award (SIYA) の贈賞



- ECTI-CON 2025 (The 22th International conference on Electrical Engineering/Electronics, Computer, Telecommunications and Information Technologies)

期間：2025年5月20日～23日

場所：タイ・バンコク



- CCC 2025 (The 44th Chinese Control Conference)

期間：2025年7月28日～30日

場所：中国・重慶市



- IECON 2025 (The 50th Annual Conference of the IEEE Industrial Electronics Society (IES))

期間：2025年10月14日～17日

場所：スペイン・マドリード



- IROS 2025 (The 2025 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems)

(知能ロボットとシステムに関する世界最大規模の国際会議)

期間：2025年10月19日～25日

場所：中国・杭州

SICE International Young Authors Award (SIYA) の贈賞



- ICCAS 2025 (The 25th International Conference on Control, Automation and Systems)

期間：2025年11月4日～7日

場所：韓国・仁川広域市



- CACS 2025 (2025 International Automatic Control Conference)

期間：2025年11月5日～8日

場所：台湾・新竹市



- CDC 2025 (The 64th IEEE Conference on Decision and Control)

期間：2025年12月9日～12日

場所：ブラジル・リオデジャネイロ

SICE International Young Authors Award (SIYA) の贈賞



- ICC-11 (The 2025 11th Indian Control Conference)

期間：2025年12月18日～20日

場所：インド・ベンガルール



#### 4. 役員と業務執行体制

2025年度の業務は、業務執行理事が会務を分担して行い、理事会がその監督を行うという枠組みで執行されています。2025年度の理事会は、理事22名（会長・副会長を含む）、非業務執行理事1名、監事3名で構成されました。定款により会長1名、副会長2名を置くことが定められていますので、会長には佐藤智典、副会長には大須賀公一、三平満司が就くことが、2025年3月18日に開催された理事会で決められました。またそれ以外の理事の担当会務（委員会等）についても、同理事会で以下の通り決められました。

役員 <sup>注1</sup>	担当会務	氏名	所属
会長	本会を代表し総理する	大須賀 公一	大阪工業大学
副会長	企画 (総務、財務、AC、国際、 事業推進連携、教育・認定、 会員サービスを統括)	安井 裕司	(株)本田技術研究所
副会長	学会賞 (論文集、会誌出版、 部門協、支部協を統括)	三平 満司	東京科学大学
常務理事	総 務	坂東 麻衣	九州大学
常務理事	総 務	小松 真弓	ヤンマーホールディングス(株)
常務理事	総 務	西尾 唯	本田技研工業(株)
常務理事	財 務	小倉 秀樹	産業技術総合研究所
常務理事	財 務	原田 豊	アズビル(株)
常務理事	会誌出版	小木曾 公尚	電気通信大学
理事	会誌出版	来海 暁	大阪電気通信大学
常務理事	和文論文集	亀崎 允啓	東京大学
理事	英文論文集	永原 正章	広島大学
常務理事	カンファレンス	佐々木 毅	芝浦工業大学
理事	カンファレンス	青山 忠義	名古屋大学
常務理事	インダストリ	手塚 信一郎	横河電機(株)
常務理事	メンバー	小野 功	東京科学大学
理事	メンバー	恩田 佳則	(株)チノー
常務理事	部門協議会	榊原 一紀	富山県立大学
理事	部門協議会	北田 宏	日本製鉄(株)
常務理事	支部協議会	池田 篤俊	近畿大学
理事	支部協議会	河合 宏之	金沢工業大学
理事	～	金 正勲 <sup>注2</sup>	POSTECH
監事		大原 賢一	名城大学
監事		市村 匠	県立広島大学
監事		黒崎 淳	アズビル(株)

注1：役員は全員非常勤

注2：非業務執行理事

## 5. 委員会・部門・支部

定款の定めと理事会の決議に従い、2025年度は以下に示す委員会で活動が行われました。

委員会	役職	氏名	所属
総務委員会	委員長	小松 真弓	ヤンマーホールディングス(株)
財務委員会	委員長	小倉 秀樹	産業技術総合研究所
企画委員会	委員長	安井 裕司	(株)本田技術研究所
学会賞委員会	委員長	三平 満司	東京科学大学
会誌出版委員会	委員長	小木曾 公尚	電気通信大学
和文論文集委員会	委員長	亀崎 允啓	東京大学
英文論文集委員会	委員長	永原 正章	広島大学
カンファレンス委員会	委員長	佐々木 毅	芝浦工業大学
インダストリ委員会	委員長	安井 裕司	(株)本田技術研究所
メンバー委員会	委員長	小野 功	東京科学大学
部門協議会	議長	榊原 一紀	富山県立大学
支部協議会	議長	池田 篤俊	近畿大学
倫理委員会	委員長	高橋 桂子	早稲田大学
候補者推薦委員会	委員長	新井 弘志	元アズビル(株)
選挙管理委員会	委員長	清水 佳子	(財)電力中央研究所

2025年度の部門運営は、以下の部門長の下、従来通り6部門体制で行われました。

部門	氏名	所属
計測部門	大串 浩司	産業技術総合研究所
制御部門	伊藤 博	九州工業大学
システム・情報部門	小林 祐一	静岡大学
システムインテグレーション部門	平田 泰久	東北大学
産業応用部門	澤田 満	理化工業株式会社
ライフエンジニアリング部門	田中 慶太	東京電機大学

また、部門ごとに、以下の部会・調査研究会が設置されています。

計測部門			
センシングフォーラム委員会	委員長	奈良 高明	東京大学
温度計測部会	主査	佐賀 匡史	(株)チノー
力学量計測部会	主査	林 敏行	産業技術総合研究所
パターン計測部会	主査	長谷川 圭介	埼玉大学
先端電子計測部会	主査	川越 順	日本電気計器検定所
スマートセンシングシステム部会	主査	川喜田 佑介	神奈川工科大学
計測における逆問題部会	主査	奈良 高明	東京大学

制御部門			
制御技術部会	主査	加納 学	京都大学
制御理論部会	主査	蛭原 義雄	九州大学
プラントモデリング部会	主査	西田 豪	日本大学
航法誘導制御調査研究会	主査	濱田 吉郎	宇宙航空研究開発機構
ダイナミクスを活用した機械学習による制御理論の革新調査研究会	主査	福永 修一	東京都立産業技術高等専門学校
人の理解/誘導で強化される制御システム調査研究会	主査	井上 正樹	慶應義塾大学
データ・モデル駆動融合による先端的流体・気象制御調査研究会	主査	野々村 拓	名古屋大学
知的システムネットワーク統合のための適応学習制御調査研究会	主査	高橋 将徳	大分大学
実学界で踊る現場制御理論調査研究会	主査	西村 悠樹	鹿児島大学
システム・情報部門			
システム工学部会	主査	中村 啓太	札幌大学
知能工学部会	主査	大谷 雅之	近畿大学
自律分散システム部会	主査	林部 充宏	東北大学
コンピューテーショナル・インテリジェンス部会	主査	信川 創	千葉工業大学
社会システム部会	主査	喜多 一	京都大学
境界と関係性を視座とする価値創発志向システム学調査研究会	主査	内種 岳詞	愛知工業大学
システムインテグレーション部門			
メカトロニクスシステム部会	主査	関口 和真	東京都市大学
自動化システム部会	主査	渋川 文哉	株式会社 IHI
福祉工学部会	主査	谷口 浩成	大阪工業大学
レスキュー工学部会	主査	昆陽 雅司	東北大学
ユニバーサルデザイン応用システム部会	主査	吉留 忠史	神奈川工科大学
共創システム部会	主査	野澤 孝之	富山大学
ロボット・セラピー部会	主査	下田 篤	千葉工業大学
安心安全システム部会	主査	梅谷 智弘	甲南大学
RT システムインテグレーション部会	主査	鈴木 昭二	公立ほこだて未来大学
ソフトマテリアル応用部会	主査	岩本 憲泰	信州大学
医工融合システム部会	主査	岩田 浩康	早稲田大学
触覚部会	主査	佐藤 克成	奈良女子大学
バイオメテックマシン部会	主査	池田 将晃	徳山工業高等専門学校
空間知部会	主査	新妻 実保子	中央大学
フィールドロボティクス部会	主査	萬 礼心	筑波大学
スワームシステム部会	主査	関山 浩介	名城大学
マニピュレーション部会	主査	田原 健二	九州大学
システムインテグレーション学理部会	主査	安藤 慶昭	産業技術総合研究所
産業応用部門			
計装技術交流部会	主査	日下 一正	三菱ケミカル(株)
流体計測制御部会	主査	藤田 壽憲	東京電機大学
産業ネットワーク・システム部会	主査	新井 貴之	横河電機(株)

計測制御エンジニア会 (休会)	総代	木村 政仁	日本計測工業(株)
ライフエンジニアリング部門			
統合情報生物工学部会	主査	浅井 義之	山口大学
電気生理運動学部会	主査	渡邊 航平	中京大学
ユビキタスヘルスケア部会	主査	今泉 一哉	東京医療保健大学
生体・生理工学部会	主査	野崎 大地	東京大学

2025年度の支部運営は、以下の支部長の下、従来通り8支部体制で行われました。

支部	氏名	所属
北海道支部	花島 直彦	室蘭工業大学大学院
東北支部	張山 昌論	東北大学
中部支部	坂本 登	南山大学
北陸支部	伊藤 恒平	金沢工業大学
関西支部	三輪 祥太郎	三菱電機株式会社
中国支部	笠 展幸	岡山理科大学
四国支部	前山 祥一	香川大学
九州支部	水本 郁朗	熊本大学

また、部門協議会直下に、以下の技術専門委員会・WGが設置され、活動が行われました。

委員会・WG名	役職	氏名	所属
人新世のシステム学技術専門委員会	委員長	黒江 康明	京都工芸繊維大学
自動車制御とモデリング研究技術専門委員会	委員長	安井 裕司	(株)本田技術研究所
クリフォード代数の情報表現能力とその応用WG	主査	橘 完太	工学院大学
不利益システムWG	主査	川上 浩司	京都先端科学大学

## 6. 2025～26年度代議員

定款及び本会の規程の定めにより、SICEの代議員は2年に1度、1月に行われる代議員選挙により選出されることになっており、2025年1月が代議員改選の時に当たりました。

そこで2024年度中に、理事会において次期代議員の定数を78名、補欠を2名と定め、2024年度選挙管理委員会（委員長：山澤 一彰）が代議員選挙の候補者の募集を行い、2024年度候補者推薦委員会（委員長：藤田 政之）により候補者名簿が作成されました。その後、2024年度選挙管理委員会により2025年1月17日に投票の告示が行われ、1月27日に投票を締め切り、開票の結果、以下の代議員、および補欠が選出されました。

2025～26年度代議員

番号	氏名	所属	番号	氏名	所属
1	青山 忠義	名古屋大学	40	杉江 弘	三菱電機(株)
2	安 琪	東京大学	41	須藤 秀紹	近畿大学
3	石井 秀明	東京大学	42	関口 和真	東京都市大学
4	泉 清高	佐賀大学	43	高木 真人	(公社)日本工学会
5	市村 匠	県立広島大学	44	高柳 洋一	(株)東芝
6	伊藤 章	愛知工業大学	45	瀧 千波	摂南大学
7	伊藤 義道	大阪電気通信大学	46	田中 仁章	横河電機(株)
8	入部 正継	大阪電気通信大学	47	谷口 浩成	大阪工業大学
9	梅谷 智弘	甲南大学	48	鄭 心知	京都高度技術研究所
10	梅本 和希	福井大学	49	辻 徳生	金沢大学
11	江口 純一	(一社)日本電気計測器工業会	50	土谷 圭央	香川大学
12	大谷 幸三	広島工業大学	51	椿野 大輔	名古屋大学
13	大塚 翔	千葉大学	52	中川 誠司	千葉大学
14	岡島 寛	熊本大学	53	中島 翔太	山口大学
15	岡田 伸廣	北九州市立大学	54	永田 裕一	徳島大学
16	岡部 基彦	(株)東芝	55	中村 壮亮	法政大学
17	小口 俊樹	東京都立大学	56	難波江 裕之	東京科学大学
18	梶原 秀一	室蘭工業大学	57	成瀬 継太郎	会津大学
19	金田 さやか	大阪公立大学	58	西尾 唯	本田技研工業(株)
20	神永 拓	産業技術総合研究所	59	西口 純也	アズビル(株)
21	河合 宏之	金沢工業大学	60	西村 悠樹	鹿児島大学
22	河村 隆	信州大学	61	花島 直彦	室蘭工業大学
23	北田 宏	日本製鉄(株)	62	早川 健	中央大学
24	沓澤 京	東北大学	63	坂東 麻衣	九州大学
25	倉重 健太郎	室蘭工業大学	64	福井 善朗	九州工業大学
26	倉橋 節也	筑波大学	65	藤井 千枝子	慶應義塾大学
27	栗田 雄一	広島大学	66	藤原 幸広	(株)本田技術研究所
28	黒崎 淳	アズビル(株)	67	穆 盛林	愛媛大学
29	伍賀 正典	福山大学	68	細江 陽平	京都大学
30	後藤 聡	佐賀大学	69	榊田 温子	弓削商船高等専門学校
31	後藤 裕介	芝浦工業大学	70	丸田 一郎	京都大学
32	小林 孝一	北海道大学	71	宮田 喜久子	名城大学
33	佐藤 世智	宇宙航空研究開発機構	72	村山 大	東芝エネルギーシステムズ(株)
34	佐藤 浩	防衛大学校	73	保田 俊行	富山大学
35	佐野 明人	名古屋工業大学	74	矢田 紀子	千葉大学
36	佐野 恵美子	(株)クボタ	75	山本 知生	産業技術総合研究所
37	塩澤 成弘	立命館大学	76	米陀 佳祐	金沢大学
38	朱 俊方	産業技術総合研究所	77	和田 孝之	大阪大学
39	菅原 雄介	東京科学大学	78	和田 光代	大阪大学

(任期は2027年1月実施の代議員選挙終了時まで)

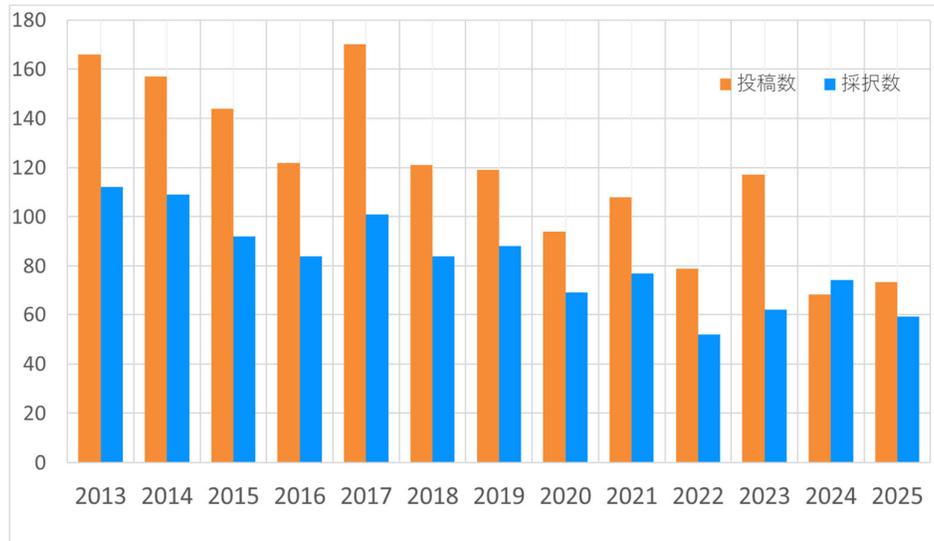
補欠代議員 (補欠候補員)

番号	氏名	所属
1	藤田 政之	金沢工業大学
2	結城 義敬	(公社)計測自動制御学会

7. 事業実績データ；

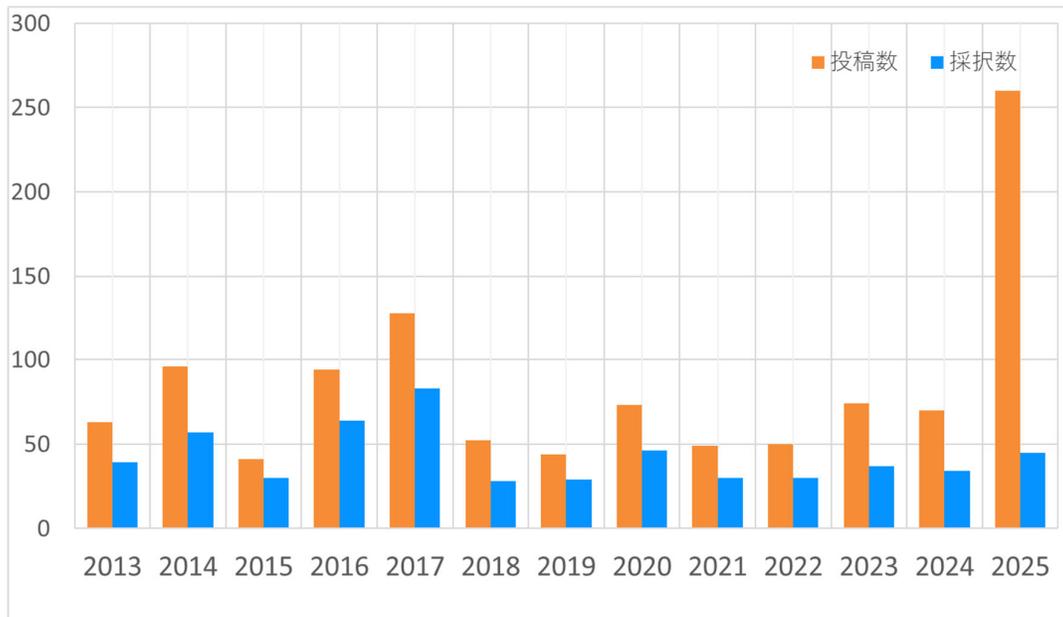
(1) 出版関係（論文集・会誌）

和文論文集の分投稿数、別採択数についての推移を示します。2025年度の投稿数はやや回復しましたが、前年度の投稿数が少なかったことから採択数が減少しました。



和文論文集の投稿数・採択数等の推移

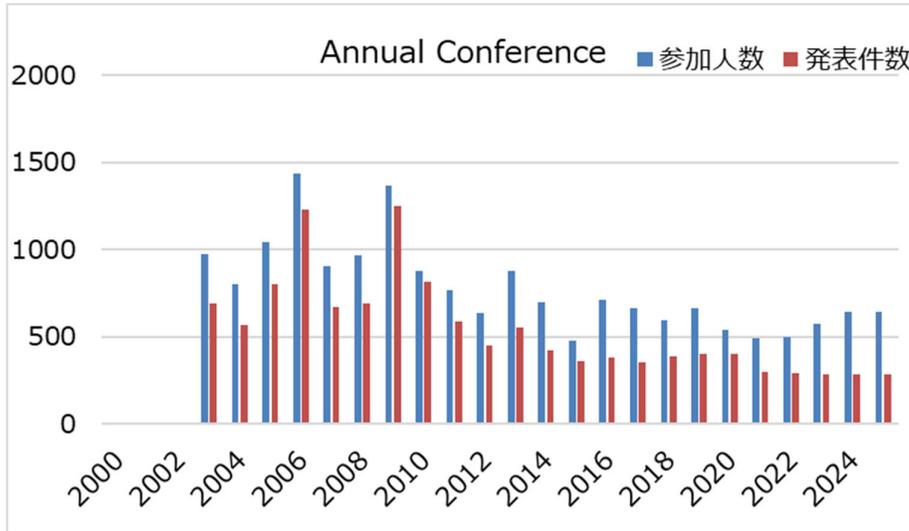
英文論文集の投稿数と採択数の推移を示します。2024年度はWeb of ScienceのCitation Indexを取得し、海外からの投稿数が激増し、採択数も増加しました。



英論の投稿数・採択数の推移

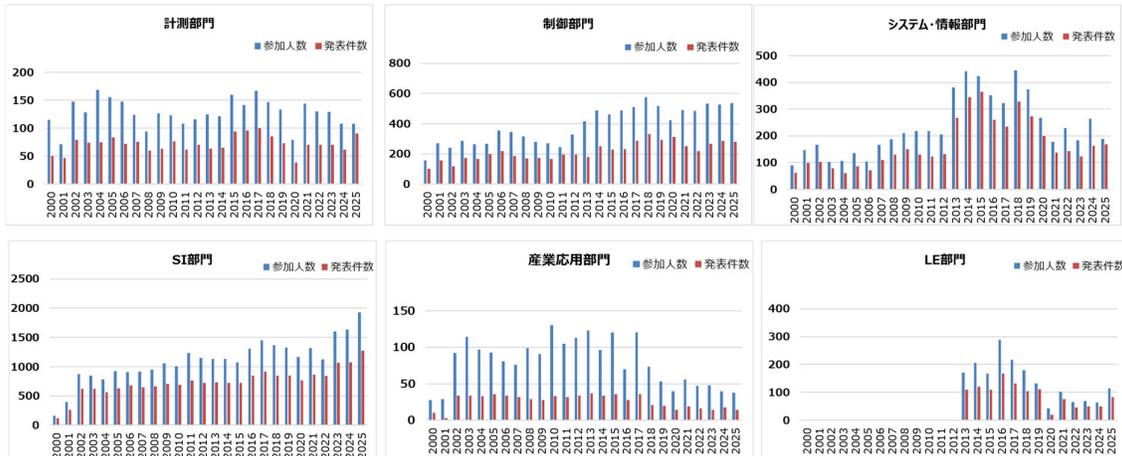
## (2) 学術会議関係

SICE Annual Conference の参加者数と発表件数の推移を示します。Joint Conference であった 2006 年 (SICE-ICCAS 2006) と 2009 年 (ICCAS-SICE 2009) を除くと、会員減少と新型コロナウイルス禍にの影響により参加者数が低迷していましたが、2023 年以降は実開催+オンラインのハイブリッド開催を行い、参加者数、発表数とも回復傾向です。さらに 2024 年度は大会名称を SICE Festival with Annual Conference に改め、参加者数がさらに増加しました。2025 年度はタイ (チェンマイ) での開催となりましたが参加者数、発表数ともほぼ前年並みの活況でした。



Annual Conference 参加者数・発表件数の推移

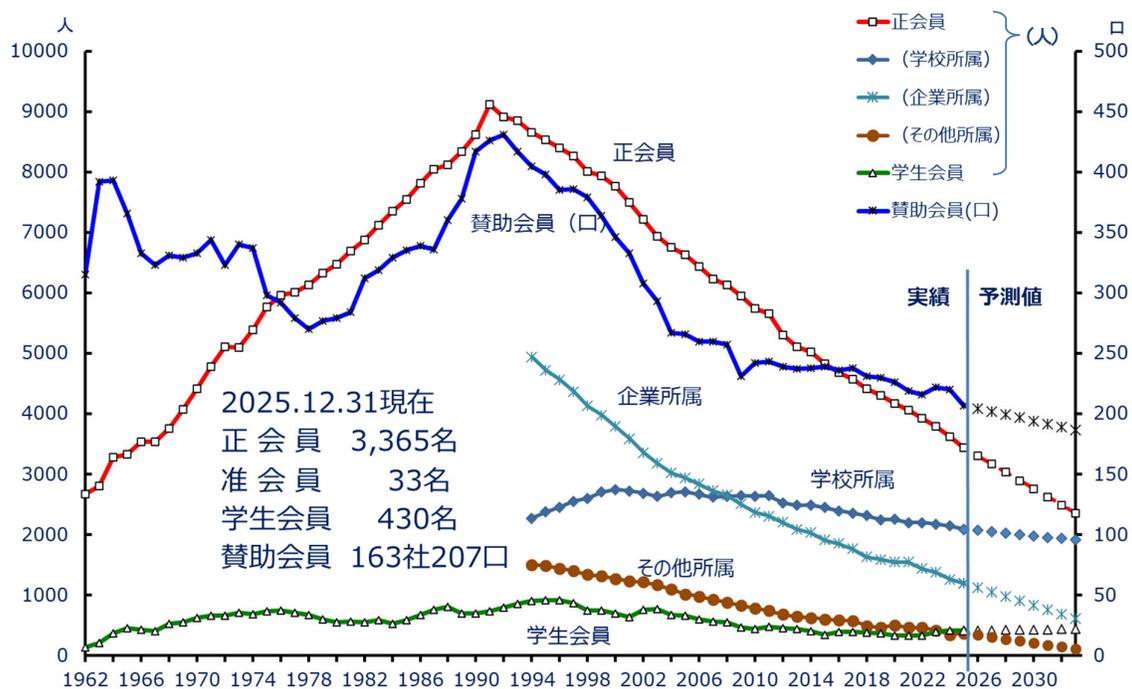
部門大会の参加者数と発表件数の推移を示します。SI 部門、LE 部門は参加者数、発表件数とも増加しました。計測部門は発表数が回復し、シス情部門は参加者数が減少、産業応用部門は参加者数、発表数とも前年並みでした。



部門大会参加者数と発表件数の推移

### (3) 会員数の推移

会員属性ごとの人数の推移を示します。正会員全体は減少し続けており、特に企業会員の減少に連動しています。賛助会員数、学校所属の会員数も減少しましたが、学生会員数はやや増加しました。



会員数の推移

	2025 年末現在	2024 年末現在	増減
正会員	3,365 名	3,622 名	▲257 名
名誉会員	44 名	44 名	-
准会員	33 名	24 名	9 名
学生会員	430 名	414 名	16 名
永年会員	164 名	158 名	6 名
賛助会員	163 社 (207 口)	175 社 (220 口)	▲12 社 (▲16 口)

### Ⅲ. 2025年度事業報告付属明細書

#### 1. 各組織の事業計画・実施報告

各委員会、部門、支部が策定した「2025年度事業計画・実施報告」を以下に示します。  
(現役職で作成)

番号	組織名	担当理事、部門長、支部長
01	総務委員会	業務執行理事 小松委員長、坂東副委員長、西尾副委員長
02	財務委員会	業務執行理事 小倉委員長、原田副委員長
03	企画委員会	業務執行理事 安井委員長、小松副委員長
04	学会賞委員会	業務執行理事 三平委員長
10	会誌出版委員会	業務執行理事 小木曾委員長、来海副委員長
11	和文論文集委員会	業務執行理事 亀崎委員長、永原副委員長
12	英文論文集委員会	業務執行理事 永原委員長、亀崎副委員長
13	カンファレンス委員会	業務執行理事 佐々木委員長、青山副委員長
14	インダストリ委員会	業務執行理事 安井委員長、手塚副委員長
15	メンバー委員会	業務執行理事 小野委員長、恩田副委員長
30	部門協議会	榊原議長、北田副議長
31	計測部門	大串部門長
32	制御部門	伊藤(博)部門長
33	システム・情報部門	小林部門長
34	システムインテグレーション部門	平田部門長
35	産業応用部門	澤田部門長
36	ライフエンジニアリング部門	田中部門長
50	支部協議会	池田議長、河合副議長
51	北海道支部	花島支部長
52	東北支部	張山支部長
53	中部支部	坂本支部長
54	北陸支部	伊藤(恒)支部長
55	関西支部	三輪支部長
56	中国支部	笠支部長
57	四国支部	前山支部長
58	九州支部	水本支部長

## 2025 年度事業計画・実施報告

組織名	総務委員会	担当	小松委員長 坂東副委員長、西尾副委員長
-----	-------	----	------------------------

2025 年度事業計画（本組織担当分）
0) SICE の存在意義の確認と「さいす学」の定義(0) 1) SICE の活動状況の把握及び短期的な計画の議論や意思決定(2,3,5,8) 2) 委員会活動、部門活動、支部活動の把握による学会活動の活性化(1,9,10,11,12,13) 3) 理事会・社員総会の適切な運営(4) 4) 事務局のマネジメント・事務局機能の強化(4) 5) 継続事業の合理化・デジタル化・アーカイブ化及び必要な事業の実施とコンプライアンスの遵守(3,4,6,7) 6) 会長・副会長の補佐及び他学協会との連携窓口(11,12)

2025 年度事業計画	2025 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <p><b>0) SICE の存在意義の確認と「さいす学」の定義</b>                      SICE の存在意義を確認し、それを外部に分かりやすく伝えるために「さいす学」を定義する。まずは、全組織（委員会・部門・部会・支部）に趣旨を伝え、議論を促す。</p> <p><b>1) SICE の活動状況の把握及び短期的な計画の議論や意思決定</b>                      財務、出版、会議開催（カンファレンス）の状況を適宜把握し、短期的な計画の議論や意思決定を総務委員会にて行う。                      判断を行う上で財務的な影響に重点を置き、判断根拠となる将来予測に必要なデータの集積を行う。</p> <p><b>2) 委員会活動、部門活動、支部活動の把握による学会活動の活性化</b>                      各委員会の理事等とのテーマを設定した議論、部門協議会への出席、支部協議会への総務理事の出席等を通して委員会活動、部門活動、支部活動を把握する。必要に応じて規程改正の共同提案等を行い、SICE 内の活動の活性化を図る。</p> <p><b>3) 理事会・社員総会の適切な運営</b>                      上記の 1) 2) の議論を踏まえ、理事会において重要な経営判断ができるよう、効率的に、かつ適切に運営を行う。3 月に開催される社員総会を適切に運営する。</p> <p><b>4) 事務局のマネジメント・事務局機能の強化</b>                      ・事務局員に対するフォロー                      ・シニア職員退職に伴う事務局員の業務分担及び業務量の適性化                      ・事務局員とのコミュニケーション向上</p> <p><b>5) 継続事業の合理化・デジタル化・アーカイブ化及び必要な事業の着実な実施とコンプライアンスの遵守</b></p>	<p>●1～6 月</p> <p><b>0) SICE の存在意義の確認と「さいす学」の定義</b>                      ・「さいす学」について「さいす学」検討 WG の設置を決定。</p> <p><b>1) SICE の活動状況の把握及び短期的な計画の議論や意思決定</b>                      ・総務委員会を下記日程で開催                          2/6, 3/7, 5/7, 6/25                      ・総務委員会引継ぎ会議(4/17)を開催し、SICE の課題（会誌等電子化、他委員会との連携対応、ダイバーシティ推進など）を確認。</p> <p><b>2) 委員会活動、部門活動、支部活動の把握による学会活動の活性化</b>                      ・部門協議会(4/23)、支部協議会(4/23)に出席                      ・部門と支部間の連携強化のための合同会議を同時に実施、参加。</p> <p><b>3) 理事会・社員総会の適切な運営</b>                      ・3/18 に定時社員総会、学会賞表彰式及び第 1 回理事会を開催                      ・第 2 回理事会を 5/9 に開催</p> <p><b>4) 事務局のマネジメント・事務局機能の強化</b>                      ・上期職員面談（4/24）を実施                      ・事務局長後任の募集を継続</p> <p><b>5) 継続事業の合理化・デジタル化・アーカイブ化及び必要な事業の着実な実施とコンプライアンスの遵守</b></p>

<p>総務委員会の傘下に構成した会誌等電子化準備委員会の活動を通じて、会誌・和文論文誌のデジタル化を推進する。また、Industry 委員会／メンバー委員会／SICE-DIA の活動と連携して、SICE 内の各種活動を把握して活動全体の合理化を行う。活動の実績が失われることなくアクセス可能とするためにデジタル化・アーカイブ化を進める。さらに、学会運営を効率化するために学会運営ワークフローの DX 化を検討する。全ての活動においてコンプライアンスを遵守する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会誌のデジタル化を実施し、7月号から発行予定。</li> <li>・和論のデジタル化に向けた電子化準備を継続。</li> <li>・行事の合理化に向け、SI 部門講演会発表審査評価登録・審査出席登録機能をデジタル化と同時に各部門のシステム統合が進むよう検討。</li> </ul>
<p><b>6) 会長・副会長の補佐及び他学協会との連携窓口</b>  会長・副会長の補佐を行う。他学協会との連携の際の窓口を務める。</p>	<p><b>6) 会長・副会長の補佐及び他学協会との連携窓口</b>  ・5/26 に ISCIE 連絡会議を実施</p>

2025 年度事業計画	2025 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p><b>0) SICE の存在意義の確認と「さいす学」の定義</b>  SICE の存在意義を確認し、それを外部に分かりやすく伝えるために「さいす学」を定義する。全組織（委員会・部門・部会・支部）での議論の結果を総務・企画でまとめる。</p> <p><b>1) SICE の活動状況の把握及び短期的な計画の議論や意思決定</b>  財務、出版、会議開催（カンファレンス）の状況を適宜把握し、短期的な計画の議論や意思決定を総務委員会にて行う。  判断を行う上で財務的な影響に重点を置き、判断根拠となる将来予測に必要なデータの集積を行う。</p> <p><b>2) 委員会活動、部門活動、支部活動の把握による学会活動の活性化</b>  各委員会の理事等とのテーマを設定した議論、部門協議会への出席、支部協議会への総務理事の出席等を通して委員会活動、部門活動、支部活動を把握する。必要に応じて規程改正の共同提案等を行い、SICE 内の活動の活性化を図る。</p> <p><b>3) 理事会・社員総会の適切な運営</b>  上記の 1) 2) の議論を踏まえ、理事会において重要な経営判断ができるよう、効率的に、かつ適切に運営を行う。3 月に開催される社員総会を適切に運営する。</p> <p><b>4) 事務局のマネジメント・事務局機能の強化</b>  ・事務局員に対するフォロー  ・シニア職員退職に伴う事務局員の業務分担及び業務量の適性化  ・事務局員とのコミュニケーション向上</p> <p><b>5) 継続事業の合理化・デジタル化・アーカイブ化及び必要な事業の着実な実施とコンプライアンスの遵守</b>  総務委員会の傘下に構成した会誌等電子化準備委員会の活動を通じて、会誌・和文論文誌のデジタル化を推進する。また、Industry 委員会／メンバー委員会／SICE-DIA の活動と連携して、SICE 内の各種活動を把握して活動全体の合理化を行う。活動の実績が失われることなくアクセス可能とするためにデジタル化・アーカイブ化を進める。さらに、学会運営を効率化するために学会運営ワークフローの DX 化を検討する。全ての活動においてコンプライアンスを遵守する。</p> <p><b>6) 会長・副会長の補佐及び他学協会との連携窓口</b></p>	<p>●7～12 月</p> <p><b>0) SICE の存在意義の確認と「さいす学」の定義</b>  ・SICE の存在意義を確認し、それを外部に分かりやすく伝えるために「さいす学」を拡大 WS にて議論し、議論結果を総務・企画にて取りまとめを行った。  ・外部へ伝える場として自動制御連合講演会にて「さいす学」OS を実施</p> <p><b>1) SICE の活動状況の把握及び短期的な計画の議論や意思決定</b>  ・総務委員会を下記日程で開催  7/15, 8/8, 9/17, 10/14, 11/12, 12/18  ・八役予算編成会議にて 25 年度決算、26 年度予算について確認（12/8）  ・SICE FES 2025 開催（9/9～12）</p> <p><b>2) 委員会活動、部門活動、支部活動の把握による学会活動の活性化</b>  ・第 2～4 回部門協議会(7/9、10/2、12/2)、第 2～4 回支部協議会(7/23、10/2、11/27)に出席</p> <p><b>3) 理事会・社員総会の適切な運営</b>  ・拡大理事 WS を 8/7～8/8 に開催  ・第 3 回理事会（8/8）第 4 回理事会（12/19）を開催</p> <p><b>4) 事務局のマネジメント・事務局機能の強化</b>  ・事務局長後任の募集を継続  ・職員給与、賞与、契約について審議</p> <p><b>5) 継続事業の合理化・デジタル化・アーカイブ化及び必要な事業の着実な実施とコンプライアンスの遵守</b>  ・会誌のデジタル化を実施し、7 月号から発行実施。  ・和論のデジタル化に向けた電子化準備を継続。  ・行事の合理化に向け、SI 部門講演会発表審査評価登録・審査出席登録機能をデジタル化と同時に各部門のシステム統合が進むよう検討。  ・メーリングリストシステムの刷新について検討。</p> <p><b>6) 会長・副会長の補佐及び他学協会との連携窓口</b></p>

会長・副会長の補佐を行う。他学協会との連携の際の窓口を務める。

・11/1にISCIE連絡会議を実施

## 2025 年度事業計画・実施報告

組織名	財務委員会	担当	小倉委員長、原田副委員長
-----	-------	----	--------------

2025 年度事業計画（本組織担当分）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SICE の存在意義と「さいす学」を定義する。（0.1）</li> <li>・ 特定費用準備資金の有効活用（1.2）</li> <li>・ 年間収支のモニタリング・分析に基づく、予算立案プロセス改善と中長期施策の立案、デジタル化の影響の見極め（5.1）</li> <li>・ 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守（6.1）</li> <li>・ アフターコロナにおける新たな学会活動スタイルの推進（6.2）</li> </ul>

2025 年度事業計画	2025 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <p><b>【定常業務】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 期末決算・事業報告作成（1～3 月）</li> <li>2. 期末決算・事業報告内閣府提出準備（3 月）</li> <li>3. 期末決算・事業報告 内閣府提出（3 月末）</li> <li>4. 新役員変更届内閣府提出（4 月末）</li> <li>5. 上期活動計画の見直し（4～6 月）</li> <li>6. 中間決算（6 月末）</li> </ol> <p><b>【財務基盤強化、業務見直し・効率化推進】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>7. 財務トレンドに基づく予算策定方法の検討</li> <li>8. 財務トレンドのさらなる可視化とデータ更新方法を含むデータ管理体制の検討</li> <li>9. 特定費用準備資金（国際・オープンサイス）の運用確認、見直し・修正を適宜実施</li> <li>10. 財務構造の見直し （受取会費の法人・公益配分比率、等）</li> <li>11. 収益事業新設の検討</li> </ol>	<p>●1～6 月</p> <p><b>【定常業務】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 期末決算・事業報告作成（1～3 月）</li> <li>2. 期末決算・事業報告内閣府提出準備（3 月）</li> <li>3. 期末決算・事業報告 内閣府提出（3 月末）</li> <li>4. 新役員変更届内閣府提出（4 月末）</li> <li>5. 上期活動計画の見直しは実施せず</li> <li>6. 中間決算について直轄委員会・部門・支部へ依頼</li> </ol> <p><b>【財務基盤強化、業務見直し・効率化推進】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>7. 財務トレンドに基づく予算策定方法の検討として、会員数減少を見越した収入予測、年次大会の利益の見直し、各部門・支部に対する収支、事務局人件費の動向を踏まえ、予算策定ガイドラインを策定した。</li> <li>8. 予算策定ガイドラインの策定に関連し、財務トレンドのさらなる可視化とデータ更新方法を含むデータ管理体制の検討を進めた。</li> <li>9. 各部門・支部との意見交換会の中で、特定費用準備資金の執行状況改善のために執行に向けた手順などの説明を行った。</li> <li>10. 各部門・支部との意見交換会の中で、活動の現状を把握するとともに、財務に関する要望を中心に意見聴取を行った。短期的な要望と中長期的な要望に分けて事業運営に反映し、財務構造の見直しにも繋げて行く。</li> <li>11. 収益事業新設の検討について、予算策定ガイドラインの策定に注力したため、下期に本格的に検討を行う予定である。</li> </ol>

2025 年度事業計画	2025 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p>【定常業務】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 上期活動計画・中間決算結果報告（7 月）</li> <li>2. 事業計画策定・予算策定（7～10 月）</li> <li>3. 事業計画・予算レビュー（11 月）</li> <li>4. 事業計画・予算内閣府提出準備（11～12 月）</li> <li>5. 事業計画・予算内閣府提出（12 月末）</li> <li>6. 期末決算（12 月）</li> </ol> <p>【財務基盤強化、業務見直し・効率化推進】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>7. 財務トレンドに基づく予算策定方法の検討</li> <li>8. 財務トレンドのさらなる可視化とデータ更新方法を含むデータ管理体制の検討</li> <li>9. 特定費用準備資金（国際・オープンサイス）の運用確認、見直し・修正を適宜実施</li> <li>10. 財務構造の見直し （受取会費の法人・公益配分比率、等）</li> <li>11. 収益事業新設の検討</li> </ol>	<p>●7～12 月</p> <p>【定常業務】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 上期活動計画・中間決算結果報告（7 月）</li> <li>2. 事業計画策定・予算策定（7～10 月）</li> <li>3. 事業計画・予算レビュー（11 月）</li> <li>4. 事業計画・予算内閣府提出準備（11～12 月）</li> <li>5. 事業計画・予算内閣府提出（12 月末）</li> <li>6. 期末決算（12 月）</li> </ol> <p>上記定常業務を実施時期に合わせて実行した。</p> <p>【財務基盤強化、業務見直し・効率化推進】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>7. 財務トレンドに基づく予算策定方法の検討として、過去の財務データを整理し、会費収入や事業収支など主要項目の複数年度にわたる推移を可視化し、分析を進めた。</li> <li>8. 中長期的な財務健全性を確保するため、予算策定の基礎となる財務データを体系的に分析し、財務トレンドの把握と整理を進めた。</li> <li>9. 特定費用準備資金（国際・オープンサイス）の利活用については、SICE FES 2025 や IROS 2025 をはじめ、積極的に活用されていることを確認した。また、国際主催共催会議推進資金については、IROS への SICE 貢献をさらに推進するため、来年度より本格的な運用を行う予定である。</li> <li>10. 会員数減による会費収入の減少トレンドを踏まえ、法人側の財務健全性を確保する観点から、受取会費の法人・公益配分比率の見直しについての検討を進めた。</li> <li>11. 公益法人法改正に伴い、収益事業新設については緊急性がなくなり、検討を見送った。</li> </ol>

## 2025 年度事業計画・実施報告

組織名	企画委員会	担当	安井委員長、小松副委員長
-----	-------	----	--------------

2025 年度事業計画（本組織担当分）
・ SICE ミッションの策定と各組織への展開

2025 年度事業計画	2025 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <p>委員会開催 委員の決定 委員会開催 2～3 回</p> <p>1. 学会活動の将来に向けた課題の洗い出しと整理 ・ 拡大理事ワークショップ（意見聴取または討議）のテーマ決定</p> <p>2. 2025 年度拡大理事ワークショップの準備 ・ 実施形態および日時の決定 （FES が 9/9～9/12 海外開催であるため、8 月頃の開催を予定）</p>	<p>●1～6 月</p> <p>第 1 回委員会開催（5/22）</p> <p>下記についての議論を実施</p> <p>1. 産学連携の強化(企業人参加の増加)に向けた施策</p> <p>2. 新会員/新賛助会員の獲得に向けた施策 ※ 中高生への『さいす学』/理系進路の魅力伝達、 現会員/現賛助会員の維持も含む</p> <p>3. SICE 全体の FES 化</p>

2025 年度事業計画	2025 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p>委員会開催：2～3 回</p> <p>1. 2025 年度拡大理事ワークショップの実施 ・直轄委員会委員長、部門長、支部長への意見聴取または討議を実施（8 月開催を予定）</p> <p>2. 2025 年度 SICE 中期的課題と事業計画へ展開 ・拡大理事ワークショップの結果を受け、中期的課題の更新、事業計画の策定を実施（10 月） ・各組織へ度事業計画の提出を依頼し、理事会での提案を実施（12 月）</p>	<p>●7～12 月</p> <p>第 2 回、第 3 回委員会開催（7/7、7/28）</p> <p>下記についての議論を実施</p> <p>1. 拡大ワークショップへ「SICE における部門を超えた SICE 横断活動として“フィジカル AI”活動の提案</p> <p>2. 新会員/新賛助会員の獲得に向けて、会員数がへっている SICE や ISCIE と会員数が増え続けている人工知能学会、横ばいのロボット学会との学会の特徴・状況の比較</p> <p>3. 拡大理事ワークショップの開催(議論内容,段取り,etc.)</p> <p>2025 年度拡大理事ワークショップの開催</p> <p>下記の 3 つのフォーカスにて「SICE における Physical AI へ向けた活動」に関して議論</p> <p>Gr. 1. SICE 会員増を目指すディスカッション 中高生に向けた施策，企業に向けた施策を含む</p> <p>Gr. 2. 産学連携・企業間連携</p> <p>Gr. 3. 部門間・支部間・部門-支部間連携</p> <p>SICE SI 2025 における特別展示企画を実施</p> <p>テーマ 1 「さいす学とは」 会長・副会長の考える「さいす学」のパネル展示</p> <p>テーマ 2 「さいす学 X フィジカル AI」 AI Formula AI ベース安全支援システム@バイクのライブデモ</p> <p>2026 年度に向けた「さいす学」・「ふえす化」・「フィジカル AI 活動」に関する各種提案と準備活動の実施</p>

## 2025 年度事業計画・実施報告

組織名	学会賞委員会	担当	三平委員長
-----	--------	----	-------

2025 年度事業計画（本組織担当分）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SICE の存在意義と「さいす学」を定義する (0.1)</li> <li>・ 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守 (6.1)</li> <li>・ アフターコロナにおける新たな学会活動スタイルの推進 (6.2)</li> <li>・ 社会貢献を推進する表彰制度の実施 (7.2)</li> <li>・ 若手及び中堅会員への活動支援の実施（表彰制度、会員情報の整備及びそれを活用した支援）(9.2)</li> </ul>

2025 年度事業計画	2025 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <p>1) 2024 年度学術奨励賞の選考作業および贈賞、結果の Web 掲載</p> <p>2) 2024 年度優秀学生賞の募集および贈賞</p> <p>3) (他団体表彰) 2024 年度油空圧機器技術振興財団論文顕彰への推薦論文選考作業</p> <p>4) 2025 年度学会賞（論文賞、技術賞、著述賞、新製品開発賞、教育貢献賞、国際標準化賞、サステイナブル社会貢献賞、若手学会貢献賞）の選考作業</p> <p>5) (他団体表彰) 2025 年度 FA 財団論文賞への推薦論文選考作業</p> <p>6) (他団体表彰) 島津科学技術振興財団論文賞への推薦作業</p> <p>7) (功績賞選考委員会) 2025 年度功績賞授与候補者選考作業</p> <p>8) (フェロー選考委員会) 2025 年度フェロー称号授与候補者選考作業</p> <p>9) SICE FES 2025 Annual Conference Award 選考作業</p> <p>10) (随時) 部門等からの SICE Young Authors Award 募集要項提案の検討・承認および理事会への提案</p> <p>11) (随時) 各部門・部会等が所掌する研究奨励賞等の Web 掲載作業</p>	<p>●1～6 月</p> <p>1) 2024 年度学術奨励賞として 15 件を選考、3 月 18 日の定時社員総会時に贈賞を行った。</p> <p>2) 2024 年度優秀学生賞を募集、416 名に賞状を贈呈した。</p> <p>3) 油空圧機器技術振興財団へ 1 件の論文を推薦し、2024 年度の贈賞が決定した。</p> <p>4) 2025 年度学会賞の選考を実施、論文賞 10 件、技術賞 4 件、著述賞 3 件、新製品開発賞 3 件、教育貢献賞 1 件、国際標準化賞 1 件、若手学会貢献賞 2 件の贈賞を決定した。</p> <p>5) FA 財団への推薦論文の選考作業を実施、2 件の論文の推薦を行った。</p> <p>6) 今年度は推薦がなかった。</p> <p>7) 授与候補者として 1 名の推薦があり、選考委員会による審査の結果、贈賞を決定した。</p> <p>8) 授与候補者として 3 名の推薦があり、選考委員会による審査の結果、贈賞を決定した。</p> <p>9) 学会賞副委員長を中心に委員会内に選考委員会を立ち上げ、選考作業を開始した。</p> <p>10) SIYA-IROS2025、SIYA-SII2026 の実施提案が SI 部門よりあり、委員会での検討・承認後、総務委員会に審議を依頼した。</p> <p>11) 随時対応中</p>

2025 年度事業計画	2025 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p>1) SICE FES 2025 Annual Conference Award 選考作業および贈賞</p> <p>2) 2025 年度学会賞（論文賞、技術賞、著述賞、 新製品開発賞、教育貢献賞、国際標準化賞、サス テナブル社会貢献賞、若手学会貢献賞）の贈 賞、結果の Web 掲載</p> <p>3) (功績賞選考委員会) 2025 年度功績賞の贈 賞、結果の Web 掲載</p> <p>4) (フェロー選考委員会) 2025 年度フェロー称 号の授与、結果の Web 掲載</p> <p>5) (随時) 部門等からの SICE Young Authors Award 募集要項提案の検討・承認および理事会 への提案</p> <p>6) 学会賞委員会、各部門、各支部が所掌する賞 の整理と見直し</p> <p>7) (随時) 各部門・部会等が所掌する研究奨励賞 等の Web 掲載作業</p> <p>8) 各賞の選考作業の見直し</p> <p>9) 2025 年度学術奨励賞の選考作業</p> <p>10) 2026 年度学会賞（論文賞、技術賞、著述 賞、新製品開発賞、教育貢献賞、国際標準化 賞、サステイナブル社会貢献賞、若手学会貢献 賞）受賞候補の推薦募集</p> <p>11) 2026 年度功績賞授与候補者の推薦募集</p> <p>12) 2026 年度フェロー称号授与候補者の推薦募 集</p>	<p>●7～12 月</p> <p>1) SICE FES 2025 Annual Conference Award として 3 件を選考、9 月 12 日の Closing Ceremony において贈賞を行った。</p> <p>2) 2025 年度学会賞として論文賞 10 件、技術賞 4 件、著述賞 3 件、新製品開発賞 3 件、教育貢献 賞 1 件、国際標準化賞 1 件、若手学会貢献賞 2 件を選考、8 月 29 日、東京理科大学理窓会にお いて贈賞を行った。</p> <p>3) 2025 年度功績賞として 1 名を選考、8 月 29 日、東京理科大学理窓会において贈賞を行った。</p> <p>4) 2025 年度フェロー称号として 3 名を選考、8 月 29 日、東京理科大学理窓会において贈賞を行 った。</p> <p>5) 随時対応中</p> <p>6) 今年度は実施しなかった。</p> <p>7) 各部門・部会等が所掌する研究奨励賞等の Web 掲載を随時実施した。</p> <p>8) 今年度は実施しなかった。</p> <p>9) 2025 年度学術奨励賞の選考作業を実施した。</p> <p>10) 2026 年度学会賞（論文賞、技術賞、著述 賞、新製品開発賞、教育貢献賞、国際標準化賞、 サステイナブル社会貢献賞、若手学会貢献賞）受 賞候補の推薦募集案内を、会誌会告およびホーム ページに掲載した。</p> <p>11) 2026 年度功績賞授与候補者の推薦募集案内 を、会誌会告およびホームページに掲載した。</p> <p>12) 2026 年度フェロー称号授与候補者の推薦募 集案内を、会誌会告およびホームページに掲載し た。</p>

## 2025 年度事業計画・実施報告

組織名	会誌出版委員会	担当	小木曾委員長・来海副委員長
-----	---------	----	---------------

2025 年度事業計画（本組織担当分）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SICE の存在意義と「さいす学」を定義する(0.0)</li> <li>・ 会誌のあり方の見直し、デジタル化の推進(3.2)</li> <li>・ 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守 (6.1)</li> <li>・ アフターコロナにおける新たな学会活動スタイルの推進(6.2)</li> </ul>

2025 年度事業計画	2025 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <p>1.学会誌特集の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特集企画・記事の公募，タイムリーな特集記事出版の検討。</li> <li>・ 企業会員にも魅力的なテーマ選定、キーワード解説の充実</li> <li>・ 多面的な側面から SICE の研究領域を捉えた特集の充実</li> <li>・ 企業研究者/エンジニア、産業応用大学研究者による産業応用記事の充実に向けた体制検討</li> <li>・ 女性研究者、若手研究者(40 歳以下)を紹介する“FACE the future” の人選と継続</li> </ul> <p>2.計測・制御セレクションシリーズの出版・企画継続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前年度に企画・公募した計測・制御セレクションシリーズの出版。</li> <li>・ 新たな公募テーマの企画</li> <li>・ 出版継続体制構築に向けた出版担当委員選出方法を引き続き議論（必要に応じて総務委員会と連携）</li> </ul> <p>3.学会誌のあり方検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特集企画回数を適正化，持ち込み特集企画・投稿原稿・SICE 活動報告等のタイムリーな企画導入活性化を引き続き検討する</li> <li>・ 電子出版化・冊子合本化など会誌出版の在り方を継続して検討する（PATF の答申に沿って検討）</li> <li>・ SICE や会誌に対する会員の意見を会誌の記事構成や内容に反映させる方策の検討を開始する</li> </ul> <p>4.会誌出版体制の長期的持続のための運営体制</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 理事・委員の選出方法，部門に対する負荷分担の在り方等について，継続して検討する（PATF の答申に沿って検討）</li> </ul>	<p>●1～6 月</p> <p>1.学会誌特集の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会的・技術的に関心の高い研究分野についての特集号を企画し，出版ないし編修を進めた。</li> <li>・ 企業会員が主体となり，産学連携のメリットと活性化を促す，魅力的なテーマを選定・企画した。</li> <li>・ 多面的な側面から SICE を知らしめる記事の企画・調整を視野に入れた特別会誌出版委員会の開催を計画した。</li> <li>・ 女性研究者，若手研究者(40 歳以下)を紹介する“FACE the future” を継続して企画・掲載した。</li> <li>・ 特集号企画の一般公募を行い，1 件が採択された。</li> </ul> <p>2.計測・制御セレクションシリーズの出版・企画継続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前年度までの公募・打診企画 2 件の出版に向け作業中。</li> <li>・ 次年度に向けて新たな企画公募の準備を進めた。</li> </ul> <p>3.学会誌のあり方検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特集企画回数を適正化，持ち込み特集企画・投稿原稿・SICE 活動報告等のタイムリーな企画導入活性化の実現性や方法などを検討中</li> <li>・ PATF 答申についての実現性や方法などを引き続き検討し，2025 年 7 月の電子版会誌の試験公開，および 2026 年 1 月の本公開に向けて準備中。</li> <li>・ 会員意見の反映方策として，会誌規約・規定の一部見直しについて検討を始めた。</li> </ul> <p>4.会誌出版体制の長期的持続のための運営体制</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事務局での出版業務効率化の一環として，外部出版業者に出版業務の委託継続中。</li> <li>・ 理事・委員の選出，部門への負荷分散等については，学会誌のあり方検討を先行させており，この方向性がある程度見えることにより検討の位置づけとし，一旦保留中。</li> </ul>

2025 年度事業計画	2025 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p>1.学会誌特集の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業会員にも魅力的なテーマ選定、キーワード解説の充実</li> <li>・多面的な側面から SICE の研究領域を捉えた特集の充実</li> <li>・企業研究者/エンジニア、産業応用大学研究者による産業応用記事の充実に向けた体制検討</li> <li>・女性研究者、若手研究者(40 歳以下)を紹介する“FACE the future” の人選と継続</li> </ul> <p>2.計測・制御セレクションシリーズの出版・企画継続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度に企画・公募した計測・制御セレクションシリーズの出版。</li> <li>・新たな公募テーマの応募案件の推進</li> <li>・出版継続体制構築に向けた出版担当委員選出方法を引き続き議論（必要に応じて総務委員会と連携）</li> </ul> <p>3.学会誌のあり方検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電子出版を主体とした会誌の発行体制を第 64 巻第 7 月号又はそれ以降より試験的に開始する</li> <li>・特集企画回数を適正化、持ち込み特集企画・投稿原稿・SICE 活動報告等のタイムリーな企画導入活性化を引き続き検討する</li> <li>・SICE や会誌に対する会員の意見を会誌の記事構成や内容に反映させる方策を検討引き続き検討する</li> </ul> <p>4.会誌出版体制の長期的持続のための運営体制</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理事・委員の選出方法、部門に対する負荷分担の在り方等について、継続して検討する（PATF の答申に沿って検討）</li> </ul>	<p>●7～12 月</p> <p>1.学会誌特集の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的・技術的に関心の高い研究分野についての特集号を企画し、出版ないし編集を進めた</li> <li>・多面的な側面から SICE を知らしめる記事の企画・調整を視野に入れた特別会誌出版委員会を開催した</li> <li>・2026 年 1 月からの電子版会誌の移行に向けて、下半期において会誌電子版の無料試験公開を行った。</li> <li>・女性研究者、若手研究者(40 歳以下)を紹介する“FACE the future”を継続して企画・掲載した</li> <li>・「さいす学・ふえす化」に関する特別特集号(2026 年 3 月掲載)を新たに企画した</li> </ul> <p>2.計測・制御セレクションシリーズの出版・企画継続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2025 年度の企画を公募し、1 件選定した</li> <li>・次年度に向けて新たな企画公募の準備を進めた</li> </ul> <p>3.学会誌のあり方検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特集企画回数を適正化、持ち込み特集企画・投稿原稿・SICE 活動報告等のタイムリーな企画導入活性化の実現性や方法などを検討中</li> <li>・PATF 答申についての実現性や方法などを検討。その一環として前期に引き続き電子化準備委員会等を通して会誌の電子出版の具体的方法を検討した</li> <li>・原稿執筆料の見直しに向けて、価格カテゴリーの改定を行い、新たな執筆料金の検討を始めた</li> </ul> <p>4.会誌出版体制の長期的持続のための運営体制</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学会誌のあり方検討を先行させており、この方向性がある程度見えることにより検討の位置づけとし、一旦保留中</li> </ul>

## 2025 年度事業計画・実施報告

組織名	和文論文集委員会	担当	亀崎委員長、永原副委員長
-----	----------	----	--------------

2025 年度事業計画（本組織担当分）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・和文論文集の着実な発行</li> <li>・編集にかかる業務の内容・方法、運営についての効率化と投稿数増加に向けて不断の見直し</li> <li>・論文投稿数増加に向けての、論文集の魅力向上策の検討と策定および情報発信</li> <li>・学会デジタル化への対応</li> <li>・継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守</li> </ul>

2025 年度事業計画	2025 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <p>1 和文論文集の着実な発行</p> <p>1.1 EiC は論文の投稿・編集・出版状況を各論文集委員会で報告し、担当理事は理事会にそれを報告する</p> <p>1.2 和文論文集編集委員会を開催し、E および AE に採択基準・査読方針を徹底する</p> <p>1.3 編集委員会（EB）は、編集から発行まで、和文誌編集の実務について維持・発展のため意見交換・議論を行い、必要に応じて特集号を企画する</p> <p>1.4 論文の投稿・査読・編集・出版状況を解析し、投稿数増加のための方策・編集手順を確認・検討する</p> <p>1.5 事務局担当者との連携について状況を確認し必要な修正を行う</p> <p>1.6 交代期の E、AE について確認しスムーズな移行を図る。委嘱状の発送も適宜行う</p> <p>2 編集にかかる業務の内容・方法、運営についての効率化と投稿数増加に向けて不断の見直し</p> <p>2.1 和文と英文それぞれの論文集編集委員会の活動状況を相互に確認し、業務内容・役割分担を明確にすることによって論文投稿数の向上を目指す</p> <p>2.2 学会のデジタル化の方針に沿って和文論文集発行にかかるすべての業務について必要な作業を洗い出し、必要な修正を行い、実施する</p> <p>2.3 和文誌の魅力を高める方策について検討しデジタル化との相乗効果を高める</p> <p>2.4 投稿環境を整えるため、論文テンプレートの更新、提出方法・手順を整える</p> <p>3 論文投稿数増加に向けての、論文集の魅力向上策の検討と策定および情報発信</p> <p>3.1 論文集委員会を開催し、編集方針を確認するとともに、魅力向上策などについて検討する</p> <p>3.2 投稿勧誘のための論文セミナーの計画と実施</p>	<p>●1～6 月</p> <p>1 和文論文集の着実な発行</p> <p>1.1 EiC からは論文の投稿・編集・出版状況を各論文集委員会の報告、担当理事からは理事会へのそれらの報告があった。</p> <p>1.2 4 月 25 日に、和文論文集編集委員会を開催し、E および AE に採択基準・査読方針を徹底した。</p> <p>1.3 編集委員会（EB）で、和文誌編集の実務について維持・発展のため意見交換・議論を行った。</p> <p>1.4 論文の投稿・査読状況等を分析し、投稿数増加のための方策について議論した。</p> <p>1.5 事務局担当者との連携について状況を確認しながら進めた。</p> <p>1.6 交代期の E、AE についてスムーズな移行を図り、委嘱状の発送も適宜行った。</p> <p>2 編集にかかる業務の内容・方法、運営についての効率化と投稿数増加に向けて不断の見直し</p> <p>2.1 和文と英文それぞれの論文集編集委員会の活動状況を相互に確認しながら、論文投稿数の向上について模索している。</p> <p>2.2 学会のデジタル化の方針に沿って必要な作業を洗い出しているところである。</p> <p>2.3 和文誌の魅力を高める方策について検討している。</p> <p>2.4 投稿環境を整えるため、論文テンプレートの更新、提出方法・手順を整える作業を段取りしているところである。</p> <p>3 論文投稿数増加に向けての、論文集の魅力向上策の検討と策定および情報発信</p> <p>3.1 論文集委員会を開催し、編集方針を確認するとともに、魅力向上策などについて議論を行った。</p> <p>3.2 今後進めていく予定である。</p>

<p>4 学会デジタル化への対応 See 2.2, 2.3</p> <p>5 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守</p> <p>6 外注業者から論文の投稿・編集・出版状況の入手と解析（1～2月）、理事会への報告</p>	<p>4 学会デジタル化への対応 2.2, 2.3を参照されたい.</p> <p>5 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守 順守して進めている.</p> <p>6 外注業者から論文の投稿・編集・出版状況の入手と解析（1～2月）、理事会への報告後期に実施を検討している.</p>
--	--

2025 年度事業計画	2025 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p>1 和文論文集の着実な発行</p> <p>1.1 EiC は論文の投稿・編集・出版状況を各論文集委員会で報告し、担当理事は理事会にそれを報告する</p> <p>1.2 和文論文集編集委員会を開催し、E および AE に採択基準・査読方針を徹底する</p> <p>1.3 編集委員会（EB）は、編集から発行まで、和文誌編集の実務について維持・発展のため意見交換・議論を行い、必要に応じて特集号を企画する</p> <p>1.4 論文の投稿・査読・編集・出版状況を解析し、投稿数増加のための方策・編集手順を確認・検討する</p> <p>1.5 事務局担当者との連携について状況を確認し必要な修正を行う</p> <p>2 編集にかかる業務の内容・方法、運営についての効率化と投稿数増加に向けて不断の見直し</p> <p>2.1 和文と英文それぞれの論文集編集委員会の活動状況を相互に確認し、業務内容・役割分担を明確にすることによって論文投稿数の向上を目指す</p> <p>2.2 学会のデジタル化の方針に沿って和文論文集発行にかかるすべての業務について必要な作業を洗い出し、必要な修正を行い実施し、デジタル化への以降を確実なものとする。</p> <p>2.3 和文誌の魅力高める方策について検討しデジタル化との相乗効果を高める</p> <p>2.4 投稿環境を整えるため、論文テンプレートの更新、提出方法・手順を整える</p> <p>3 論文投稿数増加に向けての、論文集の魅力向上策の検討と策定および情報発信</p> <p>3.1 論文集委員会を開催し、編集方針を確認するとともに、魅力向上策などについて検討する</p> <p>3.2 投稿勧誘のための論文セミナーの計画と実施</p> <p>4 学会デジタル化への対応 See 2.2, 2.3</p> <p>5 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守</p> <p>6 外注業者から論文の投稿・編集・出版状況の入手と解析（7～8 月）、理事会への報告</p>	<p>●7～12 月</p> <p>1 和文論文集の着実な発行</p> <p>1.1 EiC からは論文の投稿・編集・出版状況を各論文集委員会の報告、担当理事からは理事会へのそれらの報告があった。</p> <p>1.2 7 月 10 日に、和文論文集編集委員会を開催し、E および AE に採択基準・査読方針を徹底した。</p> <p>1.3 編集委員会（EB）で、和文誌編集の実務について維持・発展のため意見交換・議論を行った。</p> <p>1.4 論文の投稿・査読状況等を分析し、投稿数増加のための方策（部門講演会原稿の投稿など）について議論した。</p> <p>1.5 事務局担当者との連携について状況を確認しながら進めた。</p> <p>2 編集にかかる業務の内容・方法、運営についての効率化と投稿数増加に向けて不断の見直し</p> <p>2.1 和文と英文それぞれの論文集編集委員会の活動状況を相互に確認しながら、論文投稿数の向上について模索している。</p> <p>2.2 学会のデジタル化の方針に沿って必要な作業を洗い出しているところである。</p> <p>2.3 和文誌の魅力高める方策について検討している。</p> <p>2.4 作業の段取りしているところである。</p> <p>3 論文投稿数増加に向けての、論文集の魅力向上策の検討と策定および情報発信</p> <p>3.1 論文集委員会を開催し、編集方針を確認するとともに、魅力向上策などについて議論を行った。</p> <p>3.2 いくつかの部門講演会(SI 部門等)で実施。</p> <p>4 学会デジタル化への対応 See 2.2, 2.3</p> <p>5 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守</p> <p>6 外注業者から論文の投稿・編集・出版状況の入手と解析（7～8 月）、理事会への報告</p>

## 2025 年度事業計画・実施報告

組織名	英文論文集委員会	担当	永原委員長、亀崎副委員長
-----	----------	----	--------------

2025 年度事業計画（本組織担当分）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英文論文集の経営外部委託による編集から発行までの運営の定常化</li> <li>・ 事務局人員削減に対応した論文集発行と委員会運営の構造の確立</li> <li>・ 英文論文集の国際的評価基準（Citation Index, Impact Factor）獲得へ向けた活動の継続</li> <li>・ 論文投稿数の減少の防止と、増加を狙った活動の促進</li> <li>・ 和英分離の新論文集委員会体制に沿った他委員会との連携法の整理と定着化</li> <li>・ 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守</li> </ul>

2025 年度事業計画	2025 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <p>1. 和英分離の新論文集委員会による事業体制の確立</p> <p>1-1 和文論文集委員会と英文論文集委員会を確立</p> <p>① 2月の委員会開催まで、旧論文集委員長が両委員会の委員長を務める。各旧副委員長は、副委員長として両委員会に出席する。</p> <p>② 3月の委員会開催から、和文担当理事が和文論文集委員会の委員長、英文担当理事が英文論文集委員会の委員長を務め、両者が他方の論文の副委員長となり出席する。新しい論文担当理事（和を主担当）は両論文集の2名目の副委員長となる。</p> <p>③ 各論文担当理事は2年間続けて片方の論文集の主担当となり、他方の論文集の運営を把握サポートする。</p> <p>④ 外注と経営外部委託が違い、および、著者と読者の層が全く異なる両論文集の性格に合わせ、論文集の維持発展を図る SICE から環境提供について議論し、各論文集委員会は SICE と和文編集委員会、および、JCMSI Editorial Board(EB)をつなげる。</p> <p>⑤ 各 EiC は論文の投稿・編集・出版状況を各論文集委員会で報告し、担当理事は理事会にそれを報告する。</p> <p>⑥ 論文賞等、和英分離の新論文集委員会体制に沿った他委員会業務への協力窓口・体制の明確化する。</p> <p>1.2 新論文集委員会の体制下での各編集委員会(EB)を確立</p> <p>① 和論文と英論文の EiC は、それぞれ和文編集委員会と和文編集委員会と JCMSI EB を開催し、各論文の論文集委員長と副委員長も出席する。</p> <p>② 各編集委員会(EB)は、編集から発行まで、維持・発展のための実務について意見交換・議論を行い、特集号を企画する。</p> <p>③ 論文の投稿・編集・出版状況を解析し、投稿数増加のための採択基準と、編集手順を確認・検討する。</p>	<p>●1～6 月</p> <p>1. 和英分離の新論文集委員会による事業体制の確立</p> <p>1-1 和文論文集委員会と英文論文集委員会を確立</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2月3日に2024年度第3回英文論文集委員会を開催した。</li> <li>・ 4月11日に第1回和文論文集委員会を開催された。</li> <li>・ 4月15日に第1回英文論文集委員会を開催され、和文論文集委員長が出席した。</li> <li>・ T&amp;F社のRichard Goodman氏とメールにて密に連絡を取り合い、情報の共有などを行なった。</li> <li>・ T&amp;F社からのレポートにもとづき、EiCから論文の投稿・編集・出版状況の報告が行われた。</li> <li>・ 計測部門論文賞の選考における協力の要請があり、必要最小限の情報のみ閲覧していただく方法で協力した。</li> </ul> <p>1.2 新論文集委員会の体制下での各編集委員会(EB)を確立</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ EiC 主導のもと、引き続き EB の強化と国際化を進めている。</li> <li>・ 日本語・英語に分けたメーリングリストを運用している。極力英語 ML を使うこととしている。</li> <li>・ EiC 主導のもと、JCMSI Editorial Procedures を参照しながら採択基準と編集手順を確認している。</li> </ul>

<p>2. 事務局人員削減と和文外注・英文委託、および、新論文集委員会となった事業運営体制に対応した SICE 事務局業務の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・和文論文集委員会、英文論文集委員会、和文論文集編集委員会、JCMSI Editorial Board の名簿を管理し、委嘱状発送する（2月末）。</li> <li>・理事会や他の委員会・会員に対する論文集委員会事項の連携窓口 となる。</li> </ul> <p>3. 英文論文集の発行</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンアクセスによる論文毎の着実な発行と、コンプライアンスの順守</li> <li>・新しい EiC 体制における T&amp;F への経営委託による論文受付から発行作業までの定着化</li> <li>・投稿数増加のための採択基準と、編集手順の確認</li> <li>・2025 年 AC 特集号の発行、および、その他の特集号の実施と計画</li> <li>・論文セミナー実施による投稿の勧誘</li> <li>・論文投稿数増加を目指した、英文校正サービス補助制度の確立</li> <li>・Editorial Board の国際性の強化</li> <li>・招待論文を利用した国際性と知名度の強化</li> <li>・文献引用データベースの評価基準の獲得へ向けた</li> </ul> <p>T&amp;F との方針の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・T&amp;F が提供する戦略的各種サービスの検討</li> <li>・T&amp;F からの投稿・編集・出版状況の入手と解析（1～2月）と、理事会への報告</li> </ul> <p>4. Outstanding Reviewer 表彰の新設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・査読者へのインセンティブを強化するため査読者に対する賞を新設する</li> </ul>	<p>2. 事務局人員削減と和文外注・英文委託、および、新論文集委員会となった事業運営体制に対応した SICE 事務局業務の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英文論文集委員会 JCMSI Editorial Board の名簿を管理し、委嘱状を発行した（事務局）。</li> <li>・英文論文集委員会のスケジュール管理や出欠管理を実施した（事務局）。</li> </ul> <p>3. 英文論文集の発行</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SICE FES 特集号の他、IEEE/SICE SII、SICE ISCS 特集号を企画している。</li> <li>・英文論文誌への投稿促進のため、会員サービスとして英文校正費用の補助を引き続き行っている。ただ、利用が少ないため、利用者を増やせるように周知を行うこととした。</li> <li>・SICE FES から依頼があり、JCMSI に掲載済みまたは採択済みの論文を、SICE FES において発表することができるカンファレンスオプションの提案があり、了承した。</li> <li>・海外からの投稿が増えているが、迅速に論文ハンドリングを行うため、AE がリジェクト判定することを可能とした。</li> <li>・Editorial Board の国際化のため積極的な推薦をお願いしている。ただし海外からの自己推薦については注意が必要である。</li> <li>・海外からの特集号の企画も注意する。Pubpeer 等を利用する。</li> </ul> <p>海外研究期間所属の著者による invited survey paper を企画し、掲載料無料のクーポンを利用することとなった。</p> <p>4. Outstanding Reviewer 表彰の新設</p> <p>Outstanding Reviewer 表彰について規程を定め、今年度の運用開始を目指した準備を行った。</p>
---	---

2025 年度事業計画	2025 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p>1. 和英分離の新論文集委員会による事業体制の定着化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Annual Conference の時期に合わせた、両論文委員会および両編集委員会(EB)の開催</li> <li>・ 両論文集委員会と両論文集編集委員会(EB)の取り扱い事項の整理と、会議回数等の見直しの検討</li> </ul> <p>2. SICE 事務局による事業サポート業務の定着化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 両論文委員会のサポート、および、両編集委員会(EB)も含めた名簿の管理と委嘱状発行</li> </ul> <p>3. 英文論文集の発行</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ オープンアクセスによる論文毎の着実な発行と、コンプライアンスの順守</li> <li>・ 投稿数増加のための採択基準と、編集手順の確認</li> <li>・ 2025 年 AC 特集号の企画、および、その他の特集号の実施と計画</li> <li>・ 論文投稿数増加を目指した、英文校正サービス補助制度の実施</li> <li>・ 招待論文を利用した国際性と知名度の強化</li> <li>・ 文献引用データベースの評価基準の獲得へ向けた T&amp;F とのスケジュールと戦略の検討</li> <li>・ T&amp;F が提供する戦略的各種サービスの検討</li> <li>・ T&amp;F からの投稿・編集・出版状況の入手と解析(8～9 月)、理事会への報告</li> </ul>	<p>●7～12 月</p> <p>1. 和英分離の新論文集委員会による事業体制の定着化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 7 月 10 日に 2025 年度第 2 回和文論文集委員会が開催され、英文論文集委員長が出席した。</li> <li>・ 7 月 14 日に 2025 年度第 2 回英文論文集委員会を開催した。</li> <li>・ 10 月 1 日に JCMSI Editorial Board Meeting を開催した。</li> </ul> <p>2. SICE 事務局による事業サポート業務の定着化</p> <p>英文論文集委員会開催に係る日程調整や資料取りまとめの事務作業について、事務局によるサポートは定着し、着実に業務効率化が進んでいる。</p> <p>3. 英文論文集の発行</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ オープンアクセスによる論文の発行を実施し、7～12 月は、21 編の論文が掲載された。</li> <li>・ 特集号として、SICE Fes2025 特集号を実施中</li> <li>・ 論文誌の国際化と投稿数の増加に向け、T&amp;F と協力し、Editorial Board の国際化、国際共著論文投稿勧誘などを引き続き行った。</li> <li>・ T&amp;F からの編集・出版状況情報に基づき、理事会への報告、英文論文集委員会、Editorial Board での報告・議論を行い、今後に向けた意見等をいただいた。</li> <li>・ Outstanding Reviewers 賞を新設し運用を開始した。</li> </ul>

## 2025 年度事業計画・実施報告

組織名	カンファレンス委員会	担当	佐々木委員長、青山副委員長
-----	------------	----	---------------

2025 年度事業計画（本組織担当分）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SICE の存在意義と「さいす学」を定義する。(0.1)</li> <li>・ カンファレンス活動（FES、部門大会、部会研究会、支部大会等）の全体調整と FES 化を見据えた見直し (2.1)</li> <li>・ 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守 (6.1) / ・アフターコロナにおける新たな学会活動スタイルの推進 (6.2)</li> <li>・ SICE_FES を通じた SICE 国際プレゼンスのさらなる向上の志向（裾野の広がり と 質の高さを両立する場の形成）(8.1)</li> <li>・ SICE が主催、共催する国際会議、および招聘/現地組織する国際会議（SICE202x、IFAC、IMEKO、IEEE 関連行事）への開催支援 (8.2)</li> <li>・ 企業成果の効果的発信と論文発表形式の見直し (10.1)</li> <li>・ AC/部門大会におけるチュートリアル活性化 (10.2)</li> </ul>

2025 年度事業計画	2025 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <p>1. SICE FES w/ AC2025 (Chiang, Thailand)</p> <p>1-1 予算</p> <p>1-2 SICE FES</p> <p>1-3 Student Grant</p> <p>1-4 VIP Reception 計画検討開始 (Invitation 案, 宛先リスト作成 (事務局))</p> <p>1-5 Friendship Lunch Meeting 等の計画検討開始 (Invitation 案, 招待客リスト作成 (事務局))</p> <p>1-6 SICE AC2025 の Tech. Co.締結/ IEEE Conference Application 登録作業 (w/事務局)</p> <p style="padding-left: 20px;">- Tech. Co. 依頼発信→受諾受領 IEEE CSS/RAS/IES, 韓国 ICROS, 中国 TCCT, タイ ECTI,CACS,ISA,JEMIMA</p> <p>IEEE Conference Application 登録 (IEEE/CSS/RAS/IES との Tech. Co.締結完了)</p> <p>2. SICE FES w/ AC 2026</p> <p>3. SICE FES w/ AC 2027 以降について</p> <p>4. 海外学会との交流</p> <p>4-1 海外学会イベントの共催・協賛管理</p>	<p>●1～6 月</p> <p>1. SICE FES w/ AC2025 (Chiang, Thailand)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実施準備は実行委員会により例年通り進行</li> </ul> <p>1-3 Student Grant</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- STGA 対象人数の拡充と審査実施方法の検討</li> </ul> <p>1-4 VIP Reception 計画検討開始 (Invitation 案, 宛先リスト作成 (事務局))</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- VIP reception 招待者と会場の決定 (事務局)</li> </ul> <p>1-6 SICE AC2025 の Tech. Co.締結/ IEEE Conference Application 登録作業 (w/事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Tech. Co. IEEE CSS/RAS/IES, 韓国 ICROS, 中国 TCCT, CAA, タイ ECTI, CACS, JEMIMA, ACA, CS</li> </ul> <p>2. SICE FES w/ AC 2026</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実施準備は実行委員会により例年通り進行</li> <li>・ 会場見学・予約の完了、フロアプラン案の検討</li> <li>・ 「ふえす化 (ボーダーレス化)」の試みとして、参加登録費の区分の増設を検討</li> <li>・ 予算案の検討</li> <li>・ 実行委員会 Chairs の確定</li> <li>・ ホームページと Social Media の準備</li> <li>・ 会議開催助成の申請準備</li> <li>・ カンファレンス委配下「ふえす化」推進 WG (さいす学の展開) の設置 (ACDC 大須賀主査)</li> </ul> <p>3. SICE FES w/ AC 2027 以降について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2027 の開催地を函館市、日程を 9 月上旬で検討</li> </ul> <p>4 海外学会との交流</p> <p>4-1 海外学会イベントの共催・協賛管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国際行事協賛 15 件の承認</li> </ul>

<p>4-2 MOU 締結状態の維持、新規締結検討（適宜）  （更新時：内容検討/更新可否の議論）  IEEE：2022 年末に更新済（25 まで有効）  IEEE CSS：2020 年末に更新済（25 まで有効）  ICROS：更新済（自動更新）  TCCT：2019 年末に更新済（24 まで有効）</p> <p>5 SICE の国際プレゼンス向上活動  5-1 IFAC 委員会との連携  5-2 IROS 関連  5-3 各種</p>	<p>・リエゾン制による海外友好団体との交流活動の継続</p> <p>5. SICE の国際プレゼンス向上活動  5-2 IROS 関連  ・ICRA2025 での IROS Steering Committee に voting member として参加(佐々木)</p>
---	---

2025 年度事業計画	2025 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p>1. SICE FES w/ AC2025 (Chiang, Thailand)</p> <p>1-1 予算</p> <p>1-2 SICE FES</p> <p>1-3 Student Grant</p> <p>1-4 VIP Reception 計画検討開始 (Invitation 案, 宛先リスト作成 (事務局))</p> <p>1-5 Friendship Lunch Meeting 等の計画検討開始 (Invitation 案, 招待客リスト作成 (事務局))</p> <p>1-6 SICE AC2025 の Tech. Co.締結/ IEEE Conference Application 登録作業 (w/事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Tech. Co. 依頼発信→受諾受領</li> <li>IEEE CSS/RAS/IES, 韓国 ICROS, 中国 TCCT, タイ ECTI,CACS,ISA,JEMIMA</li> </ul> <p>IEEE Conference Application 登録 (IEEE/CSS/RAS/IES との Tech. Co.締結完了)</p> <p>2. SICE FES w/ AC 2026</p> <p>3. SICE FES w/ AC 2027 以降について</p> <p>4. 海外学会との交流</p> <p>4-1 海外学会イベントの共催・協賛管理</p> <p>4-2 MOU 締結状態の維持、新規締結検討 (適宜)</p> <p>(更新時：内容検討/更新可否の議論)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>IEEE：2019 年末に更新済 (22 まで有効)</li> <li>IEEE CSS：2020 年末に更新済 (25 まで有効)</li> <li>ICROS：更新済 (自動更新)</li> <li>TCCT：2019 年末に更新済 (24 まで有効)</li> </ul> <p>5 SICE の国際プレゼンス向上活動</p> <p>5-1 IFAC 委員会との連携</p> <p>5-2 IROS 関連</p> <p>5-3 各種</p>	<p>●7～12 月</p> <p>1. SICE FES w/ AC2025 (Chiang, Thailand)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 500 人超の参加登録となり無事終了、2025 年度第 4 回理事会にて終了報告実施</li> <li>- STGA は審査の結果 3 名を選出し贈賞、SICE FES の closing ceremony および SICE FES のウェブサイトにて報告</li> <li>- VIP Reception は FES 期間中(9/10)に実施完了</li> </ul> <p>2. SICE FES w/ AC 2026</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施準備は実行委員会により例年通り進行</li> <li>・今年度はスポンサープログラム実施に関してコンサルティング業務委託を検討</li> </ul> <p>3. SICE FES w/ AC 2027 以降について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2028 の開催地検討開始</li> </ul> <p>4. 海外学会との交流</p> <p>4-1 海外学会イベントの共催・協賛管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際行事協賛 10 件の承認</li> <li>・リエゾン制による海外友好団体との交流活動の継続</li> </ul> <p>4-2 MOU 締結状態の維持、新規締結検討 (適宜)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>IEEE：2025 年末に更新済 (28 まで有効)</li> <li>IEEE CSS：2025 年末に更新済 (30 まで有効)</li> <li>ICROS：更新済 (自動更新)</li> <li>IROS：2026 更新予定</li> <li>TCCT：2024 年末に更新済</li> </ul> <p>5. SICE の国際プレゼンス向上活動</p> <p>5-2 IROS 関連</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・IROS2025 での IROS Steering Committee に voting member として参加(佐々木)</li> <li>・IROS 共催 4 団体 (IEEE-RAS, IEEE-IES, RSJ(日本ロボット学会)、SICE) により、IROSCharter を締結</li> </ul> <p>その他報告として、2025 第 1 回カンファレンス委員会を開催 (11/7)</p>

## 2025 年度事業計画・実施報告

組織名	インダストリ委員会	担当	安井委員長、手塚副委員長
-----	-----------	----	--------------

2025 年度事業計画（本組織担当分）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SICE の存在意義と「さいす学」を定義する. (0.1)</li> <li>・ 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守 (6.1)</li> <li>・ アフターコロナにおける新たな学会活動スタイルの推進 (6.2)</li> <li>・ 国際標準化活動の促進および表彰 (8.4)</li> <li>・ AI, IoT, ビッグデータ等新しい技術に関する SICE 企画 (9.1)</li> <li>・ 企業成果の効果的発信と論文発表形式の見直し (10.1)</li> <li>・ SICE エグゼクティブサロンの開催 (10.2)</li> <li>・ 他団体との連携セミナー企画 (11.1)</li> <li>・ ニューインダストリ分野（自動車・ロボット等）の企画推進 (11.2)</li> <li>・ IFAC2023 Industry Group 活動継承（Wagora 活動の実施）(12.1)</li> <li>・ 国際規格の作成に向けた活動とそのプロモーション</li> </ul>

2025 年度事業計画	2025 年度実施結果
<p>●1～6月 委員会開催：2回以上予定</p> <p>◆企業、会員への情報発信と教育支援</p> <p>1)工業会との連携セミナー企画推進 (JEMIMA、NECA 他)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ IIFES2025(2025/11)への出展検討</li> </ul> <p>2) Wagoraの推進サポート</p> <p>3) SICE Executive Salonの企画と開催（1回/半年期）</p> <p>4) 「安全のための計測・制御・システムを考える会」の活動 一定期的な会合</p> <p>◆国際標準化活動</p> <p>1) SICE FES 2025（9月：ChiangMai,Thiland）に向けたOS企画の策定（実行、運営は下期）</p> <p>2) 国際標準化動向の調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ACの論文の調査</li> <li>・ リエゾン委員との情報交換</li> </ul> <p>3) 国際標準化関連セミナーの開催検討</p> <p>4) 国際標準化賞の推薦 功績賞と奨励賞の候補者についてその妥当性を評価・審議し、適当と認められた者を学会賞委員会に推薦する。</p> <p>5) JIS規格の定期見直しと改廃の検討</p> <p>6) 国際標準化の課題検討</p>	<p>●1～6月 委員会開催：2回実施(1/17、6/25)</p> <p>1) IIFS2025 出展準備</p> <p>2) Wagora ミーティング(4/23、6/10) 公開フォーラム企画</p> <p>3) SICE エグゼクティブサロン第2回開催(1/22) 講師：京都大学名誉教授榎木哲夫氏・意見交換実施。 第3回エグゼクティブサロン(7/25)開催準備</p> <p>4) 「安全のための計測・制御・システムを考える会」有料講習会(1/20)、サロン・見学会(4/10、6/10)、TF(1/31、2/26)</p> <p>◆国際標準化活動</p> <p>1) JEMIMA Special Talk: Dr.Sawai (KMUT)ータイのオートメーション発展 Special Panel Session: オートメーション分野の国際標準化に関するタイと日本の協力 Special Panel Sessiion: OT サイバーセキュリティの動向 →講演者、パネリストの人選・依頼中 →SPS の概要を産業応用 OS に投稿(2件)</p> <p>2) 論文調査-プログラム待ち、リエゾンとの情報交換ー適宜</p> <p>3)検討中ーアンケート結果による</p> <p>4)公募：功労賞 0 件、奨励賞 3 件ー小委員会にて審査中(7/1 推薦者決定)</p> <p>5) JIS 規格の定期見直し</p> <p>6) 新規メンバの獲得、METI の人材育成への支援</p>

2025 年度事業計画	2025 年度実施結果
<p>●7～12月 委員会開催：3回</p> <p>◆企業、会員への情報発信と教育支援</p> <p>1) 工業会との連携セミナー企画推進 (JEMIMA、NECA他) -IIFES2025(2025/11)への出展</p> <p>2) Wagoraの推進サポート</p> <p>3) SICE Executive Salonの企画と開催 (1回/半期)</p> <p>4) 「安全のための計測・制御・システムを考える会」の活動 -定期的な会合</p> <p>◆国際標準化活動</p> <p>1) SICE FES 2025 (9月：Chiang Mai, Thailand) でのOSを企画・実施する。</p> <p>2) 国際標準化動向の調査 ・ACの論文の調査 ・リエゾン委員との情報交換</p> <p>3) 国際標準化関連セミナーの開催検討</p> <p>4) 国際標準化賞の推薦 (上期にて実施)</p> <p>5) JIS規格の定期見直しと改廃の検討</p> <p>6) 国際標準化の課題検討</p>	<p>●7～12月 委員会開催：2回実施(8/6、12/17)</p> <p>◆企業、会員への情報発信と教育支援</p> <p>1) ARC アジアフォーラム 2025(7/8 両国 KFC ホール) パネル企画、ブース出展 ・IIFES2025 連携活動(11/19-11/21 東京ビッグサイト) ブース出展(ISCIE 連携)、出展者セミナー、学生企画支援</p> <p>2) SICE-Wagora2025 年 第1回公開フォーラム (8/20 SICE 事務局ハイブリッド開催、参加者 25名)</p> <p>3) SICE エグゼクティブサロン第3回開催(7/25) 講師：早稲田大学教授 菅野重樹氏・意見交換実施。</p> <p>4) 「安全のための計測・制御・システムを考える会」サロン(12/8)</p> <p>◆国際標準化活動</p> <p>1) JEMIMA Special Talk: Dr. Sawai (KMUT)ータイのオートメーション発展 Special Panel Session: オートメーション分野の国際標準化に関するタイと日本の協力 Special Panel Session: OT サイバーセキュリティの動向 →パネリスト打ち合わせ(8/5) SICE Industry HP を掲載(7/24)</p> <p>2) 論文調査-プログラム待ち、リエゾンとの情報交換ー適宜</p> <p>3) 検討中ーアンケート結果による</p> <p>4) 公募：功労賞 0 件、奨励賞 3 件ー遠藤氏を学会賞委員会に推薦(7/7)</p> <p>5) JIS 規格の定期見直し</p> <p>6) 新規メンバの獲得、METI の人材育成への支援</p>

## 2025 年度事業計画・実施報告

組織名	メンバー委員会	担当	小野委員長・恩田副委員長
-----	---------	----	--------------

2025 年度事業計画（本組織の主担当分）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>4. 緩急ある学会運営のスリム化と効率化</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>4.2 ウェブ更新効率化による情報発信の促進</li> </ul> </li> <li>・ <b>7. SICE が主導する「さいす学」の発信と Society 5.0、SDGs 等社会的課題への SICE の取り組み</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>7.1 部門・部会・支部活動の可視化、ウェブ発信</li> </ul> </li> <li>・ <b>9. 会員への情報発信と教育支援</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>9.1 AI, IoT, ビッグデータ等新しい技術に関する SICE 企画</li> <li>9.3 教材（理科、制御）の提供、進路相談ならびに資料の提供</li> <li>9.4 高校生の SICE イベントへの参加、ジュニア会員の創設</li> </ul> </li> <li>・ <b>10. 企業会員のための施策の強化</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>10.4 地方活性化の検討（非会員地元企業との連携、など） ※支部協と共同で主担当</li> </ul> </li> <li>・ <b>13. 見えない壁の無効化によるダイバーシティ推進</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>13.1 SICE Diversity and Inclusion Activity (SICE-DIA) の運営、啓蒙や情報発信の企画・実施（会誌特集号の検討）</li> </ul> </li> </ul>

2025 年度事業計画	2025 年度実施結果
<p>●1～6 月 委員会活動：2 回</p> <p>SICE-DIA 会合開催：2 回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ SICE-DIA 活動を含めた広報の検討 （会誌特集号の検討）</li> <li>◆企業会員のための施策の強化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支部協との検討会開催</li> </ul> </li> <li>◆会員への情報発信と教育支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友好団体との連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>－男女共同参画学協会連絡会への参加</li> </ul> </li> <li>－女子中高生夏の学校参加準備</li> </ul> </li> <li>・ 会員増強施策の検討</li> <li>・ SNS コンテンツの拡充フォロー</li> <li>◆広報・リエゾン機能の強化活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ SICE 本部／部門／支部などの WEB のあり方検討</li> </ul> </li> <li>・ ISCIE 連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>－企画運営会議・ステアリング会議(5 月)</li> <li>－SSH 出展準備</li> </ul> </li> <li>・ 横幹連合連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>－定時総会(4 月)</li> </ul> </li> <li>・ その他学会連携</li> </ul>	<p>●1～6 月 委員会開催(1/24、5/19)</p> <p>DIA 定例会(2/14、5/20)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆企業会員のための施策の強化 委員会にて検討中</li> <li>◆会員への情報発信と教育支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>－男女共同参画学協会連絡会 運営委員会に参加(3/13)</li> <li>－女子中高生夏の学校(8/10) 参加準備中</li> </ul> </li> <li>・ 会員増強施策の検討 委員会にて検討中</li> <li>・ SNS コンテンツの拡充フォロー 委員会にて検討中</li> <li>◆広報・リエゾン機能の強化活動</li> <li>・ ISCIE 連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>－ISCIE 連携会議(5/26)神戸市産業振興センター・ハイブリッド開催</li> <li>－SSH 出展なし</li> </ul> </li> <li>・ 横幹連合連携 定時総会に参加(4/15)</li> </ul>

<p>－他学会行事共催協賛(随時)</p> <p>◆教育・認定活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育 WG</li> <li>・ SICE エンジニア認定 <ul style="list-style-type: none"> <li>－WG 会合 (3, 5 月)</li> <li>－試験問題の作成</li> <li>－オンライン実施の日程確定・準備</li> </ul> </li> <li>・ プロセス塾(プロセス新塾-考究Ⅱ2024) <ul style="list-style-type: none"> <li>第4回目 (1月) 第5回目 (2月) 第6回目 (3月) 第7回目 (4月) 第8回目 (5月)</li> <li>－プロセス新塾 2025 実施計画の策定</li> <li>－WG 会合</li> <li>－教育内容を検討 (通年)</li> <li>－次年度以降計画の検討</li> </ul> </li> <li>・ SICE 共創塾 <ul style="list-style-type: none"> <li>－企業エンジニアの新たな気づきの場の提供</li> <li>－「さいす学」×「共創」の具体化</li> </ul> </li> <li>・ 教材 (理科、制御) の提供準備 進路相談ならびに資料の提供準備</li> <li>・ CPD ポイント <ul style="list-style-type: none"> <li>－ポイント集計と表彰者決定</li> </ul> </li> <li>・ JABEE <ul style="list-style-type: none"> <li>－情報収集 (通年)</li> <li>－審査支援 (通年)</li> </ul> </li> </ul>	<p>◆教育・認定活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育 WG 準備中</li> <li>・ SICE エンジニア認定 準備中</li> <li>・ プロセス塾(プロセス新塾-考究Ⅱ2024) <ul style="list-style-type: none"> <li>第4回目 (2/7) 第5回目 (2/28) 第6回目 (3/7) 第7回目 (4/11) 第8回目 (5/16) を実施</li> </ul> </li> <li>WG(4/14)</li> <li>・ SICE 共創塾 準備中</li> <li>準備中</li> <li>・ CPD ポイント 集計表彰者を決定した (3名)</li> </ul>
---	---

2025 年度事業計画	2025 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p>委員会活動：2 回</p> <p>SICE-DIA 会合開催：2 回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ SICE-DIA 活動を含めた広報の検討 (会誌特集号の検討)</li> </ul> <p>◆企業会員のための施策の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支部協との検討会開催</li> </ul> <p>◆会員への情報発信と教育支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友好団体との連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>－男女共同参画学協会連絡会への参加</li> </ul> </li> <li>－女子中高生夏の学校参加（8 月）</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会員増強施策の検討</li> <li>・ SICE 内相談窓口機能の設置に向けた具現化</li> <li>・ 会員増強施策の検討まとめ</li> <li>・ SNS コンテンツの拡充フォロー</li> </ul> <p>◆広報・リエゾン機能の強化活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ISCIE 連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>－ステアリング会議(11 月)</li> <li>－SSH 出展</li> </ul> </li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 横幹連合連携</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ その他学会連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>－他学会行事共催協賛(随時)</li> </ul> </li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本学術会議と連携（多分野応用小委員会） <ul style="list-style-type: none"> <li>－自動制御連合講演会 開催協力</li> </ul> </li> </ul> <p>◆教育・認定活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ SICE エンジニア認定 <ul style="list-style-type: none"> <li>－WG 会合</li> <li>－試験問題の作成</li> <li>－オンライン実施の日程確定・準備</li> <li>－受験者増対策の検討，受験者勧誘</li> </ul> </li> <li>・ プロセス塾 <ul style="list-style-type: none"> <li>－プロセス新塾 2025 実施</li> <li>－プロセス新塾 2026 実施計画の策定</li> <li>－WG 会合</li> <li>－教育内容を検討（通年）</li> </ul> </li> </ul>	<p>●7～12 月</p> <p>委員会開催(8/22、12/3)</p> <p>DIA 定例会(10/28、12/15)</p> <p>◆企業会員のための施策の強化 委員会にて検討中</p> <p>◆会員への情報発信と教育支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>－男女共同参画学協会連絡会 運営委員会に参加(8/29、12/8)</li> <li>－女子中高生夏の学校 2025（8/10） オリンピック記念青少年総合センター 実験、ポスター展示と進路&amp;キャリア相談実施</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会員増強施策の検討 委員会にて検討中</li> <li>・ SNS コンテンツの拡充フォロー 委員会にて検討中</li> </ul> <p>◆広報・リエゾン機能の強化活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ISCIE 連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>－ISCIE 連携会議(11/1) 名古屋大学・ハイブリッド開催</li> <li>－SSH 出展なし</li> </ul> </li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 横幹連合連携 第 16 回横幹連合コンファレンス(12/13-14) 金沢工業大学</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第 69 回自動制御連合講演会幹事学会 実行委員会立上げ</li> </ul> <p>◆教育・認定活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育 WG 準備中</li> <li>・ SICE エンジニア認定 準備中</li> <li>・ プロセス塾(プロセス新塾-考究 eX2025 第 1 回目 (10/10-11) 第 2 回目 (10/24) 第 3 回 目 (11/7) 第 4 回目 (12/5-6) を実施 WG(7/18、9/2)</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>SICE 共創塾</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>－企業エンジニアの新たな気づきの場の提供</li> </ul> </li> <li>・ －「さいす学」×「共創」の具体化</li>   <li>・ 教材（理科、制御）の提供準備 進路相談ならびに資料の提供準備</li>   <li>・ <b>CPD ポイント</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>－表彰式・賞状授与</li> </ul> </li>   <li>・ <b>JABEE</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>－情報収集（通年）</li> <li>－審査支援（通年）</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>SICE 共創塾</b> 委員会にて検討中</li>   <li>・ 教材（理科、制御）の提供準備 準備中</li>   <li>・ <b>CPD ポイント</b> 高得点者表彰(8/29)</li> </ul>
---	--

## 2025 年度事業計画・実施報告

組織名	部門協議会	担当	榊原議長、北田副議長
-----	-------	----	------------

2025 年度事業計画（本組織担当分）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SICE の存在意義と「さいす学」を定義する. (0.1)</li> <li>・ 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守 (6.1)</li> <li>・ アフターコロナにおける新たな学会活動スタイルの推進 (6.2)</li> <li>・ 企業成果の効果的発信と論文発表形式の見直し (10.1)</li> <li>・ AC/部門大会におけるチュートリアル活性化 (10.3)</li> </ul> <p>【副担当】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ SICE FES 2025 等に向けた部門・支部・委員会の柔軟な連携企画 (1.1)</li> <li>・ 特定費用準備資金の有効活用 (1.2)</li> <li>・ 部門・支部のあり方についての検討 (1.3)</li> <li>・ SICE が主催、共催する国際会議、および招聘/現地組織する国際会議 (SICE202x、IFAC、IMEKO、IEEE 関連行事)への開催支援 (8.2)</li> </ul>

2025 年度事業計画	2025 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <p><u>1. 部門活動の促進サポート(13.1)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3 回の部門協議会を開催</li> </ul> <p><u>2. 支部協議会との連携(13.1、8.2)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支部協議会への参加と情報共有</li> <li>・ 合同の協議会を開催し合同講演会開催の検討</li> </ul> <p><u>3. 企画委員会などとの連携強化(2.1、10.2、13.1、8.2)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 財務委員会、企画委員会に参加し、内容を部門へ報告</li> <li>・ ダイバーシティ推進の強化</li> </ul> <p><u>4. 部門活性化方策の検討と活動の広報の見直し(1.2、2.1、10.2、8.1、8.2、11.1)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各 WG と専門委員会の活動状況把握</li> <li>・ 部門関連データの活用策検討</li> <li>・ ダイバーシティ推進施策との相乗効果</li> </ul> <p><u>5. 部門運営の負荷の把握および効率化の検討(13.1)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各部門における活動の把握</li> <li>・ 各部門から SICE 本体選出委員の把握</li> <li>・ 会員の希望と負担のバランス調査</li> </ul>	<p>●1～6 月</p> <p><u>1. 部門活動の促進サポート(13.1)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2 回の部門協議会(1/23,4/23)を開催 3 回目は 7/9 に開催予定</li> </ul> <p><u>2. 支部協議会との連携(13.1、8.2)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支部協議会への参加と情報共有</li> <li>・ 執行部が参加する合同の協議会を 4/23 に開催</li> </ul> <p><u>3. 企画委員会などとの連携強化(2.1、10.2、13.1、8.2)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 財務委員会 4/25、企画委員会 5/22、メンバー委員会 5/19 に参加し、内容を部門へ報告予定</li> </ul> <p><u>4. 部門活性化方策の検討と活動の広報の見直し(1.2、2.1、10.2、8.1、8.2、11.1)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各 WG と専門委員会の活動状況把握</li> <li>・ 部門関連データの活用策検討</li> <li>・ SICE DIA との連携強化を確認</li> </ul> <p><u>5. 部門運営の負荷の把握および効率化の検討(13.1)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各部門における活動の把握</li> <li>・ 各部門から SICE 本体選出委員の把握予定</li> <li>・ 会員の希望と負担のバランス調査予定</li> </ul>

2025 年度事業計画	2025 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p><u>1. 部門活動の促進サポート(13.1)</u> ・ 3 回の部門協議会を開催</p> <p><u>2. 支部協議会との連携(13.1、8.2)</u> ・ 支部協議会への参加と情報共有</p> <p><u>3. 企画委員会などとの連携強化(2.1、10.2、13.1、8.2)</u> ・ 財務委員会、企画委員会に参加し、内容を部門へ報告 ・ ダイバーシティ推進の強化</p> <p><u>4. 部門活性化方策の検討と活動の広報の見直し(1.2、2.1、10.2、8.1、8.2、11.1)</u> ・ 各 WG と専門委員会の活動状況把握 ・ 部門関連データの活用策検討 ・ ダイバーシティ推進施策との相乗効果</p> <p><u>5. AC 活性化、OS 企画・貢献(1.2、2.1、8.1、8.2、11.1)</u> ・ 各部門で個別実施</p> <p><u>5. 部門運営の負荷の把握および効率化の検討(13.1)</u> ・ 各部門における活動の把握 ・ 各部門から SICE 本体選出委員の把握 ・ 会員の希望と負担のバランス調査 ・ 上期の協議結果を踏まえた 2026 年度計画立案</p>	<p>●7～12 月</p> <p><u>1. 部門活動の促進サポート(13.1)</u> ・ 3 回の部門協議会(7/9,10/2,12/2)を開催</p> <p><u>2. 支部協議会との連携(13.1、8.2)</u> ・ 支部協議会への参加と情報共有 ・ 合同の協議会を 10/2 に開催</p> <p><u>3. 企画委員会などとの連携強化(2.1、10.2、13.1、8.2)</u> ・ 財務委員会、企画委員会に参加し、内容を部門へ報告 ・ ダイバーシティ推進の強化(Girls in Control 企画への協力)</p> <p><u>4. 部門活性化方策の検討と活動の広報の見直し(1.2、2.1、10.2、8.1、8.2、11.1)</u> ・ 各 WG と専門委員会の活動状況把握 ・ 部門関連データの活用策検討 ・ ダイバーシティ推進施策との相乗効果</p> <p><u>5. AC 活性化、OS 企画・貢献(1.2、2.1、8.1、8.2、11.1)</u> ・ 各部門で個別実施</p> <p><u>5. 部門運営の負荷の把握および効率化の検討(13.1)</u> ・ 各部門における活動の把握 ・ 各部門から SICE 本体選出委員の把握 ・ 会員の希望と負担のバランス調査 ・ 上期の協議結果を踏まえた 2026 年度計画立案</p>

## 2025 年度事業計画・実施報告

組織名	計測部門	担当	大串部門長
-----	------	----	-------

2025 年度事業計画（計測部門担当分）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SICE の存在意義と「さいす学」を定義する。(0.1)</li> <li>・ SICE FES 2025 等に向けた部門・支部・委員会の柔軟な連携企画 (1.1)</li> <li>・ カンファレンス活動（FES、部門大会、部会研究会、支部大会等）の全体調整と FES 化を見据えた見直し (2.1)</li> <li>・ 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守 (6.1)</li> <li>・ アフターコロナにおける新たな学会活動スタイルの推進 (6.2)</li> <li>・ 部門・部会・支部活動の可視化、ウェブ発信 (7.1)</li> </ul>

2025 年度事業計画	2025 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <p>1 月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 温度計測部会運営委員会</li> </ul> <p>2 月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 先端電子計測部会運営委員会</li> <li>・ 第 119 回力学量計測部会行事: 力学量計測部会講演会・見学会（場所、未定）</li> <li>・ センシングフォーラム運営委員会</li> <li>・ 計測部門運営委員会</li> </ul> <p>3 月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ パターン計測部会協賛企画・動的画像処理実利用化ワークショップ(DIA2025)</li> </ul> <p>5 月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第 153 回温度計測部会行事: 講演会</li> </ul> <p>6 月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 力学量計測部会運営委員会</li> <li>・ 第 120 回力学量計測部会行事: 有機微量分析合同シンポジウム（北里大学、白金キャンパス）</li> <li>・ センシングフォーラム運営委員会</li> <li>・ 計測部門運営委員会</li> </ul>	<p>●1～6 月</p> <p>1 月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 温度計測部会運営委員会 未開催</li> </ul> <p>2 月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 先端電子計測部会運営委員会 未開催</li> <li>・ 2/19(水) 2025 年第 1 回センシングフォーラム運営委員会（オンライン開催）参加者 18 名</li> <li>・ 2/19(水) 2024 年度 第 4 回 / 2025 年度 第 1 回 計測部門運営委員会(オンライン開催)参加者 11 名</li> </ul> <p>3 月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3/5 (水) - 6 (木) パターン計測部会協賛企画・動的画像処理実利用化ワークショップ (DIA2025) (福井県敦賀市) 参加者 252 名, 発表件数 107 件</li> <li>・ 3/17(月) 第 127 回力学量計測部会行事「日産テクニカルセンター」見学会（神奈川県座間市）参加者 12 名</li> </ul> <p>5 月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第 153 回温度計測部会行事: 講演会 未開催</li> </ul> <p>6 月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6/19 (木) - 20 (金) 第 128 回力学量計測部会行事「第 42 回有機微量分析合同シンポジウム」（北里大学・東京都港区）参加者約 70 名、発表件数 29 件（内・力学量計測部会 4 件）</li> <li>・ 6/24 (火) 2025 年第 1 回力学量計測部会運営委員会 SICE 会議室（ハイブリッド）参加者 15 名（内・対面 9、Web 6）</li> <li>・ 6/19(水) 2025 年第 2 回センシングフォーラム運営委員会（オンライン開催）参加者 13 名</li> </ul>

2025 年度事業計画	2025 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p>7 月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先端電子計測部会: 運営委員会</li> </ul> <p>8 月</p> <p>9 月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計測部門大会 第 42 回センシングフォーラム (群馬大学、桐生キャンパス)</li> <li>・センシングフォーラム運営委員会</li> <li>・計測部門運営委員会</li> </ul> <p>10 月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スマートセンシングシステム部会研究会</li> </ul> <p>11 月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第 30 回パターン計測シンポジウム</li> <li>・第 153 回温度計測部会行事: 見学会</li> <li>・第 121 回力学量計測部会行事: 計量史をさぐる会</li> <li>・先端電子計測部会: 見学会</li> </ul> <p>12 月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パターン計測部会共同企画: ビジョン技術の実利用ワークショップ ViEW 2025</li> <li>・力学量計測部会運営委員会</li> </ul>	<p>●7～12 月</p> <p>7 月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7/1(火) 2025 年第 2 回計測部門運営委員会 (オンライン開催) 参加者 11 名</li> <li>・先端電子計測部会運営委員会: 未開催</li> </ul> <p>8 月</p> <p>9 月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・9/25(木)～26(金) 計測部門大会 第 42 回センシングフォーラム (群馬大学、桐生キャンパス) 参加者約 130 名、発表件数: 口頭 59 件、ポスター 31 件、合計 90 件</li> <li>・9/25(木) センシングフォーラム運営委員会 群馬大学桐生キャンパス総合研究棟 403 号室 参加者 18 名 (対面)</li> <li>・9/26(金) 計測部門運営委員会 群馬大学桐生キャンパス総合研究棟 403 号室 参加者 10 名 (対面)</li> </ul> <p>10 月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10/10(金) 第 129 回力学量計測部会行事 「計量史をさぐる会」 (東洋計量史資料館・長野県松本市) 参加者約 30 名、講演件数 3 件 (内・力学量計測部会 1 件)</li> <li>・10/10(金)-11(土) スマートセンシングシステム部会研究会 (大学コンソーシアム富山 参加者 30 名、発表件数 16 件)</li> </ul> <p>11 月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・11/21(金) 第 30 回パターン計測シンポジウム 東京大学駒場 II キャンパス 参加者 10 名 (対面), 発表件数 8 件 (うち招待講演 2)</li> </ul> <p>12 月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・12/4(木)-5(金) パターン計測部会共同企画: ビジョン技術の実利用ワークショップ ViEW 2025 (パシフィコ横浜・神奈川県横浜市) 発表件数 100 件, 参加者 779 名</li> <li>・12/5(金) 2025 年第 2 回力学量計測部会運営委員会 東洋テック株式会社社会議室 (ハイブリッド) 参加者 22 名 (内・対面 14、Web 8)</li> <li>・12/17(水) 第 1 回温度計測部会運営委員会 (オンライン開催) 参加者 9 名</li> </ul>

## 2025 年度事業計画・実施報告

組織名	制御部門	担当	伊藤（博） 部門長
-----	------	----	-----------

2025 年度事業計画（本組織担当分）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SICE の存在意義と「さいす学」を定義する。(0.1)</li> <li>・ SICE FES 2025 等に向けた部門・支部・委員会の柔軟な連携企画 (1.1)</li> <li>・ カンファレンス活動（FES、部門大会、部会研究会、支部大会等）の全体調整と FES 化を見据えた見直し (2.1)</li> <li>・ 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守 (6.1)</li> <li>・ アフターコロナにおける新たな学会活動スタイルの推進 (6.2)</li> <li>・ 部門・部会・支部活動の可視化、ウェブ発信 (7.1)</li> </ul>

2025 年度事業計画	2025 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <p>第 12 回制御部門マルチシンポジウム (MSCS2025) 開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ SICE International Symposium on Control Systems (ISCS) 2025</li> <li>・ 第 53 回 制御理論シンポジウム</li> <li>・ 第 16 回 プラントモデリングシンポジウム</li> <li>・ 第 25 回 適応学習制御シンポジウム</li> <li>・ 第 42 回 誘導制御シンポジウム</li> <li>・ 第 11 回 システム構築と制御技術シンポジウム</li> </ul> <p>MSCS における産業応用部門との Joint OS 等の検討</p> <p>部門賞贈呈式</p> <p>第 1 回制御部門運営委員会開催</p> <p>各委員会・部会・調査研究会の運営委員会・研究会・講演会・見学会・セミナーなどの実施</p>	<p>●1～6 月</p> <p>3 月 2 日 MSCS2025 併催イベント「VTuber と楽しむ制御工学スペシャルライブ!!」（実学界で踊る現場制御理論調査研究会）（大阪工業大学梅田キャンパス）参加 122 名(現地参加 72 名(内非会員 30 名、オンライン参加 240 名(内同時 50 名))</p> <p>3 月 2 日 ワークショップ「超スマート社会の人流制御のためのモデル化」（人の理解/誘導で強化される制御システム調査研究会）（大阪工業大学梅田キャンパス）発表 4 件、参加者 75 名</p> <p>3 月 3-5 日 第 12 回制御部門マルチシンポジウム (MSCS2025) を開催（大阪工業大学梅田キャンパス） 左記の各シンポジウム、部会・調査研究会等企画の OS を実施 参加合計 584 名(内招待 4、聴講共催校招待 45 名)、発表 293 件（内特別講演 1、Plenary Lecture 1、受賞記念講演 2、ポスター44、ISCS 36)</p> <p>3 月 4 日 MSCS2025 において、部門賞贈呈式を実施</p> <p>3 月 3 日 第 1 回制御部門事業委員会開催</p> <p>3 月 4 日 第 1 回制御部門学術委員会開催</p> <p>3 月 3 日 第 1 回制御部門広報委員会開催</p> <p>4 月 14 日 第 2 回制御部門事業委員会開催</p> <p>5 月 27 日 第 69 回システム制御情報学会研究発表講演会内 OS「Human-in-the-loop 制御の理論と応用」</p>

	<p>(人の理解/誘導で強化される制御システム調査研究会) 発表 5 件, 参加者 50 名</p> <p>6 月 10-13 日 プラントモデリング部会・研究会「制御, 情報, 学習のディープシンセシス」オンライン開催 発表 8 件, 参加者 179 名</p>
--	--

2025 年度事業計画	2025 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p>第 2 回制御部門運営委員会開催</p> <p>第 13 回制御部門マルチシンポジウム (MSCS2026)の企画・検討・準備</p> <p>部門賞の選考</p> <p>SIYA CDC 2025 の選考と贈呈</p> <p>産業応用部門大会における Joint OS の開催</p> <p>第 3 回制御部門運営委員会開催</p> <p>各委員会・部会・調査研究会の運営委員会・研究会・講演会・見学会・セミナーなどの実施</p>	<p>●7～12 月</p> <p>7 月 4 日 第 10 回 DML Lecture 「AI 向けプロセッサの開発と数値シミュレーション」 (ダイナミクスを活用した機械学習による制御理論の革新調査研究会) (ベンチャーデスク銀座, ハイブリッド) 発表 1 件、参加者 40 名</p> <p>9 月 3 日,4 日 制御理論若手合宿 2025 (広島県立県民の浜) 発表 32 件、参加者 42 名</p> <p>9 月 9-12 日 2025 SICE Festival with Annual Conference で調査研究会が OS を企画 発表 15 件、参加者数 50 名</p> <p>9 月 18 日 第 2 回制御部門運営委員会開催</p> <p>9 月 24 日, 25 日 制御工学セミナー1 (オンライン, 足立修一先生, 平田光男先生, 事業委員会) 発表 2 件、参加者 58 名</p> <p>10 月 30-31 日 CPHS 合宿 2025 (ホテルリステル浜名湖, 人の理解/誘導で強化される制御システム調査研究会) 発表 24 件、参加者 30 名</p> <p>11 月 1-2 日 第 68 回自動制御連合講演会で調査研究会が OS を企画 発表 74 件, 最大参加者数 80 名</p> <p>11 月 3 日 講習会「今日からはじめる! ROS &amp; MATLAB ハンズオンセミナー」 (実学界で踊る現場制御理論調査研究会、名古屋大学 東山キャンパス) 発表 5 件、参加者 58 名</p> <p>11 月 17 日 第 3 回制御部門運営委員会開催</p> <p>11 月 18 日 制御工学セミナー2 (大塚敏之先生, 事業委員会) オンライン 発表 1 件、参加者数 58 名</p> <p>11 月 17 日,29 日 プラントモデリング部会研究会「物理モデリングと機械学習のシナジー」 (オンライン)</p>

	<p>発表 5 件, 参加者数 171 名</p> <p>11 月 26 日 制御部門/産業応用部門合同企画 OS「産業オートメーションにおけるデータ連携の最新動向」 発表 7 件, 参加者数 38 名</p> <p>12 月 18 日 第 11 回 DML Lecture 「転移学習」(ダイナミクスを活用した機械学習による制御理論の革新調査研究会、ハイブリッド: 京都大学 吉田キャンパス・Zoom) 発表 1 件, 参加者数 61 名</p> <p>12 月 24 日 制御×AI 研究会 (人の理解/誘導で強化される制御システム調査研究会、オンライン) 発表 3 件, 参加者数 55 名</p>
--	--

## 2025 年度事業計画・実施報告

組織名	システム・情報部門	担当	小林部門長
-----	-----------	----	-------

2025 年度事業計画（本組織担当分）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SICE の存在意義と「さいす学」を定義する。(0.1)</li> <li>・ SICE FES 2025 等に向けた部門・支部・委員会の柔軟な連携企画 (1.1)</li> <li>・ カンファレンス活動（FES、部門大会、部会研究会、支部大会等）の全体調整と FES 化を見据えた見直し (2.1)</li> <li>・ 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守 (6.1)</li> <li>・ アフターコロナにおける新たな学会活動スタイルの推進 (6.2)</li> <li>・ 部門・部会・支部活動の可視化、ウェブ発信 (7.1)</li> </ul>

2025 年度事業計画	2025 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <p>部門大会における部会・研究会とのシンポジウム共催の検討</p> <p>部門大会の実行委員会などの組織化・開催準備</p> <p>部会シンポジウムなどの開催（適宜、部門間ならびに部門内での連携・協調の可能性・有効性を模索）</p> <p>部門賞選考プロセス（表彰委員会の構成・発表賞の選考）の点検・見直し</p> <p>部門大会特集号の論文募集・査読プロセス管理・採録論文決定</p> <p>活動計画実施状況のレビューと PDCA による評価・見直しのねらい・ポイントの再確認・明確化</p> <p>部会・研究会の決算報告や部門予算管理におけるインセンティブの運用方策・方式について検討</p> <p>Society 5.0 における SICE の役割明示とそのプロモーションのための情報発信方法の検討</p> <p>会員情報 DB の整備と部門大会活性化の検討</p> <p>1 月</p> <p>第 38 回自律分散システムシンポジウム，運営委員会</p> <p>境界と関係性調査研究会，運営会議</p> <p>3 月</p> <p>第 6 回 CPSoS 調査研究会</p> <p>第 52 回知能システムシンポジウム</p> <p>知能システム部会運営費委員会</p>	<p>●1～6 月</p> <p>1 月</p> <p>第 38 回自律分散システムシンポジウム，運営委員会 日時：2025 年 1 月 15 日，16 日 場所：KDDI 維新ホール(山口市) 発表件数：84 件</p> <p>参加者数：131 名</p> <p>2 月</p> <p>CI 部会第 11 回運営会議: 2025 年 2 月 28 日 オンライン開催</p> <p>3 月</p> <p>第 52 回知能システムシンポジウム</p> <p>日時：2025 年 3 月 10 日，11 日</p> <p>場所：近畿大学東大阪キャンパス</p> <p>発表件数：38 件</p> <p>参加者数：66 名</p> <p>知能システム部会第 1 回運営費委員会</p> <p>日時：2025 年 3 月 10 日</p> <p>場所：近畿大学東大阪キャンパス</p>

<p>第 37 回社会システム部会研究会, 第 1 回社会システム部会運営委員会 境界と関係性調査委員会 知能システムシンポジウム OS 企画 CI 部会 第 1 回部会運営委員会</p> <p>6 月 第 25 回 CI 研究会, 第 2 回部会運営委員会 境界と関係性調査研究会, 運営会議 自律分散システム部会運営委員会</p> <p>第 67 回システム工学部会研究会 第 1 回システム工学部会運営委員会 (オンライン開催予定)</p> <p>第 38 回社会システム部会研究会 日程: 2025 年 6 ~ 7 月の土曜日に 4 回開催 会場: ハイブリッドハイブリッド (オンライン, 芝浦工業大学 大宮キャンパス) 内容: 社会シミュレーションのチュートリアル</p>	<p>議題 7 件、参加者 9 名</p> <p>第 37 回社会システム部会研究会 日時: 2025 年 3 月 13 日~15 日 場所: ハイブリッド (アートホテル石垣島, オンライン) 発表件数: 62 件 参加者数: 95 名</p> <p>第 1 回社会システム部会運営委員会 日時: 2025 年 3 月 14 日, 15 日 場所: ハイブリッド (アートホテル石垣島, オンライン) 議題 5 件, 参加者数 17 名</p> <p>2025 年度オンラインレクチャー第 1 回 S4 Simulation System 日程: 2025 年 6 月 14 日、21 日 会場: オンライン 内容: 社会シミュレーションツール S4 Simulation System のチュートリアル 参加者: 17 名</p> <p>2025 年度オンラインレクチャー 第 2 回 SOARS 日程: 2025 年 6 月 28 日、7 月 5 日 会場: オンライン 内容: 社会シミュレーションツール SOARS の チュートリアル 参加者: 17 名</p>
--	--

2025 年度事業計画	2025 年度実施結果
<p>●7～12 月            部門大会における部会・研究会とのシンポジウム            共催の検討            部門大会の実行委員会などの組織化・開催準備            部会シンポジウムなどの開催（適宜，部門間なら            びに部門内での連携・協調の可能性・有効性            を模索）            部門賞選考プロセス（表彰委員会の構成・発表賞            の選考）の点検・見直し            部門大会特集号の論文募集・査読プロセス管理・            採録論文決定            活動計画実施状況のレビューと PDCA による評            価・見直しのねらい・ポイントの再確認・明            確化            部会・研究会の決算報告や部門予算管理における            インセンティブの運用方策・方式について検            討</p> <p>7 月            知能システム部会運営委員会            第 7 回 CPSoS 調査研究会</p> <p>境界と関係性調査研究会 HCII での OS 企画            第 37 回社会システム部会研究会</p> <p>8 月            境界と関係性調査研究会，運営会議            第 38 回社会システム部会研究会</p> <p>9 月            CI 部会 SICE AC で SS を企画            CI 部会 FAN シンポジウムで SS を企画            CI 部会 第 3 回部会運営委員会            境界と関係性調査研究会 SICE AC での OS 企画</p>	<p>●7～12 月</p> <p>第 2 回自律分散システム部会運営委員会            日時：2025 年 7 月 3 日（木）16:00 - 17:00            場所：オンライン            議題 7 件、参加者 13 名</p> <p>第 25 回 CI 研究会，第 2 回部会運営委員会            日時：2025 年 7 月 10 日（木）</p> <p>境界と関係性調査研究会，運営会議            日時：2025 年 7 月 19 日（土）</p> <p>第 67 回システム工学部会研究会            場所：オンライン            日時：2025 年 8 月 7 日（木）13:00～            特別講演 1 件，参加者 8 名            2025 年第 1 回システム工学部会運営委員会            日時：2025 年 8 月 7 日（木）14:00～            場所：オンライン            議題 4 件，参加者 5 名</p> <p>境界と関係性調査研究会，運営会議(8 月)            日時：2025 年 9 月 28 日（日）13:00～            場所：同志社大学            講演 2 件，参加者 12 名</p> <p>境界と関係性調査研究会 SICE AC での OS 企画            は発表件数集まらず断念.</p> <p>CI 部会 SICE AC、FAN シンポジウムで SS を            企画は発表件数集まらず断念. よって同日開催予            定の第 3 回部会運営会議も中止.</p>

<p>第 5 回創発システム勉強会, 第 72 回自律分散システム部会研究会, 運営委員会</p> <p>第 39 回社会システム部会研究会 日程: 2025 年 9 月 2 日 (火) ~ 3 日 (水) 会場: マホロバマインズ三浦 内容: 合宿形式での合同中間発表会</p>	<p>第 72 回自律分散システム部会研究会 2025 年 9 月 12 日 (金) 13:00-15:00 場所: 東京農工大学 小金井キャンパス 参加者 およそ 35 名 自律分散運営委員会 参加者 12 名 2025 年 9 月 12 日 (金) 11:30 - 12:00 場所: 東京農工大学 小金井キャンパス</p> <p>第 39 回社会システム部会研究会は名称を第 38 回社会システム部会研究会と変更して以下のように実施した。</p> <p>日程: 2025 年 9 月 2 日(火)~3 日(水) 会場: マホロバマインズ三浦 内容: 合宿形式での合同中間発表会 発表件数: 62 件 参加者: 108 名</p>
<p>10 月 境界と関係性調査研究会, 運営会議</p>	<p>第 5 回創発システム勉強会 (自律分散) 2025 年 10 月 10 日 開催場所: 信州大学 上田キャンパス OVIC 行事参加人数: 招待 2 名, 対面参加 19 名, オンライン参加 9 名 合計人数: 30 名</p>
<p>11 月 知能システム部会運営委員会 (SSI 会場) 第 8 回 CPSoS 調査研究会 CI 部会 SSI2025 で GS と SS を企画 第 2 回システム工学部会運営委員会 境界と関係性調査研究会 SICE SSI での GS 企画</p> <p>第 2 回社会システム部会運営委員会 (SSI 会場)</p>	<p>11 月 SSI2025 自律分散システム部会: GS03 22 件発表</p> <p>SSI2025 システム工学部会: GS01 18 件発表 CI 部会: SSI2025 GS1 件と SS2 件(SS04, SS05)/GS04: コンピュータショナル・インテリジェンス (15 件) SS04: 精神疾患の特定と理解を支える計測・モデリング・システム技術の最前線 (9 件) SS05: 進化計算の潮流と未来(6 件)</p>
<p>12 月 第 26 回コンピュータショナル・インテリジェンス研究会, CI 部会第 4 回部会運営委員会 境界と関係性調査研究会, 運営会議</p>	<p>知能工学部会: SSI2025 GS1 件(GS01, 23 件)と SS1 件(SS01), チュートリアル講演 SS01: 強化学習とそのハイブリッド手法の最前線(10 件) チュートリアル講演: サロゲートモデルを用いた進化型多目的最適化 講師: 中田雅也准教授 (横浜国立大学) 日時: 11 月 12 日 13:00-14:00</p> <p>知能工学部会: 第 2 回運営費委員会 日時: 2025 年 11 月 13 日 場所: 東北大学青葉山キャンパス 議題 6 件、参加者 11 名</p> <p>社会システム部会: SSI2025 で GS1 件(GS05)と SS 1 件 (SS02) を企画</p>

第2回運営委員会：SSI2025会場(ハイブリッド)+メール審議(11/14-21)

境界と関係性調査研究会，運営会議

日時：2025年12月13日(土)

件数：2件，参加者：16名

## 2025 年度事業計画・実施報告

組織名	システムインテグレーション部門	担当	平田部門長
-----	-----------------	----	-------

2025 年度事業計画（本組織担当分）
<p>1.2 Society 5.0 における SICE の役割明示とそのプロモーションのために講習会開催や会誌発行による情報発信</p> <p>4.2 SICE が主催、共催する国際会議（IROS2025）への開催支援</p> <p>6.3 他団体表彰（FA 財団, WRS）</p> <p>14.1 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守</p>

2025 年度事業計画	2025 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部門運営委員会（幹事団）による部会活動フォロー 計画消化, 支部・他部門連携, コンプライアンス</li> <li>・WWW サイト情報発信</li> <li>・部門学術講演会 SI 前年度会計処理フォロー</li> <li>・部門学術講演会 SI 運営企画フォロー</li> <li>・部門国際会議 SII 運営企画フォロー</li> <li>・SIYA-IROS 賞運営</li> <li>・部門賞募集と選定</li> <li>・FA 財団賞ノミネート</li> <li>・運営委員会の部門協議会に合わせた開催</li> <li>・第 1 回運営委員会（1 月第 1 週予定）</li> <li>・第 2 回運営委員会（1 月：メール審議）</li> <li>・第 3 回運営委員会（3 月：メール審議）</li> <li>・第 4 回運営委員会（5 月）</li> </ul>	<p>●1～6 月</p> <p>下記を計画通り実施した。詳細は部門協議会で報告済</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部門運営委員会（幹事団）による部会活動フォロー 計画消化, 支部・他部門連携, コンプライアンス</li> <li>・WWW サイト情報発信</li> <li>・部門学術講演会 SI 前年度会計処理フォロー</li> <li>・部門学術講演会 SI 運営企画フォロー</li> <li>・部門国際会議 SII 運営企画フォロー</li> <li>・SIYA-IROS 賞運営</li> <li>・運営委員会の部門協議会に合わせた開催</li> <li>・第 1 回 SI 部門新旧合同運営委員会 日時：2025 年 1 月 10 日（金） 場所：東北大学東京分室（オンラインとハイブリッド） 議題：審議 3 件, 報告 7 件 計 10 件 参加人数：19 名（うちオンライン 10 名）</li> <li>・第 2 回 SI 部門運営委員会 日時：2025 年 3 月 3 日（月）～3 月 7 日（金） 場所：メール審議 議題：審議 4 件, 報告 0 件 計 4 件</li> <li>・第 3 回 SI 部門運営委員会 日時：2025 年 4 月 14 日（月）～4 月 18 日（金） 場所：メール審議 議題：審議 6 件, 報告 5 件 計 11 件</li> <li>・部門賞募集と選定 2025 年 6 月 13 日 推薦候補者の決定</li> <li>・第 4 回 SI 部門運営委員会</li> </ul>

	<p>日時：2025年6月5日（木） 場所：やまがた県民ホール（オンラインとハイブリッド） 議題：審議 11 件，報告 3 件 計 14 件 参加人数：25 名（現地）</p>
--	--

2025 年度事業計画	2025 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部門運営委員会（幹事団）による部会活動フォロー 計画消化、支部・他部門連携、コンプライアンス</li> <li>・WWW サイト情報発信</li> <li>・表彰委員会による部門賞選定と部門学術講演会における贈賞</li> <li>・レスキューロボットコンテスト</li> <li>・RT ミドルウェアコンテスト</li> <li>・当年度、次年度、次次年度部門学術講演会運営企画フォロー</li> <li>・次年度部門国際会議 SII 開催に向けた SII Steering Committee の運営フォローと次次年度以降の SII 開催地、実行委員長選定、企画運営のフォロー</li> <li>・SIYA-SII 賞運営</li> <li>・2025 年度体制の決定と予算策定の実施</li> <li>・本部委員の供出・情報発信 和英会誌、学会賞、AC、代議員</li> <li>・経産省 WRS 競技会 表彰</li> <li>・特定費用準備資金による IROS 事業支援</li> <li>・部門学術講演会 SI</li> <li>・第 5 回運営委員会（8 月：メール審議）</li> <li>・第 6 回運営委員会（9 月）</li> <li>・第 7 回運営委員会（10 月：メール審議）</li> <li>・第 8 回運営委員会（11 月：メール審議）</li> <li>・第 9 回運営委員会（12 月）</li> </ul>	<p>●7～12 月</p> <p>下記を計画通り実施した。詳細は部門協議会で報告済み。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部門運営委員会（幹事団）による部会活動フォロー 計画消化、支部・他部門連携、コンプライアンス</li> <li>・WWW サイトにて情報を発信した</li> <li>・表彰委員会による部門賞の募集を実施した</li> <li>・部門運営委員会にて当年度、次年度、次次年度部門学術講演会の運営企画をフォローした。</li> <li>・第 5 回 SI 部門運営委員会 日時：2025 年 7 月 18 日 場所：メール審議 議題：4 件、報告 2 件 計 6 件</li> <li>・第 6 回 SI 部門運営委員会 日時：2025 年 9 月 4 日 場所：東京科学大学（RSJ 会場） 議題：7 件、報告 3 件 計 10 件</li> <li>・レスキューロボットコンテスト 日時：6 月 29 日、8 月 9～10 日 場所：咲洲モリーナ、神戸サンボーホール</li> <li>・第 7 回 SI 部門運営委員会 日時：2025 年 10 月 10 日 議題：5 件、報告 2 件 計 7 件</li> <li>・第 8 回 SI 部門運営委員会 日時：2025 年 11 月 14 日 議題：6 件、報告 1 件 計 7 件</li> <li>・2026 年度体制の決定と予算策定の実施</li> <li>・SIYA-SII 賞運営、募集終了、審査委員会組織</li> <li>・次年度部門国際会議 SII 開催に向けた SII Steering Committee の運営フォローと次次年度以降の SII 開催地、実行委員長選定、企画運営のフォロー</li> <li>・RT ミドルウェアコンテスト 日時：2025 年 12 月 10 日 場所：JMS アステールプラザ</li> <li>・本部委員の供出・情報発信 和英会誌、学会賞、AC、代議員</li> <li>・経産省 WRS 競技会 表彰</li> </ul>

	<p>日時：2025年10月10日～12日 場所：福島ロボットテストフィールド</p> <p>・特定費用準備資金による IROS 事業支援 日時：2025年10月20日～24日 場所：中国・杭州</p> <p>・部門学術講演会 SI2025 日時：2025年12月10日～12日 場所：広島国際会議場</p> <p>・第9回 SI 部門運営委員会 日時：2025年12月11日 場所：広島国際会議場（SI会場） 議題：6件，報告1件 計7件</p>
--	--

## 2025 年度事業計画・実施報告

組織名	産業応用部門	担当	澤田部門長
-----	--------	----	-------

2025 年度事業計画（本組織担当分）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ AI、IoT、ビッグデータ等新しい技術に関する SICE 企画（2.1）</li> <li>・ 企業会員のためのチュートリアル講演会の企画・実施（新 WG の検討）（5.1）</li> <li>・ コンファレンス活動（AC、部門大会、部会研究会、支部大会等）の全体調整と見直し(8.1)</li> <li>・ 新規特定用途準備資金の有効活用(10.2)</li> <li>・ 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守（14.1）</li> </ul>

2025 年度事業計画	2025 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <p>◆部門運営委員会            新年度運営体制構築            部門大会企画準備            学会運営業務負荷低減策検討</p> <p>◆制御部門マルチシンポジウム（MSCS2025）との連携の企画・実施</p> <p>◆部会活動            ・ 会員企業向けセミナー            ・ 計装寺子屋セミナー            ・ よく知る会</p> <p>◆産業応用部門大会            ・ 制御部門招待 OS 立案</p> <p>・ 部門賞候補者推薦募集</p> <p>・ 各部会主催行事の準備・実施</p>	<p>●1～6 月</p> <p>・ 部門運営委員会：            2/28 第 1 回                新年度体制の確認            3/28 第 2 回                新年度体制の確認                年間イベントの確認            産業応用部門 2025 年度大会            2025 年 11 月 26 日（水）            場所 住友重機械工業株式会社 技術研究所            5/22 第 3 回                産業応用部門大会準備                計測技術&amp;SICE 産業応用部門制御部会合同 OS/                ネット部会 OS コラボ企画の承認</p> <p>3/2 制御部門マルチシンポジウム（MSCS2025）との連携 産業応用部門招待 OS 企画・実施            発表件数 4 件 参加者数 40 名</p>

2025 年度事業計画	2025 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 部門運営委員会 部門大会の企画確認、各種広報 部門大会の実施準備 次年度部門大会での OS 連携に向けた企画調整</li> <li>・ SICE AC におけるスペシャルセッションや 関連 OS の運営・実施</li> <li>・ 産業応用部門大会(11/26)の実施</li> <li>・ 部門賞候補者推薦 審査・決定、表彰の実施</li> <li>・ 各部会主催行事の準備・実施</li>   <li>・ 会員企業向けセミナー</li> <li>・ 計装寺子屋セミナー</li> <li>・ よく知る会</li> </ul>	<p>●7～12 月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 部門運営委員会： 7/7 第 4 回 産業応用部門大会準備</li> <li>9/10,11 SICE FES 2025 にて Organized Session “Practical Challenges and Solutions of Computer and Network Systems in Industrial Applications “を企画・実施 発表件数 16 件 参加者数 30 名</li> <li>9/12 SICE FES 2025 にて Special Panel Session “OT Cybersecurity - Current Status of Thailand and Japan” を企画・実施。 登壇者数 5 件 参加者数 30 名</li> <li>・ 部門運営委員会： 9/24 第 5 回 産業応用部門大会準備</li> <li>・ 計装寺子屋セミナー レベル計篇 11/20 実施</li> <li>11/26 部門大会実施 基調講演:2 件 流体計測制御シンポジウム:5 件 制御部門/産業応用部門合同企画 OS 産業ネットワーク・システムシンポジウム:7 件 38 名参加</li> <li>・ 部門運営委員会： 12/23 第 6 回 産業応用部門大会振り返り 部門大会運営システム Confit の継続利用 メーリングリスト不達問題</li> </ul>

## 2025 年度事業計画・実施報告

組織名	ライフエンジニアリング部門	担当	田中部門長
-----	---------------	----	-------

2025 年度事業計画（本組織担当分）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SICE の存在意義と「さいす学」を定義する。(0.1)</li> <li>・ SICE FES 2025 等に向けた部門・支部・委員会の柔軟な連携企画 (1.1)</li> <li>・カンファレンス活動（FES、部門大会、部会研究会、支部大会等）の全体調整と FES 化を見据えた見直し (2.1)</li> <li>・継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守 (6.1)</li> <li>・部門・部会・支部活動の可視化、ウェブ発信 (7.1)</li> </ul>

2025 年度事業計画	2025 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本生体医工学会、電子情報通信学会 ME とバイオサイバネティクス研究会等と合同で生体医工学に関する講演会を実施する。</li> <li>2. 前、現、次期、次次期部門長会議により、中期ビジョンが達成できる組織運営を築く。</li> <li>3. 部門・部会合同運営委員会を実施することにより、効率的な管理体制を構築し、財務体質の健全化を図る。</li> <li>4. 部門・部会のイベント開催や諸事業の収益構造の改善を通じて部門の財務体質の健全化を図る。</li> </ol>	<p>●1～6 月</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生体・生理工学部会講演会を開催した（電子情報通信学会 MBE 研究会・NC 研究会と共催，3 月 5 日～6 日，東京大学）【参加人数 15 名】</li> <li>2. 第 1 回部門・4 部会合同運営委員会（4 月 4 日，オンライン）において，前部門長，現部門長，次期部門長の間で中期ビジョン達成に関して具体的な意見交換を行った。</li> <li>3. 第 1 回部門・4 部会合同運営委員会（4 月 4 日，オンライン）において，今後の部門の在り方や学会運営に関して，意見交換を行った。</li> <li>4. LE 部門シンポジウム 2025 の開催（9 月 18 日～ 19 日）に向けての準備を進めている。</li> </ol>

2025 年度事業計画	2025 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ライフエンジニアリング部門シンポジウム／生体・生理工学シンポジウムを部門主導のもと、全部会の協力で実施する。</li> <li>2. ライフエンジニアリング分野の若手研究者の研究を奨励するため、ライフエンジニアリング部門シンポジウム発表者の中から、優秀な研究者を選抜し、研究奨励賞を授与する。中高生向けの無料講座を開催することで、ライフエンジニアリング分野の活性化を図る。</li> <li>3. 日本生体医工学会、電子情報通信学会 ME とバイオサイバネティクス研究会等と合同で大学院生、若手研究者を対象に、生体医工学に関するサマースクールを実施する。</li> <li>4. 電気生理運動学部会において、研究会を実施する。</li> <li>5. ユビキタスヘルスケア部会において、研究会を実施する。</li> <li>6. 統合情報生物工学部会において、研究会を実施する。</li> <li>7. 上期に引き続き、前、現、次期、次次期部門長会議により、中期ビジョンが達成できる組織運営を築く。</li> <li>8. 上期に引き続き、部門・部会合同運営委員会を実施することにより、効率的な管理体制を構築し、財務体質の健全化を図る。</li> <li>9. 上期に引き続き、部門・部会のイベント開催や諸事業の収益構造の改善を通じて部門の財務体質の健全化を図る。</li> </ol>	<p>●7～12 月</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 9 月 18 日・19 日にライフエンジニアリング部門シンポジウム／生体・生理工学シンポジウム（千葉大学）を部門主導のもと、全部会の協力で実施した。</li> <li>2. ライフエンジニアリング分野の若手研究者の研究を奨励するため、ライフエンジニアリング部門シンポジウム発表者の中から、優秀な研究者を 2 名を選抜し、研究奨励賞を授与した。</li> <li>3. 8 月 23 日・24 日日本生体医工学会、電子情報通信学会 ME とバイオサイバネティクス研究会等と合同で大学院生、若手研究者を対象に、生体医工学に関するサマースクールを実施した。</li> <li>4. 電気生理運動学部会において、研究会を 2026 年 3 月慶應義塾大学にて実施予定。</li> <li>5. 未定</li> <li>6. 統合情報生物工学部会において、8 月 22 日に電気学会 光量子デバイス技術研究会と共催の研究会実施した。</li> <li>7. 第 2 回部門・4 部会合同運営委員会（9 月 18 日）において、今後の部門の在り方や学会運営に関して、意見交換を行った。</li> <li>8. 第 2 回部門・4 部会合同運営委員会（9 月 18 日）において、今後の財務について検討した。</li> <li>9. 第 2 回部門・4 部会合同運営委員会（9 月 18 日）において、部門・部会のイベント開催や諸事業の収益構造のチェックを行った。</li> </ol>

## 2025 年度事業計画・実施報告

組織名	支部協議会	担当	池田議長、河合副議長
-----	-------	----	------------

2025 年度事業計画（本組織担当分）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SICE の存在意義と「さいす学」を定義する。(0.1)</li> <li>・ SICE_FES_2025 等に向けた部門・支部・委員会の柔軟な連携企画 (1. 1)</li> <li>・ 特定費用準備資金の有効活用 (1. 2)</li> <li>・ 部門・支部のあり方についての検討 (1. 3)</li> <li>・ カンファレンス活動（FES、部門大会、部会研究会、支部大会等）の全体調整と FES 化を見据えた見直し (2.1)</li> <li>・ 部門・部会・支部活動の可視化、ウェブ発信 (7.1)</li> <li>・ 国際標準化活動の促進および表彰 (8.4)</li> <li>・ 地方活性化の検討（非会員地元企業との連携、など） (10.4)</li> </ul>

2025 年度事業計画	2025 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <p>2 月 支部協議会準備会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各支部の新体制の確認</li> <li>・ 2025 年度支部協議会・各支部事業計画の確認</li> </ul> <p>①支部協議会 年 4 回開催</p> <p>②部門・支部合同会議 開催有無含め議論</p> <p>③各支部現況報告および支部事業計画確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支部活性化に関する検討状況の情報共有</li> </ul> <p>支部活動活性化策について：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 支部・部門活動好事例の共有及びその方法</li> <li>- インセンティブ事業</li> <li>- 部門・支部合同会議について など</li> <li>- その他</li> </ul> <p>3 月 部門・支部合同会議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 部門・支部の課題共有等</li> <li>- その他</li> </ul> <p>4 月 第 1 回支部協議会（SICE 事務局＋Web）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 審議事項：各支部付議事項の審議</li> <li>- 各支部活動状況の確認 (周年事業準備状況確認を含む)</li> <li>- 支部活性化に関する検討状況の確認</li> <li>- その他</li> </ul>	<p>●1～6 月</p> <p>2 月 3 日 第 5 回支部協議会（SICE 事務局＋Web）（支部協議会準備会）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各支部の新体制の確認</li> <li>・ 2025 年度支部協議会・各支部事業計画の確認</li> </ul> <p>①支部協議会 年 4 回開催</p> <p>②部門・支部合同会議 開催有無含め議論</p> <p>③各支部現況報告および支部事業計画確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支部活性化に関する検討状況の情報共有</li> <li>・ 支部活動活性化策について：</li> <li>- インセンティブ事業</li> <li>- 部門・支部合同会議について など</li> <li>・ その他</li> </ul> <p>4 月 23 日 第 6 回 2025 年度第 1 回新旧合同支部協議会（エッサム神田ホール第 2 ビル 702 会議室 &amp; オンライン）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 審議事項：各支部付議事項の審議</li> <li>・ 各支部活動状況の確認 (周年事業準備状況確認を含む)</li> <li>・ 支部活性化に関する検討状況の確認</li> <li>・ その他</li> </ul> <p>同日 部門・支部合同協議会（エッサム神田ホール第 2 ビル 702 会議室 &amp; オンライン）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 部門および支部の課題共有</li> <li>・ 部門と支部の協力方法のアイデア共有</li> </ul>

2025 年度事業計画	2025 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p>7 月 第 2 回支部協議会 (SICE 事務局+Web)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 審議事項：各支部付議事項の審議</li> <li>- 各支部活動状況の確認 (周年事業準備状況確認を含む)</li> <li>- 支部活性化に関する検討状況の確認</li> <li>- その他</li> </ul> <p>8 月 第 3 回支部協議会 (SICE 事務局+Web)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 審議事項：各支部付議事項の審議</li> <li>- 各支部活動状況の確認 (周年事業準備状況確認を含む)</li> <li>- 支部活性化に関する検討状況の確認</li> <li>- その他</li> </ul> <p>9 月 部門・支部合同会議 (SICE-FES、拡大理事ワークショップ、部門協議会と併催)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 部門・支部連携に向けた情報共有</li> </ul> <p>11 月 第 4 回支部協議会 (SICE 事務局+Web)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 審議事項：各支部付議事項の審議</li> <li>- 各支部活動状況の確認 (周年事業準備状況確認を含む)</li> <li>- 支部活性化に関する検討状況の確認</li> <li>- その他</li> <li>-</li> </ul>	<p>●7～12 月</p> <p>7 月 23 日 第 2 回支部協議会 (SICE 事務局+Web)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 審議事項：各支部付議事項の審議</li> <li>- 各支部活動状況の確認</li> <li>- 北陸支部 30 周年行事について</li> <li>- 関西支部シンポジウムについて</li> <li>- 拡大理事 WS に向けての意見聴取</li> <li>- ダイバーシティ推進 WS の報告</li> <li>- その他</li> </ul> <p>10 月 2 日 部門・支部合同会議 (第 3 回支部協議会と同時開催) (SICE 事務局+Web)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 審議事項：各支部付議事項の審議</li> <li>- 各支部活動状況の確認</li> <li>- 北陸支部 30 周年行事について</li> <li>- 拡大理事 WS の報告</li> <li>- 部門・支部活性化に関する意見交換</li> <li>- 計測と制御の記事執筆への協力依頼</li> <li>- その他</li> </ul> <p>11 月 27 日 第 4 回支部協議会 (SICE 事務局+Web)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 審議事項：各支部付議事項の審議</li> <li>- 各支部活動状況の確認</li> <li>- 北陸支部 30 周年行事について</li> <li>- 四国支部 60 周年行事について</li> <li>- その他</li> </ul>

## 2025 年度事業計画・実施報告

組織名	北海道支部	担当	花島支部長
-----	-------	----	-------

2025 年度事業計画 (本組織担当分)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SICE の存在意義と「さいす学」を定義する。(0.1)</li> <li>・ SICE FES 2025 等に向けた部門・支部・委員会の柔軟な連携企画 (1.1)</li> <li>・ カンファレンス活動 (FES、部門大会、部会研究会、支部大会等) の全体調整と FES 化を見据えた見直し (2.1)</li> <li>・ 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守 (6.1)</li> <li>・ アフターコロナにおける新たな学会活動スタイルの推進 (6.2)</li> <li>・ 部門・部会・支部活動の可視化、ウェブ発信 (7.1)</li> </ul>

2025 年度事業計画	2025 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支部会議</li>   <li>・ 第 57 回計測自動制御学会北海道支部学術講演会(日本ロボット学会北海道ロボット技術研究専門委員会との共催)</li>   <li>・ 計測自動制御学会北海道支部主催特別講演会</li>   <li>・ 共催行事：日本ロボット学会北海道ロボット技術研究専門委員会特別講演会</li>   <li>・ 共催行事：複雑系マイクロシンポジウム</li>   <li>・ 支部運営委員会</li> </ul>	<p>●1～6 月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1 月 31 日 (金) オンライン開催, 参加者 8 名, 委任状 32</li>   <li>・ 3 月 7 日 (金), 8 日 (土) に実施. オンライン開催, 講演件数 34 件, 参加者 55 名 支部奨励賞を 2 名選考 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 吉川元耶 (室蘭工業大学)「上体を持つ 2 足歩行ロボットの周期入力制御」</li> <li>・ 佐藤暉碁 (神奈川大学)「ロープ展開角度に依存しない走行ロボットの姿勢制御」</li> </ul> </li>   <li>・ 支部学術講演会に合わせて 3 月 7 日に実施 講師：安藤慶昭氏 (産業技術総合研究所), 題目：システムインテグレーションとロボットミドルウェア, 参加者 77 名 (うちオンライン 44 名), 見逃し配信 67 名</li>   <li>・ 同上</li>   <li>・ 共催依頼なし</li>   <li>・ 第 1 回 1 月 31 日, 第 2 回 4 月 17 日, 支部奨励賞選考委員会 3 月 13 日～28 日</li> </ul>

2025 年度事業計画	2025 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 協賛事業：ロボットトライアスロン</li>   <li>・ 協賛事業：大規模環境 3 次元計測と認識・モデル化技術集中講演会</li>   <li>・ 産業応用セミナー</li>   <li>・ 支部運営委員会</li>   <li>・ 支部選挙</li> </ul>	<p>●7～12 月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 9 月 7 日(日) 15 チーム出場, 60 名参加</li>   <li>・ なし</li>   <li>・ なし</li>   <li>・ 第 3 回 9 月 19 日～30 日, 第 4 回 12 月 16 日～20 日</li>   <li>・ 12 月 23 日～翌 1 月 16 日</li> </ul>

## 2025 年度事業計画・実施報告

組織名	東北支部	担当	張山支部長
-----	------	----	-------

2025 年度事業計画（本組織担当分）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SICE の存在意義と「さいす学」を定義する。(0.1)</li> <li>・ SICE FES 2025 等に向けた部門・支部・委員会の柔軟な連携企画 (1.1)</li> <li>・カンファレンス活動（FES、部門大会、部会研究会、支部大会等）の全体調整と FES 化を見据えた見直し (2.1)</li> <li>・継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守 (6.1)</li> <li>・アフターコロナにおける新たな学会活動スタイルの推進 (6.2)</li> <li>・部門・部会・支部活動の可視化、ウェブ発信 (7.1)</li> </ul>

2025年度事業計画	2025年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <p>東北支部会議（1 月）</p> <p>東北支部研究集会（第 351 回～355 回）</p> <p>東北支部優秀発表奨励賞（各研究集会ごと）</p> <p>【後援事業】学都仙台・宮城サイエンス・デイ 2025</p>	<p>●1～6 月</p> <p><b>東北支部会議（オンライン）</b> 日時：2 月 12 日（水）13:00～14:00</p> <p><b>第 351 回 東北支部研究集会</b> 日時：3 月 14 日（金）13:30～15:25 場所：東北大学 演題数：5 件 参加者数：11 名</p> <p>学術奨励賞：三上 真理子（東北大学）「乳房 X 線画像正常例で訓練した拡散モデルによる異常検知に関する研究」</p> <p><b>第 352 回 東北支部研究集会</b> 日時：5 月 26 日（月）13:30～17:00 場所：岩手大学 復興祈念銀河ホール 演題数：13 件 参加者数：30 名</p> <p>学術奨励賞： 1)田代 周平（岩手大学）「MEMS オーディオデバイスを用いた多チャンネル超音波風速計測」 2)斎藤 紀代太（岩手大学）「路面形状予測に資する自律移動ロボットのシミュレーション」</p>

2025年度事業計画	2025年度実施結果
<p>●7～12月</p> <p>東北支部研究集会（第354回～356回）</p> <p>東北支部優秀発表奨励賞（各研究集会ごと）</p> <p>【共催事業】電気自動車エコラン競技大会（8月）東北支部特別賞（エコラン競技大会）</p>	<p>●7～12月</p> <p><b>第353回 東北支部研究集会</b>  日時：7月14日（月）14:00～16:45  場所：八戸工業高等専門学校  演題数：10件  参加者数：18名</p> <p>学術奨励賞（候補）：  1)竹花 佳祐（東北大学）「惑星探査ローバーの砂地走行における動的挙動を考慮した車輪力学計測」  2)渡邊 詩織（弘前大学）「自動採血ロボット開発のためのヒトと等価な散乱特性を有する模擬皮膚の開発」</p> <p><b>学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ2025</b>  日時：7月20日（日）  場所：東北大学河内キャンパス</p> <p><b>第354回 東北支部研究集会</b>  日時：9月29日（月）14:00～16:15  場所：秋田県立大学 本荘キャンパス 共通施設棟 2階 大講義室  演題数：6件  参加者数：13名</p> <p>学術奨励賞：  岩倉 龍之介（東北大学）「子どもの遊び行動解析に向けた多人数同時位置計測のフィールド実験」</p> <p><b>第355回 東北支部研究集会</b>  日時：11月8日（土）14:00～15:55  場所：福島大学 共生システム理工学類 後援募金記念棟 会議室  演題数：5件  参加者数：12名</p> <p>学術奨励賞（候補）：  川村 颯（福島大学）「粒子フィルタを用いた補人工心臓装着時の循環状態推定」</p> <p><b>第356回 東北支部研究集会</b>  日時：12月10日（水）13:30～17:15  場所：山形大学工学部米沢キャンパス 4号館  演題数：14件  参加者数：25名</p> <p>学術奨励賞（候補）：  安藤 礼弥（山形大学）「4脚歩行のための結合振動子における分岐理論に基づく歩容遷移」</p>

## 2025 年度事業計画・実施報告

組織名	中部支部	担当	坂本支部長
-----	------	----	-------

2025 年度事業計画 (本組織担当分)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SICE の存在意義と「さいす学」を定義する。(0.1)</li> <li>・ SICE FES 2025 等に向けた部門・支部・委員会の柔軟な連携企画 (1.1)</li> <li>・ カンファレンス活動 (FES、部門大会、部会研究会、支部大会等) の全体調整と FES 化を見据えた見直し (2.1)</li> <li>・ 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守 (6.1)</li> <li>・ アフターコロナにおける新たな学会活動スタイルの推進 (6.2)</li> <li>・ 部門・部会・支部活動の可視化、ウェブ発信 (7.1)</li> </ul>

2025 年度事業計画	2025 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <p>(1 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支部会議</li> <li>・ 特別講演会</li> <li>・ 支部賞表彰</li> <li>・ 第 1 回運営委員会・事業委員会</li> </ul> <p>(2 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第 56 学業優秀賞審査</li> </ul> <p>(3 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第 56 学業優秀賞表彰</li> </ul> <p>(4 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第 2 回運営委員会・事業委員会</li> </ul> <p>(1-6 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支部研究委員会事業</li> </ul>	<p>●1～6 月</p> <p>(2 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支部会議 参加者 25 名 (委任状 79 通) 2 月 1 日(土) 名古屋大学とオンライン</li> <li>・ 特別講演会 2 月 1 日(土) 名古屋大学とオンライン 演題:「人とロボットが共存する社会に資するシステム インテグレーション」 講師: 名城大学 理工学部 教授 大原 賢一 氏</li> <li>・ 55 期支部賞表彰 教育賞 1 件 山田 実 (岐阜工業高等専門学校)</li> <li>・ 第一回運営委員会・事業委員会 参加者 25 名 2 月 1 日(土) 名古屋大学とオンライン</li> <li>・ 第 56 学業優秀賞審査を実施 (申請 14 件)</li> </ul> <p>(3 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第 56 期学業優秀賞表彰 (受賞 14 件) 大塚康平 (名古屋大学), 井上弘貴 (信州大学), 坪本桂 青 (信州大学), 勝又颯 (名古屋工業大学), 中谷春陽 (名 古屋工業大学), 宮川将嘉 (名城大学), 田辺碧衣 (名城 大学), 牛尾颯人 (岐阜高専), 吉川潤 (豊橋技術科学大 学), 栗田皓太 (三重大学), 中森秀 (三重大学), 大橋 南海 (南山大学), 大埜謙吾 (岐阜大学), 鬼頭佑昇 (豊 田工業大学)</li> <li>・ 第 2 回運営委員会・事業委員会 参加者 22 名 3 月 25 日 (火) オンラインで実施 第 56 期支部賞運営方針, および見学会案の承認</li> </ul> <p>(1-6 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支部研究委員会事業 第 177 回教育工学研究会 3 月 17 日 (月) 大同大学滝春校舎 発表 16 件 (内, 学生発表 13 件), 参加者 29 名 (内, SICE 会員 9 名)</li> </ul>

	<p>学生優秀発表賞 1名表彰 中嶋健登 (豊田工業高等専門学校) 発表題名: Web カメラによる被写体の三次元座標取得システムの開発</p> <p>制御理論研究委員会ワーキングセミナー (第1回) 5月28日 (水) 名古屋大学 講演者: Matthijs van Berkel 氏 Group leader Energy Systems &amp; Control Dutch Institute for Fundamental Energy Research (DIFFER) 題目: Distributed identification and control in nuclear fusion reactors 参加者 11名 (内, SICE 会員 5名)</p> <p>制御理論研究委員会ワーキングセミナー (第2回) 6月26日 (水) 名古屋工業大学 講演者: 橋本 和宗 先生 (大阪大学) 題目: 信号時相論理に基づく運転タスク生成モデルの構築とその先進運転支援システムへの応用 参加者 12名 (内, SICE 会員 5名)</p>
--	--

2025 年度事業計画	2025 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p>(7 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見学会 (三菱重工株式会社・飛島工場)</li> <li>・第 3 回運営委員会・事業委員会</li> </ul> <p>(9 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中部支部シンポジウム</li> <li>・中部支部技術講習会</li> </ul> <p>(10 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見学会</li> <li>・第 56 期支部賞審査</li> </ul> <p>(11 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第 4 回運営委員会・事業委員会</li> <li>・顧問会議</li> <li>・研究発表&amp;企業交流会</li> </ul> <p>(7-12 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支部研究委員会事業</li> </ul>	<p>●7～12 月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第 3 回運営委員会・事業委員会 参加者 20 名 7 月 1 日 (火) オンラインで実施 第 56 期事業計画, および学業優秀賞案の承認など</li> <li>・見学会 7 月 9 日 (水) 三菱重工株式会社・飛島工場 参加者 32 名</li> <li>・支部研究委員会事業 第一回統合知能メカトロシステム研究委員会講演会 7 月 2 日 (水) 参加者 25 名 (対面), 500 名 (オンライン) 講師: 横浜国立大学 下野誠通先生 演題: モーションデータの利活用による医療デバイスの高機能化</li> <li>信州地区計測制御研究委員会 講演会 7 月 8 日 (火) 参加者 31 名 (対面), 22 名 (オンライン) 講演者: 安田 宗樹 教授 (山形大学大学院理工学研究科) 題目: 統計的機械学習のポテンシャル</li> <li>計測自動制御学会中部支部・南山大学理工学研究センター共催講演会 7 月 14 日 (月) 場所: 名古屋工業大学 講師: Gennaro Notomista 氏 (University of Waterloo) 題目: Analytic Center Controller Selection for Long-term Autonomy and Robot Ecology 参加者 16 名 (内, SICE 会員 4 名)</li> <li>第 178 回教育工学研究会 9 月 12 日 (金) 大同大学滝春校舎 参加者 14 名 (内, SICE 会員 6 名)</li> <li>学生優秀発表賞: 1 名表彰 志波颯 (大同大学大学院) 発表題名: LiDAR の取り付け方法の違いによる 3 次元 SLAM パッケージの性能評価</li> <li>中部支部シンポジウム 9 月 19 日 (金) 会場: 信州大学繊維学部 総合研究棟 7F ミーティングルーム 参加者 80 名 (シンポジウム), 19 名 (技術交流会)</li> </ul>

	<p>学生優秀発表賞：5名表彰  木下雅智(信州大学), 東方龍之介(長野大学), 坂下義和(信州大学), 藤川薫(芝浦工業大学), 金久保朋希(信州大学)</p> <p>計測自動制御学会中部支部 技術講習会  9月12日(金)  参加者15名(内, SICE正会員4名, SICE学生会員2名)  第一部「機械学習・深層学習の基礎」山崎浩先生〔長野県工科短期大学校教授〕  第二部「MATLAB/SimulinkによるAI・ディープラーニングとロボットシステムへの実装」草野駿一様</p> <p>第136回電機計測制御技術ワーキングセミナー  11月7日(金), 名古屋大学  参加者44名  【講演1】  計測自動制御学会中部支部「電機計測制御技術ワーキングセミナー」  講演題目: 予ひずみを有する布の形状モデリングとロボット応用  講演者: 岩本 憲泰 先生(信州大学 繊維学部 機械・ロボット学科)  【講演2】  講演題目: 静岡大学モータ工学研究室の紹介  講演者: 朝間 淳一 先生(静岡大学 工学部 機械工学科)</p> <p>研究発表&amp;企業交流会  11月26日(水), imy会議室  参加者101名  学生(大学院生, 大学生, 高専生など)によるポスター発表  大学, 高専, 専門学校等に所属する若手研究者, 技術者によるポスター発表</p> <p>受賞者は以下の通り.  【部門A(高専本科・学部2年以下)】  後藤 健斗, 須山 大樹(岐阜工業高等専門学校)  熱膨張による低熱膨張CFRP躯体の伸縮を評価するための光学計測システムの開発  【部門B(学部4年・高専専攻科)】  増元 智己(大同大学)  次世代電子サスペンション"ServoDrive"の提案  【部門C(大学院生)】  上田 優真(愛知工業大学)  低温可変剛性材料TRFを用いた内視鏡の先端部の剛性特性評価  竹内 樹(名城大学)  地図特徴による Swin Transformer ベース深度推定の</p>
--	--

	<p>精度向上</p> <p>第 137 回電機計測制御技術ワーキングセミナー 12 月 2 日 (火), 名古屋大学 参加者 43 名</p> <p>【講演 1】 計測自動制御学会中部支部「電機計測制御技術ワーキングセミナー」 講演題目: つなぐ力” が創る高付加価値パワーエレクトロニクス ―材料・素子・回路・システムが連携することの大切さ― 講演者: 今岡 淳先生 (名古屋大学)</p> <p>【講演 2】 講演題目: スイッチング電源の制御技術における基礎から応用まで 講演者: 川上 太知 先生 (大阪公立大学工業高等専門学校)</p> <p>計測自動制御学会中部支部ワーキングセミナー発表賞: 竹内樹 (名城大学) 題目: 三次元地図入力と物体検出による Transformer ベース距離推定の精度向上</p> <p>第二回統合知能メカトロシステム研究委員会講演会 12 月 3 日 (水) 参加者 36 名 (対面 13 名, オンライン 23 名)</p> <p>講演者 名古屋大学 舟洞佑記 先生 講演題目 ヒトーロボット間の物理的なインタラクションに基づくロボットシステムデザイン</p> <p>・第 4 回運営委員会・事業委員会 参加者 23 名 11 月 11 日 (火) オンラインで実施</p>
--	---

## 2025 年度事業計画・実施報告

組織名	北陸支部	担当	伊藤 (恒) 支部長
-----	------	----	------------

2025 年度事業計画 (本組織担当分)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SICE の存在意義と「さいす学」を定義する。(0.1)</li> <li>・ SICE FES 2025 等に向けた部門・支部・委員会の柔軟な連携企画 (1.1)</li> <li>・ カンファレンス活動 (FES、部門大会、部会研究会、支部大会等) の全体調整と FES 化を見据えた見直し (2.1)</li> <li>・ 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守 (6.1)</li> <li>・ アフターコロナにおける新たな学会活動スタイルの推進 (6.2)</li> <li>・ 部門・部会・支部活動の可視化、ウェブ発信 (7.1)</li> </ul>

2025 年度事業計画	2025 年度実施結果
<p>● 1～6 月</p> <p>1 月 新旧合同運営委員会, 支部会議, 特別講演会</p> <p>2 月 優秀学生賞の表彰</p> <p>3 月 日本機械学会北陸信越支部 2025 年合同講演会 (共催)</p> <p>4 月 第 1 回運営委員会</p> <p>4 月 計測自動制御学会北陸支部 SICE Annual Conference 学生発表助成の募集</p> <p>4 月 計測自動制御学会北陸支部 SICE Annual Conference 若手奨励賞の募集</p> <p>6 月 計測自動制御学会北陸支部 優秀論文発表賞の募集</p>	<p>● 1～6 月</p> <p>1/17 新旧合同運営委員会, 支部会議, 特別講演会: 大学コンソーシアム富山 駅前キャンパス 研修室 1 にて開催された新旧合同運営委員会には運営委員が 9 名, 6 議題について審議し可決した. 支部会議には運営委員を含む会員が 15 名参加し, 5 議題について審議し可決した. 特別企画は, 講師の河合宏之氏 (金沢工業大学) に特別講演「リハビリシステム構築に向けた人体の FES 運動制御」をいただいた.</p> <p>2/1 優秀学生賞の表彰: 北陸地区の高等専門学校, 大学, 大学院 11 校より合計 20 名の学生を表彰した.</p> <p>3/7・3/8 日本機械学会北陸信越支部 2025 年合同講演会 (共催): 新潟大学五十嵐キャンパスにて対面開催され, 229 件の発表 (一般講演 153 件, 学生会 76 件) があり, 342 名が参加した.</p> <p>5/20 第 1 回運営委員会 オンラインにて開催され, 6 名の運営委員により, 3 件の報告事項, 12 件の審議議案が審議され可決された.</p> <p>6/19 募集開始. 7/18 募集終了.</p> <p>6/19 募集開始. 7/18 募集終了.</p> <p>6/25 募集開始. 8/1 募集終了.</p>

2025 年度事業計画	2025 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p>7 月 第 2 回運営委員会（メール審議）</p> <p>8 月 計測自動制御学会北陸支部 SICE Annual Conference 学生参加助成の助成決定通知</p> <p>9 月 電気・情報関係学会北陸支部連合講演会の主催</p> <p>9 月 北陸支部講演会（兼電気・情報関係学会北陸支部招待講演）の開催</p> <p>9 月 第 3 回運営委員会の開催</p> <p>9 月 優秀論文発表賞の表彰</p> <p>9 月 計測自動制御学会北陸支部 SICE Annual Conference 若手奨励賞の表彰</p> <p>11 月 第 1 回北陸支部講演会の開催</p> <p>11 月 第 4 回運営委員会の開催（メール審議）</p> <p>11 月 優秀学生賞の募集</p> <p>12 月 日本生体医工学会北陸支部講演会（共催）</p>	<p>●7～12 月</p> <p>7/28～8/1 第 2 回運営委員会 メール審議にて開催され、7 名の運営委員により、1 件の議案が審議され可決された。また、SICE Annual Conference 学生参加助成の決定通知を財部 駿星氏（北陸先端科学技術大学院大学）1 名に送付した。計測自動制御学会北陸支部 SICE Annual Conference 若手奨励賞の助成内定決定通知を小俣 理音氏（富山県立大学大学院）1 名に送付した。正式な受賞は、発表後に送付予定。</p> <p>9/20 オンラインにて開催され、651 名の参加があり 190 件の発表があった。</p> <p>9/20 オンラインにて開催され、松本 卓也（富山県立大学）による招待講演「2D LiDAR を用いた車両検知・分類」があり、30 名が参加した。</p> <p>9/20 第 3 回運営委員会 オンラインにて開催され、7 名の運営委員により、12 件の議案が審議され可決された。</p> <p>9/20 第 3 回運営委員会にて審議を行い、規程に基づき山田 晃誠氏（富山県立大学大学院）、村上 遥翔氏（富山県立大学大学院）の 2 名を表彰することを決定した。</p> <p>9/20 計測自動制御学会北陸支部 SICE Annual Conference 若手奨励賞の表彰を小俣 理音氏（富山県立大学大学院）に行った。</p> <p>12/13 第 1 回北陸支部講演会が境界と関係性を視座とする価値創発志向システム学調査研究会と共催で開催された。神戸大学眺望館とオンラインで行われ、松山 裕典先生（富山県立大学）「線虫 <i>C. elegans</i> をモデルとしたシステム神経科学と行動生物学」、（オンライン配信）、杉川智先生（大阪工業大学）「影響度モデルの形式化を目指して」の講演があり、現地参加 14 名、オンライン参加 2 名であった。</p> <p>11/11～11/23 第 4 回運営委員会をメール審議にて行い、7 名の運営委員により 6 件の議案が審議され可決された。</p> <p>11/28 優秀学生賞の募集を北陸地区の高等専門学校、大学、大学院 13 校の正会員代表者に推薦を依頼した。</p> <p>11/29 日本生体医工学会北陸支部講演会（共催）が大学コンソーシアム富山 駅前キャンパスにて開催され、12 件（特別講演 1 件、一般講演 11 件）、参加者は 45 名であった。</p>

## 2025 年度事業計画・実施報告

組織名	関西支部	担当	三輪支部長
-----	------	----	-------

2025 年度事業計画 (本組織担当分)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SICE の存在意義と「さいす学」を定義する。(0.1)</li> <li>・ SICE FES 2025 等に向けた部門・支部・委員会の柔軟な連携企画 (1.1)</li> <li>・カンファレンス活動 (FES、部門大会、部会研究会、支部大会等) の全体調整と FES 化を見据えた見直し (2.1)</li> <li>・継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守 (6.1)</li> <li>・アフターコロナにおける新たな学会活動スタイルの推進 (6.2)</li> <li>・部門・部会・支部活動の可視化、ウェブ発信 (7.1)</li> </ul>

2025 年度事業計画	2025 年度実施結果
<p>●1～6 月 (1 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2024 年度 SICE 関西支部・ISCIE シンポジウム</li> <li>・支部会議</li> <li>・特別講演会</li> <li>・支部長賞授賞式</li> </ul> <p>(4 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和 7 年度 第 1 回運営委員会</li> </ul> <p>(6 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和 7 年度 第 2 回運営委員会</li> <li>・ ISCIE・SICE 関西支部チュートリアル講座</li> </ul> <p>(8 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和 7 年度 第 3 回運営委員会</li> </ul> <p>(随時)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究会活動 (設置申請があった場合)</li> </ul>	<p>●1～6 月 (1 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2024 年 SICE 関西支部・ISCIE シンポジウム (1 月 15 日実施)</li> <li>発表件数 52 件</li> <li>参加者数 100 名</li> <li>・支部会議 (1 月 15 日実施)</li> <li>・特別講演会 (1 月 15 日実施)</li> <li>講師:野田 哲男 氏 (大阪工業大学ロボティクス&amp;デザイン工学部 ロボット工学科 教授) 「研究開発戦略について」</li> <li>・支部長賞授賞式 (1 月 15 日実施)</li> <li>奨励賞 4 件</li> <li>杉山 大輝 (京都大学)</li> <li>Lin Kangyu (京都大学)</li> <li>楠原 里奈 (大阪大学)</li> <li>荻尾 優吾 (大阪大学)</li> </ul>

2025 年度事業計画	2025 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p>(8 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和 7 年度 第 3 回運営委員会</li> </ul> <p>(10 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和 7 年度 第 4 回運営委員会</li> <li>・SICE 関西支部見学会 (計画時)</li> </ul> <p>(11 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支部長賞の募集</li> <li>・SICE 関西支部見学会 (変更)</li> </ul> <p>(12 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支部長賞選考委員会</li> <li>・令和 7 年度 第 5 回運営委員会</li> </ul> <p>(随時)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究会活動 (設置申請があった場合)</li> </ul>	<p>●7～12 月</p> <p>(7 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ISCIE・SICE 関西支部チュートリアル講座</li> <li>・精密工学会関西支部共催 2025 年度 生産技術特別セミナー</li> </ul> <p>(10 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和 7 年度 第 4 回運営委員会</li> </ul> <p>(11 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SICE 関西支部見学会</li> <li>【見学先】ATR (株式会社 国際電気通信基礎技術研究所) 参加者 25 名</li> <li>・研究会活動 (研究リーダー候補抽出、設置実施は来年度見込み)</li> </ul> <p>(12 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支部長賞選考委員会</li> <li>・令和 7 年度 第 5 回運営委員会</li> </ul>

## 2025 年度事業計画・実施報告

組織名	中国支部	担当	笠 支部長
-----	------	----	-------

2025 年度事業計画 (本組織担当分)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SICE の存在意義と「さいす学」を定義する。(0.1)</li> <li>・ SICE FES 2025 等に向けた部門・支部・委員会の柔軟な連携企画 (1.1)</li> <li>・ カンファレンス活動 (FES、部門大会、部会研究会、支部大会等) の全体調整と FES 化を見据えた見直し (2.1)</li> <li>・ 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守 (6.1)</li> <li>・ アフターコロナにおける新たな学会活動スタイルの推進 (6.2)</li> <li>・ 部門・部会・支部活動の可視化、ウェブ発信 (7.1)</li> </ul>

2025 年度事業計画	2025 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <p>1. 第 1 回運営委員会 1 月中旬, Web 会議にて開催</p> <p>2. 支部会議 (総会) 1 月中旬, Web 会議にて開催</p> <p>3. 主催講演会 1 月中旬, Web 会議にて開催</p> <p>4. 拡大運営委員会 5 月中旬, Web 会議にて開催</p>	<p>●1～6 月</p> <p>1. 第 1 回運営委員会 1 月 20 日, Web 会議にて開催</p> <p>2. 支部会議 (総会) 1 月 20 日, Web 会議にて開催 学術講演会表彰式開催 優秀賞 (敬称略) 原田 隼希 (徳山工業高等専門学校) モノドロミ作用素表現に基づく入力むだ時間系のメモ リレス安定化制御器設計について 奨励賞 (敬称略) 赤木 厘仁 (岡山理科大学) エンジン排気熱測定センサの開発 勝野 隼 (広島大学) PDLF を用いたゲインスケジュールド制御器のデー タ駆動設計 角国 環音 (島根大学大学院) 脳波解析を利用したストレス評価モデルによる使用 者の好みに即した操作特性の調整法 行平 将望 (福山大学) 光学式触覚センサーの改良とアプリケーション適用 前田 亜実 (広島大学) 自動車に加わる横方向外乱の推定とキャンセル制御</p> <p>3. 拡大運営委員会 5 月 15 日, Web 会議にて開催、12 名出席 学術講演会会場を岡山理科大学から岡山駅前の会議 室に変更</p> <p>4. 臨時運営委員会 6 月 26 日, Web 会議にて開催、10 名出席、電気・ 情報関連学会中国支部連合大会への参加について審 議した結果、支部事務局の体制を考える必要性があ るとの認識で一致、参加については、今後引き続き検 討することになった。</p>

2025年度事業計画	2025年度実施結果
<p>●7～12月</p> <p>1. 第2回運営委員会（臨時） 9月中旬, 必要に応じてメール会議</p> <p>2. 第3回運営委員会 11月下旬, Web 会議にて開催</p> <p>3. 学術講演会 11月下旬, 岡山理科大学にて開催</p> <p>4. チュートリアル講演会 11～12月頃, 開催地未定</p>	<p>●7～12月</p> <p>1. 支部事業メール配信 8月1日 学術講演会募集開始 9月12日 募集締切延長 9月25日 グループ研究会募集開始</p> <p>2. 第3回運営委員会 11月6日～10日 メール審議 第34回中国支部学術講演会について セッションプログラム案承認</p> <p>3. 学術講演会 日時：2025年11月29日（土） 場所：第一セントラルビル1号館 （岡山県岡山市北区本町6番36号） 一般講演 52件（昨年度 49件） 79名参加 特別講演 題目：リカレンスプロットとその応用 講師：池口 徹 先生（東京理科大学工学部情報工学科教授）</p> <p>4. チュートリアル講演会 日時：2025年12月2日（火） 場所：広島大学 東広島キャンパス フェニックス国際センター（ミライクリエ）大会議 + オンライン 参加者：52名（昨年度 46名） 題目：「筋線維から神経線維へ 人と機械のマッチングと感性フィードバック制御～内閣府 広島大学 デジタルものづくり教育研究センター スマート空調プロジェクト～」 講師：西川 一男（広島大学デジタルものづくり教育研究センター 兼 マツダ株式会社 技術研究所）</p> <p>題目：「不確実性を考慮した生体信号認識:実用的インタフェースへの展開」 講師：古居 彬（広島大学 先進理工系科学研究科）</p> <p>題目：「産業機器の制御から人の感性に着目した制御系の構築～」 講師：木下 拓矢（広島大学 先進理工系科学研究科）</p>

## 2025 年度事業計画・実施報告

組織名	四国支部	担当	前山支部長
-----	------	----	-------

2025 年度事業計画（本組織担当分）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SICE の存在意義と「さいす学」を定義する。(0.1)</li> <li>・ SICE FES 2025 等に向けた部門・支部・委員会の柔軟な連携企画 (1.1)</li> <li>・カンファレンス活動（FES、部門大会、部会研究会、支部大会等）の全体調整と FES 化を見据えた見直し (2.1)</li> <li>・継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守 (6.1)</li> <li>・アフターコロナにおける新たな学会活動スタイルの推進 (6.2)</li> <li>・部門・部会・支部活動の可視化、ウェブ発信 (7.1)</li> </ul>

2025 年度事業計画	2025 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <p>1. 支部会議</p> <p>1 月中、メール会議 議題：2024 年度の各機関の担当委員選出等</p> <p>2. 第 1 回支部運営会議</p> <p>1 月に徳島大学にて開催 議題：2024 年度から引継ぎ事項等 徳島大学 → 香川大学</p> <p>3. 第 1 回支部学術講演会実行委員会</p> <p>5 月中、メール会議 議題：実行委員会、プログラム委員会メンバーの決定、CFP 案と今後の予定等</p> <p>4. 第 1 回電気関係学会四国支部連合大会実行委員会</p> <p>5 月中に開催 → 6 月に分担金を支給</p>	<p>●1～6 月</p> <p>1. 2025 年度支部委員・支部講演会の決定 支部長、副支部長、庶務幹事、会計幹事を決定 支部学術講演会の日程を 11/29 に決定 3/10 引継ぎ資料・物品の受け取り</p> <p>2. 第 1 回支部運営会議 4/1 Teams 会議にて、2024 年の執行部から庶務・会計関連の引き継ぎ</p> <p>3. 第 1 回支部学術講演会実行委員会の開催 5/26 Zoom 会議 議題：実行委員会メンバーと分担、重要日程、参加登録・論文投稿システム、発表形式、表彰、特別講演等について議論</p> <p>4. 電気関係学会四国支部連合大会 4/20 メール連絡にて、連絡窓口と広報担当を伝達 6/12 分担金の支払い完了</p>

2025 年度事業計画	2025 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p>5. 第 2 回電気関係学会四国支部連合大会実行委員会 8 月中、メール会議</p> <p>6. 第 2 回支部学術講演会実行委員会 9 月中、メール会議 各委員の業務分担確認 9 月末に学術講演会ホームページを公開し、講演申込を受付開始、発表目標件数は 60 件程度</p> <p>7. 電気関係学会四国支部連合大会 9 月に開催 SICE 四国支部は共催</p> <p>8. 第 3 回電気関係学会四国支部連合大会実行委員会 11 月中に開催</p> <p>9. 四国支部学術講演会 12 月中、香川県にて開催 (担当：香川大学) ※優秀な若手発表者に対して毎年表彰</p> <p>10. 第 2 回支部運営委員会 12 月中、四国支部学術講演会にて開催予定</p>	<p>●7～12 月</p> <p>5. 第 2 回電気関係学会四国支部連合大会実行委員会 7/14 発表申込等の広報</p> <p>6. 第 2 回支部学術講演会実行委員会 10/2 開催予定</p> <p>7. 電気関係学会四国支部連合大会 9/27 開催</p> <p>8. 第 3 回電気関係学会四国支部連合大会実行委員会 12/17 開催</p> <p>9. 四国支部学術講演会 11/29 香川大学にて開催 (発表 49 件、参加者 87 名) 5 名の学生発表者に優秀講演賞を贈賞 美濃ちひろ (阿南工業高等専門学校) 天羽優太 (阿南工業高等専門学校) 菊池研汰 (愛媛大学) 平岡裕貴 (香川大学) 小川優和 (香川大学)</p> <p>10. 拡大支部運営委員会 11/29 四国支部学術講演会にて開催 来年度の役員を選出</p>

## 2025 年度事業計画・実施報告

組織名	九州支部	担当	水本支部長
-----	------	----	-------

2025 年度事業計画 (本組織担当分)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SICE の存在意義と「さいす学」を定義する。(0.1)</li> <li>・ SICE FES 2025 等に向けた部門・支部・委員会の柔軟な連携企画 (1.1)</li> <li>・カンファレンス活動 (FES、部門大会、部会研究会、支部大会等) の全体調整と FES 化を見据えた見直し (2.1)</li> <li>・継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守 (6.1)</li> <li>・アフターコロナにおける新たな学会活動スタイルの推進 (6.2)</li> <li>・部門・部会・支部活動の可視化、ウェブ発信 (7.1)</li> </ul>

2025 年度事業計画	2025 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <p>九州支部第 1 回運営委員会 (新旧合同)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・九州支部第 55 期支部 顧問会議 (新旧合同)</li> <li>・九州支部第 55 期支部会議</li> <li>・支部奨励賞発表等</li> </ul> <p>九州支部第 1 回事業委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SICE 九州フォーラム実施内容等</li> </ul> <p>九州支部第 2 回運営委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会計報告</li> <li>・SICE 九州フォーラム</li> <li>・九州支部学術講演会等</li> </ul> <p>研究会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・制御理論と応用に関する研究会</li> <li>・各地区講演会等</li> </ul>	<p>●1～6 月</p> <p>令和 7 年度 SICE 九州支部 第 1 回拡大運営委員会 (新旧合同)</p> <p>日時：令和 7 年 1 月 11 日 13:00～15:00</p> <p>場所：web 会議 (Zoom 会議)</p> <p>計測自動制御学会九州支部第 55 期支部会議</p> <p>日時：令和 7 年 1 月 11 日 15:15～15:45</p> <p>場所：Web 会議 (Zoom 会議)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 今年度の活動計画の立案             <ol style="list-style-type: none"> <li>a) SICE 九州フォーラム</li> <li>b) 学術講演会・特別講演会・学生発表交 流会</li> </ol> </li> <li>2. 支部奨励賞、本部学術奨励賞推薦、学生発表交 流会における優秀発表者表彰を決定</li> </ol> <p>第 1 回事業委員会</p> <p>日時：3 月 27 日～4 月 9 日</p> <p>場所：メール審議</p> <p>令和 7 年度 SICE 九州支部 第 2 回運営委員会</p> <p>日時：令和 7 年 6 月 30 日 10:00～12:00</p> <p>場所：web 会議 (Teams 会議)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会計報告</li> <li>・SICE 九州フォーラムについて</li> <li>・九州支部学術講演会実施計画について</li> </ul> <p>制御理論と応用に関する研究会</p> <p>日時：令和 7 年 3 月 8 日(土)13:30～17:35</p> <p>場所：アクロス福岡 608 会議室</p> <p>講師：鹿田 佳那氏, 九州工業大学 D3 延山 英沢氏, 九州工業大学</p> <p>講演 1: 外乱オブザーバの統一理論の構築に向けた有 効性と包含関係の理論的解析 (鹿田 佳那, 九州工業大学 D3)</p> <p>講演 2: 研究生生活 40 年のうたかたを振り返って (延山 英沢, 九州工業大学)</p>

2025 年度事業計画	2025 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p>SICE 九州フォーラム</p> <p>九州支部第 2 回事業委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>九州支部学術講演会プログラム等</li> </ul> <p>九州支部第 3 回運営委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>会計報告</li> <li>来年度予算の策定</li> <li>事業報告</li> <li>今年度九州支部学術講演会</li> <li>来年度九州支部学術講演会</li> <li>来年度事業計画</li> <li>来年度の支部運営</li> </ul> <p>九州支部学術講演会・学生発表交流会</p> <p>九州支部第 3 回事業委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>来年度事業委員</li> <li>来年度事業計画</li> <li>学生発表交流会表彰, 支部奨励賞, 本部奨励賞推薦者等</li> </ul> <p>研究会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>制御理論と応用に関する研究会</li> <li>各地区講演会等</li> </ul>	<p>●7～12 月</p> <p>SICE 九州支部熊本地区講演会</p> <p>日時: 令和 7 年 7 月 3 日 16:00～17:30</p> <p>場所: 熊本大学工学部研究棟 I 203 教室</p> <p>講師: 足立 修一 氏 (慶応義塾大学)</p> <p>題目: 理系作文のすゝめ</p> <p>参加者: 26 名 (SICE 正会員 2 名, 学生 22 名, 一般 2 名)</p> <p>制御理論と応用に関する研究会</p> <p>日時: 令和 7 年 7 月 12 日(土)13:30～17:30</p> <p>場所: アクロス福岡 608 会議室</p> <p>講師: Ms. Sara Callegari, LAAS-CNRS, France Ms. Martina Alutto, CNR-IEIIT, Italy Mr. Hibiki Gytoku, Kyushu Univ., Japan</p> <p>講演 1: Assessing stability for coupled ODE-PDE systems using IQC framework (Ms. Sara Callegari, LAAS-CNRS, France)</p> <p>講演 2: Analysis and Control of Epidemic Spread and Innovation Adoption (Ms. Martina Alutto, CNR-IEIIT, Italy)</p> <p>講演 3: Extraction of Destabilizing Nonlinear Operators in Absolute Stability Analysis via IQC-Based Dual LMIs (Mr. Hibiki Gytoku, Kyushu Univ., Japan (行徳 響, 九州大学学生))</p> <p>SICE 九州フォーラム 2025</p> <p>日時: 令和 7 年 9 月 26 日(金)12:30～17:30</p> <p>場所: アクロス福岡 608 会議室</p> <p>講師: 久保 直博 氏 (株式会社 TMEIC) 小田 信二 氏 (横河電機株式会社) 北田 宏 氏 (日本製鉄株式会社)</p> <p>テーマ: スマート・マニュファクチャリング</p> <p>講演題目:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大規模製造プラントの監視・診断システムと適用事例 (久保 直博)</li> <li>製造業の変革に寄与する Smart Manufacturing の国際標準化および関連技術動向 (小田信二)</li> <li>データモデリングとデジタルツインによる鉄鋼生産プロセス改革と制御 (北田 宏)</li> </ul> <p>参加者: 46 名 (SICE 正会員 21 名, 学生 5 名, 一般 20 名)</p> <p>令和 7 年度 SICE 九州支部 第 3 回運営委員会</p> <p>日時: 令和 7 年 10 月 9 日 15:00～16:00</p> <p>場所: web 会議 (Teams 会議)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>会計報告</li> <li>SICE 九州フォーラムについて</li> <li>九州支部学術講演会実施計画について</li> <li>来年度の事業計画・運営について</li> </ul>

	<p>第2回事業委員会  日時：10月13日～10月17日  場所：メール審議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SICE九州支部学術講演会のプログラム等について</li> </ul> <p>SICE九州支部熊本地区講演会  日時：令和7年11月7日15:00～16:00  場所：熊本大学工学部研究棟I309教室  講師：杉本 謙二 氏（南山大学）  題目：ゲイン切替による未知入力オブザーバ  参加者：32名（SICE正会員3名，学生29名）</p> <p>制御理論と応用に関する研究会  日時：令和7年11月15日(土)13:30～17:30  場所：アクロス福岡608会議室  講師：Prof. Takumi Iwata, Hiroshima Univ., Japan  Dr. Samuele Zoboli, LAAS-CNRS, France  講演1: Data-driven analysis and synthesis of positive systems  (Prof. Takumi Iwata, Hiroshima Univ., Japan)  講演2: Generalized Lyapunov inequalities for k-contraction: from analysis to feedback design  (Dr. Samuele Zoboli, LAAS-CNRS, France)</p> <p>第44回計測自動制御学会九州支部学術講演会  日時：令和7年11月29日～11月30日  場所：九州工業大学・戸畑キャンパス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般講演（学術講演会発表）48件</li> <li>・学生発表交流会発表21件</li> <li>・特別講演1件</li> </ul> <p>参加者：108名（特別講演講師含む）</p> <p>第3回事業委員会  日時：11月29日，11月30日  場所：九州工業大学・戸畑キャンパス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度の体制</li> <li>・来年度の事業計画</li> <li>・学生発表交流会 最優秀賞・優秀賞について</li> <li>・SICE学術奨励賞（本部・支部）について</li> </ul> <p>第4回事業委員会  日時：11月30日～12月24日  場所：メール審議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生交流発表会最優秀発表賞・優秀発表賞および支部奨励賞の受賞者，本部奨励賞への推薦者の決定</li> </ul>
--	---

## 2. 2025 年度に実施した個別事業実施報告（1～12 月）

2025 年度に実施した個別事業の詳細を、定款第 4 条に定められた本会の目的を達成するための事業ごとに分けて、以下に示します。（敬称略。開催場所・組織名などは一部省略。発表件数・参加者などは一部省略。）

1. 研究集会, 講演会及び教育・育成のための講習会等

カンファレンス委員会

実施月日	行事・事業・会議（・委員会）などの名称	開催場所	発表件数	参加者数
9月9日 ～12日	SICE Festival 2025 with Annual Conference	The Empress Hotel and Convention Centre, Chiang Mai, Thailand	388	509

インダストリ委員会

実施月日	行事・事業・会議（・委員会）などの名称	開催場所	発表件数	参加者数
1月20日	SICE 安全のための計測・制御・システムを考える会 有料講習会	慶應義塾大学 日吉キャンパス & オンライン	—	81
1月22日	SICE エグゼクティブサロン 第2回	LEVEL XXI (レベル21) 東京會館	—	20
4月10日	SICE 安全のための計測・制御・システムを考える会 第104回サロン	横浜アイマークプレイス&オンライン	—	15
7月16日	SICE 安全のための計測・制御・システムを考える会 見学会	産総研臨海副都心センター	—	12
7月25日	SICE エグゼクティブサロン 第3回	LEVEL XXI (レベル21) 東京會館	—	25
12月8日	SICE 安全のための計測・制御・システムを考える会 第105回サロン	IPA 産業サイバーセキュリティセンター & オンライン	—	17

メンバー委員会

実施月日	行事・事業・会議（・委員会）などの名称	開催場所	発表件数	参加者数
2月7日	プロセス新塾2024年度第4回スクーリング	オンライン	—	28
2月28日	プロセス新塾2024年度第5回スクーリング	日本 CCS 調査網 苫小牧 CCS 実証試験センター	—	24
3月7日	プロセス新塾2024年度第6回スクーリング	慶應義塾大学 日吉キャンパス	—	31
4月11日	プロセス新塾2024年度第7回スクーリング	オンライン	—	22
5月16日	プロセス新塾2024年度第8回スクーリング	神戸製鋼所	—	24
10月10日 ～11日	プロセス新塾2025年度第1回スクーリング	慶應義塾大学 日吉キャンパス	—	30
10月24日	プロセス新塾2025年度第2回スクーリング	富士石油	—	16
11月7日	プロセス新塾2025年度第3回スクーリング	オンライン	—	18
12月5日 ～6日	プロセス新塾2025年度第4回スクーリング	慶應義塾大学 日吉キャンパス	—	24

計測部門

実施月日	行事・事業・会議（・委員会）などの名称	開催場所	発表件数	参加者数
3月17日	第127回力学量計測部会行事「日産テクニカルセンター」見学会	日産テクニカルセンター	1	12
6月19日 ～20日	第128回力学量計測部会行事「第42回有機微量分析合同シンポジウム」	北里大学	29 (内・当部会4)	約70
9月25日 ～26日	計測部門大会第42回センシングフォーラム	群馬大学 桐生キャンパス	口頭59・ ポスター31	約130
10月10日	第129回力学量計測部会行事「計量史をさぐる会」	東洋計量史資料館	3 (内・当部会1)	約30
10月10日	スマートセンシングシステム部会研究会	大学コンソーシアム	16	30

～11日		富山		
11月21日	第30回パターン計測シンポジウム (第110回パターン計測部会研究会)	東京大学 駒場IIキャンパス	8 (うち招待 講演2)	10

**制御部門**

実施月日	行事・事業・会議（・委員会）などの名称	開催場所	発表件数	参加者数
3月2日	MSCS2025 併催イベント「VTuber と楽しむ制御工学スペシャルライブ!!」(実学界で踊る現場制御理論調査研究会)	大阪工業大学 梅田キャンパス	1	122
3月2日	MSCS ワークショップ「超スマート社会の人流制御のためのモデル化」	大阪工業大学 梅田キャンパス	4	75
3月2日～5日	第12回制御部門マルチシンポジウム(MSCS2025)	大阪工業大学 梅田キャンパス	281	584
3月3日	第41回誘導制御シンポジウム(第12回制御部門マルチシンポジウム内) 招待講演「小型月着陸実証機 SLIM のピンポイント着陸達成と航法誘導制御技術の成果」	大阪工業大学 梅田キャンパス	1	32
3月3日～5日	第41回誘導制御シンポジウム(第12回制御部門マルチシンポジウム内)	大阪工業大学 梅田キャンパス	15	584
3月3日～5日	第25回適応学習制御シンポジウム(第12回制御部門マルチシンポジウム内)	大阪工業大学 梅田キャンパス	23	584
3月3日～5日	第16回プラントモデリングシンポジウム(第12回制御部門マルチシンポジウム内)	大阪工業大学 梅田キャンパス	24	584
3月3日～5日	第53回制御理論シンポジウム(第12回制御部門マルチシンポジウム内) OS「ダイナミクスを活用した機械学習による制御理論の革新」(ダイナミクスを活用した機械学習による制御理論の革新調査研究会)	大阪工業大学 梅田キャンパス	12	80
3月4日	第53回制御理論シンポジウム(第12回制御部門マルチシンポジウム内) OS「データ・モデル駆動融合による先端的流体・気象制御」(データ・モデル駆動融合による先端的流体・気象制御調査研究会)	大阪工業大学 梅田キャンパス	5	30
3月5日	第53回制御理論シンポジウム(第12回制御部門マルチシンポジウム内) OS 人の理解・誘導技術で開拓する新たなシステム制御論(人の理解/誘導で強化される制御システム調査研究会)	大阪工業大学 梅田キャンパス	12	60
3月5日	第25回適応学習制御シンポジウム招待講演「陰的制御が持つ環境適応能力 一事件は現場で起きているんだ！」大須賀公一先生(大阪大学)	大阪工業大学 梅田キャンパス	1	80
5月25日	第69回システム制御情報学会研究発表講演会 OS Human-in-the-loop 制御の理論と応用(人の理解/誘導で強化される制御システム調査研究会)	神戸市産業振興 センター	5	50
5月27日	第69回システム制御情報学会研究発表講演会 テーマセッション「機械学習と制御」(ダイナミクスを活用した機械学習による制御理論の革新調査研究会)	神戸市産業振興 センター	9	70
6月10日～13日	プラントモデリング部会・研究会「制御、情報、学習のディープシンセシス」	オンライン	8	179
7月4日	第10回 DML Lecture 「AI 向けプロセッサの	ベンチャーデスク 銀座5 会議室 N1	1	40

	開発と数値シミュレーション」(ダイナミクスを活用した機械学習による制御理論の革新調査研究会)	&オンライン		
9月3日 ~4日	制御理論若手合宿 2025	広島県立県民の浜	32	42
9月11日	2025 SICE Festival with Annual Conference OS "Innovations in Control Theory by Machine Learning Utilizing Dynamics" (ダイナミクスを活用した機械学習による制御理論の革新調査研究会)	The Empress Hotel and Convention Centre, Chiang Mai, Thailand	5	30
9月11日	2025 SICE Festival with Annual Conference OS "Advances in Adaptation and Learning Control" (知的システム・ネットワーク統合のための適応学習制御調査研究会)	The Empress Hotel and Convention Centre, Chiang Mai, Thailand	9	40
9月12日	2025 SICE Festival with Annual Conference OS "Navigation, Guidance and Control of Vehicles and Aerospace Systems - Theory and Applications" (航法誘導制御調査研究会)	The Empress Hotel and Convention Centre, Chiang Mai, Thailand	6	40
9月24日 ~25日	制御工学セミナー1 (足立修一先生, 平田光男先生, 事業委員会)	オンライン	2	58
10月30日 ~31日	CPHS 合宿 2025 (人の理解/誘導で強化される制御システム調査研究会)	ホテルリステル 浜名湖	24	30
11月1日 ~2日	第68回自動制御連合講演会 OS 人の理解/誘導を含むシステムに対する推定・予測・制御 (人の理解/誘導で強化される制御システム調査研究会)	名古屋大学 東山キャンパス	24	70
11月1日 ~2日	第68回自動制御連合講演会 OS ダイナミクスを活用した機械学習による制御理論の革新 (ダイナミクスを活用した機械学習による制御理論の革新調査研究会)	名古屋大学 東山キャンパス	8	80
11月1日 ~2日	第68回自動制御連合講演会 OS 現場制御理論に基づくオープンな学びと次世代制御工学への挑戦 (実学界で踊る現場制御理論調査研究会)	名古屋大学 東山キャンパス	7	80
11月1日 ~2日	第68回自動制御連合講演会 OS データ・モデル駆動融合による先端的流体・気象制御 (データ・モデル駆動融合による先端的流体・気象制御調査研究会)	名古屋大学 東山キャンパス	9	40
11月1日 ~2日	第68回自動制御連合講演会 OS 航空宇宙機・移動体の制御 -理論から応用- (航法誘導制御調査研究会)	名古屋大学 東山キャンパス	10	20
11月1日 ~2日	第68回自動制御連合講演会 OS スマートシステム構築のための先端的技術・制御理論 (電気学会 C 部門 制御技術委員会 モデルとデータの融合によるスマート制御システム設計に関する調査専門委員会・知的システム・ネットワーク統合のための適応学習制御調査研究会)	名古屋大学 東山キャンパス	16	80
11月3日	講習会「今日からはじめる! ROS & MATLAB ハンズオンセミナー」(実学界で踊る現場制御理論調査研究会)	名古屋大学 東山キャンパス	5	58
11月17日	プラントモデリング部会研究会「物理モデリング	オンライン	5	171

, 29日	と機械学習のシナジー」			
11月18日	制御工学セミナー2 (大塚敏之先生, 事業委員会)	オンライン	1	58
11月26日	制御部門/産業応用部門合同企画 OS 産業ネットワーク・システムシンポジウム (産業応用部門大会内)	住友重機械工業 横須賀製造所	7	38
12月18日	第11回 DML Lecture 「転移学習」(ダイナミクスを活用した機械学習による制御理論の革新調査研究会)	京都大学 吉田キャンパス &オンライン	1	61
12月24日	制御×AI 研究会 (人の理解/誘導で強化される制御システム調査研究会)	オンライン	3	55

システム・情報部門

実施月日	行事・事業・会議 (・委員会) などの名称	開催場所	発表件数	参加者数
1月15日 ~16日	第37回自律分散システムシンポジウム	KDDI 維新ホール	84	131
3月10日 ~11日	第52回知能システムシンポジウム	近畿大学 東大阪キャンパス	38	66
3月13日 ~15日	第37回社会システム部会研究会	アートホテル石垣島 &オンライン	62	95
6月14日, 21日	社会システム部会2025年度オンラインレクチャー第1回 S4 Simulation System	オンライン	なし	17
6月28日, 7月5日	社会システム部会2025年度オンラインレクチャー第2回 S4 SOARS	オンライン	なし	17
7月10日	第26回コンピューターショナル・インテリジェンス研究会	電気通信大学	一般: 4 特別講演: 2 招待講演: 2	13
8月7日	第67回 システム工学部会研究会	オンライン	1	8
9月2日 ~3日	第38回社会システム部会研究会	マホロバマインズ 三浦	62	108
9月12日	第72回自律分散システム部会研究会	東京農工大学	2	35
10月10日	第5回創発システム勉強会	信州大学 上田キャンパス	2	30
11月12日 ~14日	システム・情報部門学術講演会 (SSI2025)	東北大学 青葉山キャンパス	168	188
12月13日	第3回境界と関係性を視座とする価値創発志向システム学調査研究会	神戸大学	2	16

システムインテグレーション部門

実施月日	行事・事業・会議 (・委員会) などの名称	開催場所	発表件数	参加者数
2月17日	UDX ワークショップ 2025	オンライン	9	24
3月28日	KAWARUBA 研究会&見学会	KAWARUBA	0	23
6月7日 ~8日	第39回共創システム部会研究会・第18回内部観測研究会	沖縄県青年会館 1階 珊瑚の間	13	13
7月31日	メカトロニクスシステム部会講演会	金沢大学	4	17
9月2日	マニピュレーション秋の学校	東京科学大学 大岡山キャンパス	3	163
9月16日	触覚デモ交流会	COCO 会議室新大阪	7	28
12月9日	ソフトマテリアル応用部会 部会主催講演会	広島大学 東広島キャンパス	2	18
12月9日	メカトロニクスシステム部会 部会講演会&授賞式	JMS アステール プラザ	4	9
12月10日	SI2025 トワイライトシンポジウム	広島国際会議場	9	150

12月10日 ～12日	第26回システムインテグレーション部門講演会 (SI2025)	広島国際会議場	1,292	1,928
12月10日, 12日	SI2026 触覚・力覚セッションキーノート	広島国際会議場	2	120
12月11日	SI2025 OS45: 福祉工学・ケア工学 キーノート	広島国際会議場	1	120
12月20日	ロボットセラピー部会 2025 年度第2回研究会	拓殖大学	2	6

**産業応用部門**

実施月日	行事・事業・会議（・委員会）などの名称	開催場所	発表件数	参加者数
3月2日	MSCS2025 ワークショップ 産業応用部門招待OS (ネットワーク部会が企画提案)	大阪工業大学	4	40
9月10日 ～11日	Organized Session "Practical Challenges and Solutions of Computer and Network Systems in Industrial Applications (SICE FES 2025)	The Empress Hotel and Convention Centre, Chiang Mai, Thailand	16	30
9月12日	Special Panel Session "OT Cybersecurity - Current Status of Thailand and Japan (SICE FES 2025)	The Empress Hotel and Convention Centre, Chiang Mai, Thailand	5	30
11月26日	産業応用部門大会 2025 年度大会	住友重機械工業(株) 横須賀製造所	14	38

**ライフエンジニアリング部門**

実施月日	行事・事業・会議（・委員会）などの名称	開催場所	発表件数	参加者数
9月18日 ～19日	ライフエンジニアリング部門シンポジウム 2025	千葉大学 西千葉キャンパス	79	155

**北海道支部**

実施月日	行事・事業・会議（・委員会）などの名称	開催場所	発表件数	参加者数
3月7日 ～8日	第57回計測自動制御学会北海道支部学術講演会	公立はこだて未来大学&オンライン	34 (うちオンライン7)	55
3月7日	北海道支部特別講演会 演題: システムインテグレーションとロボットミドルウェア 講師: 安藤慶昭 氏 (産業技術総合研究所)	公立はこだて未来大学&オンライン	1	77 (うちオンライン44) 見逃し配信67

**東北支部**

実施月日	行事・事業・会議（・委員会）などの名称	開催場所	発表件数	参加者数
3月14日	第351回研究集会	東北大学	5	11
5月26日	第352回研究集会	岩手大学	13	30
7月14日	第353回研究集会	八戸工業高等専門学校	10	18
9月29日	第354回研究集会	秋田県立大学	6	13
11月8日	第355回研究集会	福島大学	5	12
12月10日	第356回研究集会	山形大学	14	25

**中部支部**

実施月日	行事・事業・会議（・委員会）などの名称	開催場所	発表件数	参加者数
3月17日	第177回教育工学研究会	大同大学	16	29
5月28日	第1回制御理論研究委員会ワーキングセミナー	名古屋大学	1	11
6月26日	第2回制御理論研究委員会ワーキングセミナー	名古屋工業大学	1	12
7月2日	第一回統合知能メカトロシステム研究委員会講演会	岐阜大学 &オンライン	1	25
7月8日	信州地区計測制御研究委員会 講演会	信州大学	1	53
7月14日	計測自動制御学会中部支部・南山大学理工学研究	名古屋工業大学	1	16

	センター共催講演会			
9月12日	第178回教育工学研究会	大同大学	11	19
9月12日	計測自動制御学会中部支部 技術講習会	オンライン	—	15
9月19日	SICE 中部支部シンポジウム	信州大学	35	80
11月7日	第136回電機計測制御技術ワーキングセミナー	名古屋大学	2	44
11月26日	研究発表&企業交流会	imy 会議室		101
12月2日	第137回電機計測制御技術ワーキングセミナー	名古屋大学	1	43
12月3日	第二回統合知能メカトロシステム研究委員会講演会	岐阜大学 &オンライン	1	36

#### 北陸支部

実施月日	行事・事業・会議（・委員会）などの名称	開催場所	発表件数	参加者数
1月17日	特別企画 特別講演「マルチエージェント交通流シミュレーションを用いた自動走行システムの高度化に関する取組みと今後の構想」講師：北島創氏（日本自動車研究所）	大学コンソーシアム 富山駅前キャンパス	1	15
9月20日	2025年度電気・情報関係学会北陸支部連合大会	オンライン	190	651
9月20日	計測自動制御学会北陸支部招待講演 講師：松本 卓也 氏（富山県立大学）	オンライン	1	30
12月13日	計測自動制御学会北陸支部講演会 講師：松山裕典先生（富山県立大学）、杉川智先生（大阪工業大学）	神戸大学 &オンライン	2	16

#### 関西支部

実施月日	行事・事業・会議（・委員会）などの名称	開催場所	発表件数	参加者数
1月15日	2024年度 SICE 関西支部・ISCIE シンポジウム	大阪大学 中之島センター	52	100
11月26日	2025年度 SICE 関西支部見学会	ATR	—	25

#### 中国支部

実施月日	行事・事業・会議（・委員会）などの名称	開催場所	発表件数	参加者数
11月29日	中国支部 学術講演会	第一セントラルビル 1号館	52	80
12月2日	中国支部 チュートリアル講演会	広島大学 東広島キャンパス フェニックス国際センター(ミライクリエ)大会議 &オンライン	3	52

#### 四国支部

実施月日	行事・事業・会議（・委員会）などの名称	開催場所	発表件数	参加者数
11月29日	SICE 四国支部学術講演会	香川大学	49	87

#### 九州支部

実施月日	行事・事業・会議（・委員会）などの名称	開催場所	発表件数	参加者数
7月3日	SICE 九州支部熊本地区講演会	熊本大学	1	26
9月26日	SICE 九州フォーラム 2025	アクロス福岡 608 会議室	3	46
11月7日	SICE 九州支部熊本地区講演会	熊本大学	1	32
11月29日 ～30日	第44回計測自動制御学会九州支部学術講演会	九州工業大学 戸畑キャンパス	69	108
11月29日	特別講演会	九州工業大学 戸畑キャンパス	1	80

## 2. 調査・研究及び資料収集

### 会誌出版委員会

実施時期	書名、特集などの名称	記事・論文数など	総ページ	発行部数
1月	計測と制御 第64巻第1号 特集：植物工場技術の進化	11	56	4,510
2月	計測と制御 第64巻第2号 特集：ダイナミックメトロロジー 動的計測の新たなフロンティア	13	72	4,510
3月	計測と制御 第64巻第3号 特集：シミュレーションとAI	12	74	4,550
4月	計測と制御 第64巻第4号 特集：秘密計算による制御の新展開	15	84	4,650
5月	計測と制御 第64巻第5号 特集：機械の形態を活かした計算・センシング・制御技術の実世界応用-流体、ソフトマテリアル、物理リザーバー計算-	17	82	4,690
6月	計測と制御 第64巻第6号 特集：製造ラインにおける精密形状計測技術の動向	14	70	4,720
7月	計測と制御 第64巻第7号 特集：量子コンピューティング産業化のための計測技術とソフトウェア技術の最新動向	13	72	4,960
8月	計測と制御 第64巻第8号 特集：システム制御のための数理最適化ショートコース	15	92	5,010
9月	計測と制御 第64巻第9号 特集：生体信号処理の医療AIへの応用と課題	13	74	5,060
10月	計測と制御 第64巻第10号 特集：狭益空間で活躍するロボットシステム	13	74	5,060
11月	計測と制御 第64巻第11号 特集：非線形音響効果を用いた計測・制御の新展開	13	87	5,360
12月	計測と制御 第64巻第12号 特集：プロセス産業における産×学協力の好循環	15	82	5,170

### 和文論文集委員会

実施時期	書名、特集などの名称	記事・論文数など	総ページ	発行部数
和文論文集(計測自動制御学会論文集)				
発行回数：12回 総ページ数：570ページ 総投稿論文数：59 購読数：800				
1月	計測自動制御学会論文集 Vol.61(2025), No.1 特集：第24回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会特集号	特集号論文：4編 一般論文：1編	54	930
2月	計測自動制御学会論文集 Vol.61(2025), No.2	一般論文：3編 ショートペーパー：1編 開発・技術ノート：1編	42	930
3月	計測自動制御学会論文集 Vol.61(2025), No.3 特集：第11回制御部門マルチシンポジウム論文特集号	特集号論文：13編	124	930

4月	計測自動制御学会論文集 Vol.61(2025), No.4	一般論文：4編	46	930
5月	計測自動制御学会論文集 Vol.61(2025), No.5	一般論文：4編	36	780
6月	計測自動制御学会論文集 Vol.61(2025), No.6	一般論文：4編	34	780
7月	計測自動制御学会論文集 Vol.61(2025), No.7	一般論文：4編	38	800
8月	計測自動制御学会論文集 Vol.61(2025), No.8	一般論文：4編 ショートペーパー：1編	34	800
9月	計測自動制御学会論文集 Vol.61(2025), No.9	一般論文：4編	44	800
10月	計測自動制御学会論文集 Vol.61(2025), No.10	一般論文：4編	34	800
11月	計測自動制御学会論文集 Vol.61(2025), No.11	一般論文：3編 ショートペーパー：1編	32	800
12月	計測自動制御学会論文集 Vol.61(2025), No.12 特集：第30回計測自動制御学会ロボティクスシンポジウム特集号	特集号論文：2編 一般論文：2編	52	800

英文論文集委員会

	書名、特集などの名称	総ページ	発行
総論文掲載数：一般・特集：45 総ページ数：656 総投稿数：259			
Issue	SICE Journal of Control, Measurement, and System Integration (一般論文・特集号分別無)	656	Online

3. 技術者の資格認定・付与

メンバー委員会

実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	発表件数	参加者数
企画段階	計測制御エンジニア資格審査（新制度検討中）	計画中	—	—
7月1日	ECE プログラム修了認定	日本工学会	—	—

4. 啓発・普及のための体験活動等

インダストリ委員会

実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	発表件数	参加者数
8月20日	Wagora 第1回公開オンラインフォーラム	事務局&オンライン	1	25

メンバー委員会

実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	発表件数	参加者数
6月22日	SICE ジュニア（ロボットプログラミング）	大阪大学 吹田キャンパス	1	4
8月10日	女子中高生夏の学校 2025	オリンピック記念 青少年総合センター	—	340
12月13日	SICE ジュニア（ロボットプログラミング）	東京都市大学	1	9

システムインテグレーション部門

実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	発表件数	参加者数
5月2日 ～5日	ロボカップジャパンオープン 2025	滋賀ダイハツ アリーナ	0	70
6月29日 8月9日 ～10日	レスキューロボットコンテスト 2025	咲洲モリーナ、 神戸サンボーホール	—	3,940
12月10日	RT ミドルウェアコンテスト 2025	JMS アステール プラザ	4	40

中部支部

実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	発表件数	参加者数
7月9日	見学会	三菱重工株式会社 飛島工場	—	32

5. 表彰及びコンクール

学会賞委員会

実施時期	顕彰などの名称 受賞者名・受賞論文授賞理由など	開催場所	賞品	副賞
1月24日	<p>【SICE International Young Author's Award for SII 2025】10名：</p> <p>(1) 「Open Vocabulary Object Search Utilizing Large Language Models and Fuzzy Inferencing」 Akash Kedar Chikhalikar</p> <p>(2) 「Self-Supervised Learning of Grasping Arbitrary Objects On-The-Move」 Takuya Kiyokawa</p> <p>(3) 「Elastic Telescopic Arm Extension/Contraction Mechanism Using a Helically Grooved Flexible Conduit」 Yuji Fujituka</p> <p>(4) 「Efficient Load Interference Detection with Limited Labeled Data」 Shinichi Mae</p> <p>(5) 「Enhancing End-Point Accuracy for Path-Following Motion of an Articulated Redundant Arm」 Koki Hasegawa</p> <p>(6) 「Morphological Adaptation for Speed Control of Pipeline Inspection Gauges: From System Integration to Real-World Demonstration」 Thipawan Pairam</p> <p>(7) 「ReViSE: Proposal of a Framework That Enables Seamless and Flexible Integration of Real and Virtual Objects for Video See-Through MR」 Koki Suzuki</p> <p>(8) 「Time-Lag Generation Mechanical Valve for Enhancing Time Response of Back-Stretchable McKibben Muscles」 Shoma Tanaka</p> <p>(9) 「Efficient Navigation in Crowded Environments for Autonomous Electric Wheelchairs Using Human Flow Activity Trend and Most Frequent Direction」 Takuya Kojima</p> <p>(10) 「Preliminary Study on Task Division for UAV-Based Visual Inspection of Large Structures with Multiple Flights Using 3D Urban Models」 Masaya Haneda</p>	Holiday Inn Munich City Centre, Minich, Germany	賞状	賞金 10万円
3月18日	<p>【2024年度学術奨励賞】 研究奨励賞・8名：</p> <p>(1) 「センサフュージョンを用いた骨ノミ切り抜き動作計測と動作モデルの構築」、笠井翔太、第41回センシングフォーラム 計測部門</p>	早稲田大学 西早稲田キャンパス &オンライン	賞状 楯	なし

	<p>大会</p> <p>(2) 「不確かさを有する未知線形システムのデータ駆動型量子化制御」、高木伊織、第 11 回制御部門マルチシンポジウム</p> <p>(3) 「マルチロボット協調運搬のための大域情報共有機能を備えた階層型分散方策の強化学習」、内藤優星、第 11 回制御部門マルチシンポジウム</p> <p>(4) 「竜脚類の骨格から着想を得た多関節アーム機構」、栢分峻汰郎、第 24 回システムインテグレーション部門講演会</p> <p>(5) 「人の関節潤滑機能を模した人体模倣ロボットの液体滲出軟骨機構の構成法」、三木章寛、第 24 回システムインテグレーション部門講演会</p> <p>(6) 「マルチカメラを用いた紙の形状推定システムの開発」、高橋聖奈、第 24 回システムインテグレーション部門講演会</p> <p>(7) 「GNSS に依存しない天測航法への適用に向けた天空の偏光分布に基づく太陽位置推定」、磯村直道、第 24 回システムインテグレーション部門講演会</p> <p>(8) 「自動アセンブリに向けたマニピュレータ経路とレイアウトの同時最適化」、村上雷伊斗、第 24 回システムインテグレーション部門講演会</p> <p>技術奨励賞・7 名：</p> <p>(1) 「可聴音ベースの反響定位に基づく 3 次元空間認識の 5 チャンネルマイクロホンアレイによる向上」、小林宙輝、第 24 回システムインテグレーション部門講演会</p> <p>(2) 「掘削模擬ロボットのペイズ最適化における粒子形状の影響調査」、小山幹、第 11 回制御部門マルチシンポジウム</p> <p>(3) 「粒子フィルタと制御バリア関数を組み合わせたオンライン動作計画と移動ロボットへの適用」、渡辺隆之助、第 11 回制御部門マルチシンポジウム</p> <p>(4) 「精子評価分布推定のための動画認識モデルの構築と損失関数 EMD による学習」、中川勇人、第 23 回コンピューターショナル・インテリジェンス研究会</p> <p>(5) 「森林作業道における走行時の滑落防止のための複数 LiDAR を用いた走路検出」、岩澤尚樹、第 24 回システムインテグレーション部門講演会</p> <p>(6) 「Wheel Tack : 車いすスポーツの直進性と旋回性をセンシングする単眼ビジョンシステム」、相原伸平、第 24 回システムインテグレーション部門講演会</p> <p>(7) 「クジラ用ローバーにおける吸着力向上のためのバルブ機構改良」、阿部広太、第 24 回システムインテグレーション部門講演会</p>			
8 月 29 日	<p>【2025 年度功績賞】1 名 東京大学名誉教授、東京工業大学名誉教授、</p>	東京理科大学理窓会 第 2 会議室	賞状 楯	なし

	<p>東京科学大学研究員・原 辰次</p> <p><b>【2025 年度学会賞】</b></p> <p>論文賞・10 件 28 名：</p> <p>(論文賞・蓮沼賞)</p> <p>「ツイン投光差分方式を用いた厚鋼板表面検査装置」、JFE スチール(株)・大野紘明、楯真沙美、飯島慶次、JFE テクノリサーチ(株)・大重貴彦</p> <p>(論文賞・武田賞)</p> <p>「高次モーメントを用いた機会制約の近似による非線形確率モデル予測制御」、京都大学・深尾真輝、大塚敏之</p> <p>(論文賞)</p> <p>「A Continuous-Time Primal-Dual Algorithm with Convergence Speed Guarantee Utilizing Constraint-Based Control」, Institute of Science Tokyo・Taichi Tanaka, Shunta Nakayama, Waseda University・Yasuaki Wasa, University of Toyama・Kenji Hirata, Institute of Science Tokyo・Takeshi Hatanaka</p> <p>(論文賞)</p> <p>「振動の乱雑さに対応する極値探索制御による振動発電システムの効率化」、金沢大学・山本 茂</p> <p>(論文賞)</p> <p>「経路選択時の経験情報による影響を考慮した群集挙動モデル」、東京都立大学・村沢直哉、児島 晃</p> <p>(論文賞)</p> <p>「最大電力点まわりでシリコン太陽電池と近い過渡特性をもつペロブスカイト太陽電池モジュールの提案」、電気通信大学・定本知徳、下島大和</p> <p>(論文賞・友田賞)</p> <p>「形式概念分析と機械学習による交通事故予測手法の開発」、(株)エヌ・ティ・ティ・データ・イントラマート・小谷祥悟、富山県立大学・中村正樹、榊原一紀、本吉達郎、星川圭介</p> <p>(論文賞)</p> <p>「Reactive-Probabilistic Hybrid Search Method for Odour Source Localization in an Obstructed Environment」、Institute of Science Tokyo・Duc-Nhat Luong, Huu Quoc Dong Tran, Daisuke Kurabayashi</p> <p>(論文賞)</p> <p>「Secure Motion-Copying via Homomorphic Encryption」、Mitsubishi Electric Corporation・Haruki Takanashi, The University of Electro-Communications/Japan Society for the Promotion Science・Kaoru Teranishi, The University of Electro-Communications・Kiminao Kogiso</p> <p>(論文賞)</p>			
--	--	--	--	--

	<p>「高精度時刻同期と経路冗長化を実時間で両立する EtherCAT 通信制御手法の提案と実機評価」、(株)日立製作所・丸山龍也</p> <p>技術賞・4件30名： (技術賞) 「No-Latency Interleaved Delta-Sigma ADC for Multiple-Sensor Interfacing Circuits」、アズビル(株)・手島紘明、加藤太郎、梶田徹矢 (技術賞) 「画像照合航法技術と高精度誘導制御技術による SLIM ビンポイント月面着陸の実現」、宇宙航空研究開発機構・坂井真一郎、澤井秀次郎、福田盛介、植田聡史、伊藤琢博、横田健太郎、石田貴行、狩谷和季、上野誠也、横浜国立大学・樋口丈浩、明治大学・鎌田弘之、東京大学・高玉圭樹、東京都立大学・小島広久 (技術賞) 「ツイン投光差分方式を用いた厚鋼板表面検査装置」、JFE スチール(株)・大野紘明、小川晃弘、楯 真沙美、飯島慶次、飯塚幸理、JFE テクノリサーチ(株)・大重貴彦、元 JFE スチール(株)・山崎孝博 (技術賞) 「機械学習と最適化のハイブリッド手法を用いた最適操業条件の設計法」、日鉄テックスエンジ(株)・内野邦望、稲富峰憲、古川昭仁、黒川哲明、中川繁政、近畿大学・福山歩武、谷崎隆士</p> <p>著述賞・3件11名： (著述賞) 「不整地移動ロボティクス」(2023年・コロナ社)、永谷圭司(編著)、石上玄也・遠藤大輔・永岡健司・遠藤 玄・程島竜一・亀川哲志・田中基康(共著) (著述賞) 「多変数の制御・解析・最適化に使える行列論」(2022年・コロナ社)、浅井 徹(著) (著述賞) 「センサ技術の基礎と応用(計測・制御セレクションシリーズ6)」(2023年・コロナ社)、計測自動制御学会、次世代センサ協議会(編)</p> <p>新製品開発賞・3件： (新製品開発賞) 「サファイア隔膜真空計 形V8」、アズビル株式会社 (新製品開発賞) 「ソフトセンサ構築演算ツール EFPROSENS (エフプロセンス)」、富士電機株式会社 (新製品開発賞) 「水道標準プラットフォーム対応運転監視ア</p>		
--	---	--	--

	<p>アプリケーション Harmonas-DEOTM)、アズビル株式会社</p> <p>教育貢献賞・1件1名： (教育貢献賞) 「SICE セミナーにおける教育貢献」、京都大学・大塚敏之</p> <p>国際標準化賞・奨励賞1名： (国際標準化賞 奨励賞) 横河電機(株)・遠藤太郎</p> <p>若手学会貢献賞・2名： 東京大学・安 琪、金沢大学・辻 徳生</p>			
8月29日	<p>【2025年度フェロー称号】 フェロー称号授与・3名： 京都大学・大塚敏之、麗澤大学・鈴木高宏、 長岡技術科学大学・三好孝典</p>	東京理科大学理窓会 第2会議室	楯 バッジ	なし
9月12日	<p>【SICE FES 2025 Annual Conference Award】3件5名： (International Award: Basic Technpology) 「Adaptive Cruise Control of Quadrotor UAVs Considering a Following Vehicle Based on Distributed Quadratic Programming」、Ryota Aoyanagi, Tatsuya Ibuki (International Award: Application) 「A Method for Determining the Causal Relationship between Food Texture and Physical Features in Mastication」、 Hiroyuki Nakamoto, Takahiro Aoki (Young Author's Award) 「A Simple Head-Trunk-Limb Coordination Control Capable of Three Types of Quadruped Galloping」、Goku Sawada</p>	The Empress Hotel and Convention Centre, Chiang Mai, Thailand	賞状 楯	なし
10月22日	<p>【SICE International Young Author's Award for IROS 2025】6名： 「Development of a Cleaning Robot Capable of Self-Propelled Cleaning for Ducts in Real-World Environments Employing a Planetary Gear Mechanism」、Yuki Ono 「Development of a hard matter crushing peristaltic bioreactor inspired by an avian gizzard structure for Fermentation Acceleration」、Kentarō Kikyodani 「Mapping in Indoor Environments Including Transparent Objects Using Stereo Polarization Camera and Projector」、 Yusuke Ogihara 「Intuitive Hand Positional Guidance Using McKibben-Based Surface Tactile Sensations to Shoulder and Elbow」、Kenta Yokoe 「Cutting Sequence Diffuser: Sim-to-Real Transferable Planning for Object Shaping by Grinding」、Takumi Hachimine</p>	Hangzhou International Expo Center, China	賞状	賞金 10万円

	「Deep Predictive Learning with Proprioceptive and Visual Attention for Humanoid Robot Repositioning Assistance」、Tamon Miyake			
12月12日	【SICE International Young Author's Award for CDC 2025】2名： 「Data-Driven Gromov-Wasserstein Density Steering」、Haruto Nakashima 「Parameter Invariance Analysis of Moment Equations Using Dulmage-Mendelsohn Decomposition」、Akito Igarashi	Windsor Convention Center, Rio de Janeiro, Brazil	賞状 楯	賞金 10万円

カンファレンス委員会

実施時期	顕彰などの名称 受賞者名・受賞論文授賞理由など	開催場所	賞品	副賞
9月10日 ～12日	【SICE Festival 2025 with Annual Conference Student Travel Grant Award】3名 「The Effectiveness of Visual Stimulation for a Stationary Rehabilitation Trainer」、Chia-Wei Chang 「Repetitive Control based Optimal and Robust Control Method for Robot Manipulator」、Geun Il Song 「Fault Detection and Identification of Actuator and Sensor in CubeSat Attitude Control System Using Two-Stage Kalman Filter」、Abdurrahim Bilal Ozcan	The Empress Hotel and Convention Centre, Chiang Mai, Thailand	賞状	5万円

計測部門

実施時期	顕彰などの名称 受賞者名・受賞論文授賞理由など	開催場所	賞品	副賞
9月26日	第41回センシングフォーラム研究奨励賞受賞者(5件) 「音圧測定を利用した電磁力加振器によるCFRP材の探傷方法の提案」細野 裕一朗 「X線管球から一様な視野を持った単色X線を生成するための湾曲Si単結晶デバイスの開発」天野 響 「臀部筋電信号測定による排便予測の基礎的検討」江田 龍宇一 「複数の穴を含む領域に対するvan der Pauw法」三好 裕之 「直流バイアス矩形波交流磁界下における炭素鋼管の電磁現象の解明」東原 純	群馬大学 桐生キャンパス	賞状	なし
9月26日	計測自動制御学会計測部門、電気学会計測技術委員会連携ポスターセッション(若手部門)優秀賞(2件) 「電磁正弦加振による高調波電磁界応答を用いたPCグラウトの充填評価」坂口 航哉 「超音波3点測定による膀胱蓄尿量測定の基礎的検討」箱嶋 耕三	群馬大学 桐生キャンパス	賞状	なし
9月26日	2025年度計測部門論文賞(2件) 「X線回折波2重撮影法に基づく屈折コントラストCTの再構成理論」黄卓然, 砂口尚輝, 湯浅哲也, 島雄大介, 市原周, 西村理恵子, 岩越朱里, Jong-Ki Kim, Rajiv Gupta, 安藤正海 「歯車型磁気式ロータリエンコーダを用いた	群馬大学 桐生キャンパス	賞状	ホルダー

	回転機構の3次元軸ガタおよび角度高精度検出に関する研究」 小島隆臣, 下平勝紀, 田村健一, 渡部司, 大貫康治, 渡部恵教			
11月21日	令和7年度 パターン計測部会 優秀論文賞 (1件) 「不可視パターンが埋め込まれたプロジェクトンマッピング環境下でのフォーカシングシュリーレン撮影」 井元 祐亮 (大阪大学), 岩井 大輔 (大阪大学)	東京大学 駒場II キャンパス	賞状	なし

**制御部門**

実施時期	顕彰などの名称 受賞者名・受賞論文授賞理由など	開催場所	賞品	副賞
3月4日	制御部門バイオニア賞 ※1件  和佐泰明 (早稲田大学) ゲーム理論・メカニズムデザイン理論と制御理論の融合に基づく社会システムのための動的インセンティブメカニズム	大阪工業大学 (MSCS2025)	楯・表彰状	なし
3月4日	制御部門マルチシンポジウム賞 (基礎分野) ※2件  河野 佑 (広島大学) Fulvio Forni (University of Cambridge) 錐不変性を利活用した非線形ネットワークの分散安定化  島 遼太郎 (豊田中央研究所) 森安 竜大 (豊田中央研究所) 連続変形法を用いた非平滑モデル予測制御について	大阪工業大学 (MSCS2025)	表彰状	なし
3月4日	制御部門マルチシンポジウム賞 (技術分野) ※2件  小山 幹 (大阪大学 / コマツ) 村中 宏明 (大阪大学) 石川 将人 (大阪大学) 掘削模擬ロボットのベイズ最適化における粒子形状の影響調査  野崎 凌 (熊本大学) 坂本 喬平 (熊本大学) 水本 郁朗 (熊本大学) ドライバー要求予測器を用いたロバスト予測制御に基づく HEV のエネルギーマネジメント	大阪工業大学 (MSCS2025)	表彰状	なし
3月4日	制御部門奨励賞 (基礎分野) ※5件  坂田 直樹 (京都大学) 機械系に対する受動性に基づく特異・非特異なターミナルスライディングモード制御について  江副 陽花 (東京大学) 平衡実現打ち切り法を用いた対角状態空間層の低次元化	大阪工業大学 (MSCS2025)	表彰状	なし

	<p>内田 和磨 (名古屋大学) オープンスペースにおける歩行者間のすれ違い挙動の観測とモデル化</p> <p>高木 伊織 (東京科学大学) 不確かさを有する未知線形システムのデータ駆動型量子化制御</p> <p>加藤 波輝 (早稲田大学) RICE モデルを用いた多地域間非協力ゲームの気候変動政策分析</p>			
3月4日	<p>制御部門奨励賞 (技術分野) ※5件</p> <p>朝倉 響 (京都大学) 衛星コンステレーション面外展開問題の部分的線形緩和を用いた効率的な最適化について</p> <p>小山 幹 (大阪大学/コマツ) 掘削模擬ロボットのベイズ最適化における粒子形状の影響調査</p> <p>佐々木 貴広 (宇宙航空研究開発機構) トルク平衡姿勢を用いた小型衛星による宇宙デブリ除去: 外乱オブザーバを用いた目標姿勢推定手法の提案</p> <p>石浦 寛文 (東京大学) e-fuel のエネルギーシステムへの導入とモビリティの電動化による二酸化炭素排出量の推移</p> <p>保津 明範 (大阪大学) informed-RRT*を用いた月極域における水探査のための経路計画手法</p>	大阪工業大学 (MSCS2025)	表彰状	なし
3月4日	<p>制御部門マルチシンポジウム優秀ポスター発表賞 ※9件</p> <p>横田 光輝 (慶應義塾大学) DNAsponge による定常特性に影響しない遺伝子発現の過渡応答制御</p> <p>田中 健太 (大阪大学) 不安定零点を有する動的システムの手動制御のための視覚情報改変</p> <p>小久保 燎太 (東京科学大学) 蔵本振動子ネットワークにおけるクラスター位相凝集</p> <p>森本 恒平 (京都大学) シュレディンガー橋によるスナップショットデータからのシステム同定</p> <p>芹澤 和伸 (大阪大学) 信号時相論理仕様のロバストネス分布間距離</p>	大阪工業大学 (MSCS2025)	表彰状	なし

	<p>を用いた RNN 制御器の設計</p> <p>臧 博楽 (広島大学) モデル予測経路積分制御による河川水位の制御</p> <p>青山 凌大 (愛知工業大学) 風の不確実性を考慮したドローンの消費エネルギーの最小化を目的とする最適経路設計手法の提案</p> <p>阿部 瑛河 (東京科学大学) 予測の不確かさを考慮した蓄電池の実時間運用最適化と定量的便益分析</p> <p>里井 隼飛 (明治大学) PIZ カメラネットワークによる円錐型制御パリア関数に基づくターゲット捕捉制御</p>			
3月4日	<p>SIYA CDC2024 ※3件</p> <p>森本恒平 (京都大学) Minimum Energy Density Steering of Linear Systems with Gromov-Wasserstein Terminal Cost</p> <p>西田 隼平 (立命館大学) Feedback Control Balancing Quadratic Performance and Input Sparsity</p> <p>小久保療太 (東京科学大学) Cluster Synchronization of Kuramoto Oscillators via Pacemakers and Mean-phase Feedback Control</p>	大阪工業大学 (MSCS2025)	表彰状	賞金 10万円

システム・情報部門

実施時期	顕彰などの名称 受賞者名・受賞論文授賞理由など	開催場所	賞品	副賞
11月13日	部門貢献賞 飯間等先生/2024 年度部門長としてのご功績	東北大学 青葉山キャンパス	表彰状	
11月13日	部門貢献賞 保田俊行先生/SSI2024 現地・プログラム委員長としてのご功績	東北大学 青葉山キャンパス (表彰状は後日郵送)	表彰状	
11月14日	部門技術賞 佐藤寛之先生・進化計算による実世界システムの最適化/SICE における産業応用技術の発展に大きく貢献する解説記事のため	東北大学 青葉山キャンパス	表彰状	
11月14日	SSI 最優秀論文賞 杉本悠真 (法政大学), オズトップアラハン (大阪大学), チャビゲンツィ (法政大学), スタイル転送を用いた被験者間 EEG 画像デコーディングの向上とロボット応用への展開	東北大学 青葉山キャンパス	表彰状	50,000 円
11月14日	SSI 最優秀発表賞 吉岡直人 (ヤンマーホールディングス株式会社/大阪工業大学), 竹内大樹 (大阪工業大学), 舒瑜倬 (ヤンマーホールディングス株式会社), 岡松太郎 (ヤンマーホールディングス株式会社), 荒木信之 (ヤンマーホール	東北大学 青葉山キャンパス	表彰状	

	ディングス株式会社), 鎌倉快之 (大阪工業大学), 大須賀美恵子 (大阪工業大学), 低負担生体計測と機械学習を組み合わせた映像酔い検出モデル～遠隔操作ショベルカーに向けた検討～			
11月14日	SSI 優秀論文賞 柴智也 (九州工業大学), 山口直紀 (九州工業大学), 丸野稜雅 (九州工業大学), 鈴木章央 (九州工業大学), 田向権 (九州工業大学), Oriented-SuctionNet: 吸着方向を考慮した把持位置ヒートマップの推定手法	東北大学 青葉山キャンパス	表彰状	10,000 円
11月14日	SSI 優秀論文賞 荒木 優斗 (埼玉大学), 大野愉展 (東京都立大学), 原田智広 (埼玉大学), 大規模言語モデルと進化計算による高難度最適化ベンチマーク問題の自動生成	東北大学 青葉山キャンパス	表彰状	10,000 円
11月14日	SSI 優秀論文賞 野尻 健人 (千葉大学), 荒井幸代 (千葉大学), Decision Transformer における Return-to-Go の影響評価	東北大学 青葉山キャンパス	表彰状	10,000 円
11月14日	SSI 優秀論文賞 名護ひなた (国立精神・神経医療研究センター), 小島大樹 (国立精神・神経医療研究センター), 山口博行 (国立精神・神経医療研究センター), 山下祐一 (国立精神・神経医療研究センター), 脳内情報統合に基づく精神疾患の特徴づけ	東北大学 青葉山キャンパス	表彰状	10,000 円
11月14日	SSI 優秀論文賞 Jerome Monsanto(Tohoku University), Dai Owaki(Tohoku University), Mitsuhiro Hayashibe(Tohoku University). Enhancing Stability and Controllability of Quadruped Skating Locomotion through Integration of Central Pattern Generators and Model Predictive Control	東北大学 青葉山キャンパス	表彰状	10,000 円
11月14日	SSI 優秀発表賞 佐野優輝 (千葉大学), 荒井幸代 (千葉大学), 列車の回生電力最大化に向けた変電所の電圧制御	東北大学 青葉山キャンパス	表彰状	
11月14日	SSI 優秀発表賞 永田健斗 (千葉大学), 荒井幸代 (千葉大学), 自律移動における制御バリア関数と強化学習の統合法: 安全と最適の両立	東北大学 青葉山キャンパス	表彰状	
11月14日	SSI 優秀発表賞 廣島圭 (横浜国立大学), 内田 絢斗 (横浜国立大学), 白川真一 (横浜国立大学), モデルマージを利用した継続学習アルゴリズムにおける忘却度調整法の検討	東北大学 青葉山キャンパス	表彰状	
11月14日	SSI 優秀発表賞 古澤美典 (株式会社やさしいロボット研究所/筑波大学), 高辻 克海 (株式会社やさしいロボット研究所), 仮眠支援ロボットの安全なタッピングを実現する自由落下ハンドの提案	東北大学 青葉山キャンパス	表彰状	
11月14日	SSI 優秀発表賞 山田竜志 (神戸大学), 國領大介 (神戸大学), 貝原 俊也 (大阪工業大学), 防災力向上に向けた地域コミュニティ活性化政策立案支援 ～政策介入による社会ネットワークと避難行動への影響～	東北大学 青葉山キャンパス	表彰状	
11月14日	SSI 研究奨励賞 工藤佑矢 (横浜国立大学), モデルマージ最適化のためのサロゲートベンチマークの提案	東北大学 青葉山キャンパス	表彰状	
11月14日	SSI 研究奨励賞 村上遼太郎 (岡山大学), スペース報酬環境における LLM を活用した強化	東北大学 青葉山キャンパス	表彰状	

	学習			
11月14日	SSI研究奨励賞 杭谷拓海(電気通信大学), 報酬関数を外部条件付クエリとしたパラメータ生成型メタ深層強化学習"	東北大学 青葉山キャンパス	表彰状	
11月14日	SSI研究奨励賞 高宮諒翔(電気通信大学), 制約条件の分解に基づくプッシュ・プル探索に関する一検討	東北大学 青葉山キャンパス	表彰状	
11月14日	SSI研究奨励賞 黄朝陽(東北大学), 網状人工筋肉の動的数理モデルの構築および評価	東北大学 青葉山キャンパス	表彰状	
11月14日	SSI研究奨励賞 西穂孝(東京農工大学), 零次法を用いた通信効率の高い連合学習手法の提案	東北大学 青葉山キャンパス	表彰状	

システムインテグレーション部門

実施時期	顕彰などの名称 受賞者名・受賞論文・授賞理由など	開催場所	賞品	副賞
1月24日	SIYA-SII 2025 10件	Munich, Germany	表彰状ほか	有
10月25日	SIYA-IROS2025 6件	Hangzhou, China	表彰状ほか	有

産業応用部門

実施時期	顕彰などの名称 受賞者名・受賞論文・授賞理由など	開催場所	賞品	副賞
11月26日	産業応用部門功績賞 横浜国立大学 眞田一志 流体計測技術への寄与	住友重機械工業(株) 横須賀製造所 (産業応用部門大会)	賞状	無
11月26日	産業応用部門奨励賞 株式会社日立製作所 戸田康介 "Route Planning for Autonomous Mobile Robot Using Task-Specific Generative AI" タスク特化型生成AIを用いた自律移動ロボットの経路計画	住友重機械工業(株) 横須賀製造所 (産業応用部門大会)	賞状	無

ライフエンジニアリング部門

実施時期	顕彰などの名称 受賞者名・受賞論文・授賞理由など	開催場所	賞品	副賞
9月18日	研究奨励賞 塗木ひかる(鹿児島大学) "Development of an Immersive Eye-Tracking VR System for Evaluating Tactical Awareness in Football"	千葉大学		
9月18日	研究奨励賞 渡部宏樹(情報通信研究機構) "An Automatic Estimation System for Non- clinical Depressed States Using EEG Data in Daily Life"	千葉大学		
9月18日	学生奨励賞 入交陽斗(千葉大学) "The effects of auditory stimulation for sleep promotion: Impact of presentation timing, presentation length, and subjective preference"	千葉大学		
9月18日	学生奨励賞 堂脇悠里(千葉大学) "Effects of age on hearing-in-noise ability and medial olivocochlear bundle reflex"	千葉大学		

北海道支部

実施時期	顕彰などの名称 受賞者名・受賞論文・授賞理由など	開催場所	賞品	副賞
3月7日 ~8日	北海道支部 支部奨励賞 (2件)	北海道大学 & オンライン	賞状	Amazon ギフト券 5千円×

	・吉川元耶 (室蘭工業大学) 「上体を持つ2足歩行ロボットの周期入力制御」 ・佐藤暁磯 (神奈川大学) 「ロープ展開角度に依存しない走行ロボットの姿勢制御」			2件
--	---	--	--	----

東北支部

実施時期	顕彰などの名称 受賞者名・受賞論文授賞理由など	開催場所	賞品	副賞
3月14日	三上 真理子「乳房 X 線画像正常例で訓練した拡散モデルによる異常検知に関する研究」	東北大学	図書カード	
5月26日	田代 周平「MEMS オーディオデバイスを用いた多チャンネル超音波風速計測」	岩手大学	図書カード	
5月26日	斎藤 紀代太「路面形状予測に資する自律移動ロボットのシミュレーション」	岩手大学	図書カード	
7月14日	竹花 佳祐・「惑星探査ローバーの砂地走行における動的挙動を考慮した車輪力学計測」	八戸高専	図書カード	
7月14日	渡邊 詩織・「自動採血ロボット開発のためのヒトと等価な散乱特性を有する模擬皮膚の開発」	八戸高専	図書カード	
9月29日	岩倉 龍之介「子どもの遊び行動解析に向けた多人数同時位置計測のフィールド実験」	秋田県立大学	図書カード	
11月8日	川村 颯「粒子フィルタを用いた補助人工心臓装着時の循環状態推定」	福島大学	図書カード	
12月10日	安藤 礼弥「4脚歩行のための結合振動子における分岐理論に基づく歩容遷移」	山形大学	図書カード	

中部支部

実施時期	顕彰などの名称 受賞者名・受賞論文授賞理由など	開催場所	賞品	副賞
2月1日	第55期支部賞 教育賞 山田 実 (岐阜工業高等専門学校)	名古屋大学	賞状	図書券
3月10日	第56期学業優秀賞表彰 大塚康平 (名古屋大学), 井上弘貴 (信州大学), 坪本桂青 (信州大学), 勝又颯 (名古屋工業大学), 中谷春陽 (名古屋工業大学), 宮川将嘉 (名城大学), 田辺碧衣 (名城大学), 牛尾颯人 (岐阜高専), 吉川潤 (豊橋技術科学大学), 栗田皓太 (三重大学), 中森秀 (三重大学), 大橋南海 (南山大学), 大井謙吾 (岐阜大学), 鬼頭佑昇 (豊田工業大学)	-	賞状	図書券
3月17日	教育学研究会 学生優秀発表賞 中嶋健登 (豊田工業高等専門学校)	大同大学	賞状	
9月12日	教育学研究会 学生優秀発表賞 志波颯 (大同大学大学院)	大同大学	賞状	
9月19日	中部支部シンポジウム 学生優秀発表賞 木下雅智 (信州大学), 東方龍之介 (長野大学), 坂下義和 (信州大学), 藤川薫 (芝浦工業大学), 金久保朋希 (信州大学)	信州大学	賞状	
11月26日	【部門A (高専本科・学部2年以下)】 後藤 健斗, 須山 大樹 (岐阜工業高等専門学校) 【部門B (学部4年・高専専攻科)】 増元 智己 (大同大学) 【部門C (大学院生)】 上田 優真 (愛知工業大学), 竹内 樹 (名城大学)	imy 会議室	賞状	
12月2日	計測自動制御学会中部支部ワーキングセミナー	名古屋大学	賞状	

	一発表賞：竹内樹（名城大学）			
<b>北陸支部</b>				
実施時期	顕彰などの名称 受賞者名・受賞論文授賞理由など	開催場所	賞品	副賞
2月1日	北陸支部優秀学生賞（20件） 伊東 龍平（富山大学），中林 未宙（富山大学）， 三輪 雄太（富山大学），小林 寛明（富山県立 大学），杉本 拓海（富山県立大学），出越 蓮 （富山県立大学），塩岡 颯希（富山高等専門学 校），新井 希望（金沢大学），上田 雅典（金 沢大学），上野 耕静（金沢大学），石井 諒（金 沢工業大学），丸山 智哉（金沢工業大学），小 森 幹斗（北陸先端科学技術大学院大学），松本 晃洋（公立小松大学），新谷 歩未（石川工業高 等専門学校），上田 崇人（福井大学），武野 駿 斗（福井大学），別府 真伍（福井大学），グエ ン リー コイ（福井工業大学），品川 涼（福井 工業高等専門学校）	各所属機関にて表彰	賞状	図書カー ド5千円
8月8日	北陸支部 SICE Annual Conference 学生参加 助成（1件） 財部 駿星（北陸先端科学技術大学院大学）	Empress Hotel and Convention Center, Chiang Mai, Thailand		1万円× 1件
8月8日	北陸支部 SICE Annual Conference 若手奨励 賞（1件） 小俣 理音（富山県立大学大学院）	Empress Hotel and Convention Center, Chiang Mai, Thailand	賞状	2万円× 1件
9月20日	北陸支部優秀論文発表賞（2件） 山田 晃誠氏（富山県立大学大学院），村上 遥 翔氏（富山県立大学大学院）		賞状	図書カー ド5千円 ×2件
<b>関西支部</b>				
実施時期	顕彰などの名称 受賞者名・受賞論文授賞理由など	開催場所	賞品	副賞
1月15日	2024 年度 計測自動制御学会関西支部支部長 賞 奨励賞（4名） 杉山 大輝（京都大学）「価値駆動型マルチエー ジェントシステムの合意制御」 Lin Kangyu（京都大学）「A non-interior-point continuation method for optimal control problems with equilibrium constraints」 楠原 里奈（大阪大学）「Task-Oriented Design Method for Monolithic Flexible Hands with Wire Drive Systems」 荻尾 優吾（大阪大学）「モデル探索アプローチ に基づく動的量子化器の設計」	大阪大学 中之島センター	賞状	2万円× 4件
<b>中国支部</b>				
実施時期	顕彰などの名称 受賞者名・受賞論文授賞理由など	開催場所	賞品	副賞
1月20日	第33回中国支部学術講演会講演者表彰・優秀 賞・原田 隼希（徳山工業高等専門学校）・モノ ドロミ作用素表現に基づく入力むだ時間系の メモリス安定化制御器設計について	オンライン	なし	図書カー ド
1月20日	第33回中国支部学術講演会講演者表彰・奨励 賞・赤木 厘仁（岡山理科大学）・エンジン排気 熱測定センサの開発	オンライン	なし	図書カー ド

1月20日	第33回中国支部学術講演会講演者表彰・奨励賞・勝野 隼(広島大学)・PDLFを用いたゲインスケジュールド制御器のデータ駆動設計	オンライン	なし	図書カード
1月20日	第33回中国支部学術講演会講演者表彰・奨励賞・角国 環音(島根大学大学院)・脳波解析を利用したストレス評価モデルによる使用者の好みに即した操作特性の調整法	オンライン	なし	図書カード
1月20日	第33回中国支部学術講演会講演者表彰・奨励賞・行平 将望(福山大学)・光学式触覚センサーの改良とアプリケーション適用	オンライン	なし	図書カード
1月20日	第33回中国支部学術講演会講演者表彰・奨励賞・前田 亜実(広島大学)・自動車に加わる横方向外乱の推定とキャンセル制御	オンライン	なし	図書カード

四国支部

実施時期	顕彰などの名称 受賞者名・受賞論文授賞理由など	開催場所	賞品	副賞
11月29日	SICE 四国支部学術講演会・優秀講演賞 美濃 ちひろ(阿南工業高等専門学校)「感性工学アプローチによるトマトの保存期間・方法の違いが食味に及ぼす影響の検討」	香川大学	賞状	SICE FES 参加 費補助 or SICE 出版本
11月29日	SICE 四国支部学術講演会・優秀講演賞 天羽 優太(阿南工業高等専門学校)「VR 用無移動歩行システムの開発」	香川大学	賞状	SICE FES 参加 費補助 or SICE 出版本
11月29日	SICE 四国支部学術講演会・優秀講演賞 平岡 裕貴(香川大学)「物流倉庫での作業支援を目的とした有線ドローンの機体と電源供給システムの統合設計」	香川大学	賞状	SICE FES 参加 費補助 or SICE 出版本
11月29日	SICE 四国支部学術講演会・優秀講演賞 小川優和(香川大学)「傾斜地における葉裏への農薬散布のためのテザードローンの開発」	香川大学	賞状	SICE FES 参加 費補助 or SICE 出版本
11月29日	SICE 四国支部学術講演会・優秀講演賞 菊池研汰(愛媛大学)「単眼カメラと小型距離センサーを用いたパノラマ画像の深度推定による探査アルゴリズム」	香川大学	賞状	SICE FES 参加 費補助 or SICE 出版本

九州支部

実施時期	顕彰などの名称 受賞者名・受賞論文授賞理由など	開催場所	賞品	副賞
1月11日	2024年 SICE 九州支部奨励賞(3名) ◇支部奨励賞「A.計測」部門 講演番号 101A4 窒素噴霧コロナ放電法を用いたゾルゲル複合体圧電膜の分極処理に関する研究 中村 眞子(熊本大学)  ◇支部奨励賞「B.制御理論」部門 講演番号 202A1 倒立振子制御設計における非大域性が引き起こす吸引保証の保守性	— (賞状は郵送)	賞状・盾	ギフトカード 3万円

	<p>- LgVからの考察 - 藤田 健太郎(都城工業高等専門学校)</p> <p>◇支部奨励賞「C.制御応用」部門 講演番号 103B4 複数の歩行者環境での MR を利用した SSVEPによる走行意図の検出 城ヶ峰 崇生(熊本大学)</p>			
1月11日	<p>SICE九州支部学生発表交流会優秀賞</p> <p>■最優秀発表賞 発表番号 105C03 エビ規範ロボットのパドリング範囲による 操縦性能の検証 竹下 千喜(宮崎大学)</p> <p>■優秀発表賞 発表番号 105C12 球技全般のボール収集に対応可能な回収メ カニズム 早川 祐輔(宮崎大学)</p> <p>発表番号 105C10 ベンチマークデータセット ControlBench を 用いた制御工学用カスタム GPT の性能評価 尾郷 樹(九州工業大学)</p>	— (賞状は郵送)	賞状	図書カード (最優秀 5000円 優秀3000 円)

## 6. その他本会の目的を達成するための事業

### インダストリ委員会

実施月日	行事・事業・会議（・委員会）などの名称	開催場所	発表件数	参加者数
7月8日	ARCアジアフォーラム2025(パネル企画/ブース出展)	両国KFCホール	—	—
11月19日 ~21日	IIFES 2025 (出展者セミナー /ブース出展)	東京ビッグサイト	—	45,324人

### メンバー委員会

実施月日	行事・事業・会議（・委員会）などの名称	開催場所	発表件数	参加者数
5月26日	ISCIE 連携会議	神戸市産業振興センター	—	17
11月1日	ISCIE 連携会議	名古屋大学	—	17
8月29日	SICE-FES 2025 Japan Node (Pre-Events) 「ランチョン・ネットワーキング・イベント with Thai Node(SICE-DIA)」	東京理科大学 同窓会館	—	20
8月29日	SICE-FES 2025 Japan Node (Pre-Events) 「若手向けキャリア・パス講演会(SICE-DIA)」	東京理科大学 同窓会館	—	30
8月29日	SICE-FES 2025 Japan Node (Pre-Events) 「若手交流会 (SICE-DIA)」	東京理科大学 同窓会館	—	15
3月2日	第12回 GiC(Girls in Control)	大阪工業大学	—	7
7月26日	第13回 GiC(Girls in Control)	東京都市大学	—	14
11月3日	第14回 GiC(Girls in Control)	名古屋大学	—	5

## 計測部門

実施月日	行事・事業・会議（・委員会）などの名称	開催場所	発表件数	参加者数
3月5日 ～6日	パターン計測部会協賛企画・動的画像処理実利用化ワークショップ (DIA2025)	きらめきみなと館	252	107
12月4日 ～5日	パターン計測部会共同企画: ビジョン技術の実利用ワークショップ (ViEW 2025)	パシフィコ横浜	100	779

## システムインテグレーション部門

実施月日	行事・事業・会議（・委員会）などの名称	開催場所	発表件数	参加者数
12月10日	RSNP コンテスト 2025	JMS アステール プラザ	3	30

## 産業応用部門

実施月日	行事・事業・会議（・委員会）などの名称	開催場所	発表件数	参加者数
2月5日	制御システムセキュリティカンファレンス 2025 (後援)	浅草橋ヒューリック カンファレンス &オンライン	7	550

## 北海道支部

実施月日	行事・事業・会議（・委員会）などの名称	開催場所	発表件数	参加者数
9月10日	ロボットトライアスロン 2025	北海道科学大学	15	60

## 中部支部

実施月日	行事・事業・会議（・委員会）などの名称	開催場所	発表件数	参加者数
2月17日	日本設計工学会東海支部第93回見学会	東海旅客鉄道株式会 社 総合技術本部 技術開発部 (小牧研究施設)		30
4月11日, 17日, 25日	製図初心者向け入門講座	名城大学		12
5月14日	精密工学会東海支部見学会・特別講演会	旭サナック株式会社		16
5月30日	日本設計工学会東海支部第48期(2025年度)総会特別講演	名城大学		27
7月4日	日本設計工学会東海支部第94回見学会	株式会社 今仙技術研究所		16
8月5日, 20日	幾何特性仕様(GPS)講習会 「はじめての ISO GPS サイズ公差と幾何公差」	名城大学		12
8月26日 ～9月18日	「ものづくり 実践講座シリーズ」全7講座	豊田工業大学他		27
8月27日, 9月3日	幾何特性仕様(GPS)講習会 「実践 ISO GPS スキルアップ幾何公差」	名城大学		8
9月22日	東海地区大学等飛行ロボット授業優秀機選抜 対抗戦 「東海クライマックスシリーズ 2025」	山県市総合体育館		27
10月28日 ～29日	第14回機械工学基礎講座「機械設計」	名古屋大学		20
11月14日	第11回講演会「製造業におけるデータサイエンス, シミュレーション技術の役割とその活用」	オンライン		179
11月21日	第154回科学英語の書き方とプレゼンテーション	オンライン		80
11月28日	精密工学会東海支部 見学会・特別講演会 「(株) キラ・コーポレーション」	株式会社キラ・コー ポレーション 本社		12
11月28日	2025年度設計フォーラム「設計現場におけるAI活用の最前線」	名城大学		21

北陸支部

実施月日	行事・事業・会議（・委員会）などの名称	開催場所	発表件数	参加者数
3月7日 ～8日	日本機械学会北陸信越支部 2025 年合同講演会 (共催)	新潟大学 五十嵐キャンパス	229	342
11月29日	令和7年度日本生体医工学会北陸支部大会(共催)	大学コンソーシアム 富山駅前キャンパス	12	45

四国支部

実施月日	行事・事業・会議（・委員会）などの名称	開催場所	発表件数	参加者数
9月27日	電気関係学会四国支部連合大会(共催)	高知大学	211	290

九州支部

実施月日	行事・事業・会議（・委員会）などの名称	開催場所	発表件数	参加者数
3月8日	SICE九州支部制御理論と応用に関する研究会	アクロス福岡 601会議室	2	18
7月12日	SICE九州支部制御理論と応用に関する研究会	アクロス福岡 601会議室	3	12
11月15日	SICE九州支部制御理論と応用に関する研究会	アクロス福岡 601会議室	2	12
12月20日	SICE九州支部制御理論と応用に関する研究会	アクロス福岡 601会議室	3	8

7. その他、運営委員会など

総務委員会

実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	議題数	参加人数
2月6日	(2024年度)第10回総務委員会	事務局&オンライン	8	9
3月7日	(2024年度)第11回総務委員会	事務局&オンライン	5	10
4月17日	総務委員会引継ぎ会議	事務局&オンライン	9	12
5月7日	第1回総務委員会	事務局&オンライン	4	10
6月7日	第2回総務委員会	事務局&オンライン	9	7
7月15日	第3回総務委員会	事務局&オンライン	9	9
8月8日	第4回総務委員会	事務局&オンライン	4	11
9月17日	第5回総務委員会	事務局&オンライン	8	9
10月14日	第6回総務委員会	事務局&オンライン	8	8
11月12日	第7回総務委員会	事務局&オンライン	8	9
12月18日	第8回総務委員会	事務局&オンライン	1	8

財務委員会

実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	議題数	参加人数
4月25日	第1回財務委員会	オンライン	4	12
12月8日	予算策定会議	オンライン	2	8

企画委員会

実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	議題数	参加人数
5月22日	第1回企画委員会	事務局&オンライン	5	10
7月7日	第2回企画委員会	事務局&オンライン	3	11
7月28日	第3回企画委員会	事務局&オンライン	3	11
7月28日	拡大理事ワークショップ事前説明会	オンライン	1	—
8月7日	拡大理事ワークショップ(1日目)	セミナーハウス クロス・ウェーブ船橋 &オンライン	4	34
8月8日	拡大理事ワークショップ(2日目)	セミナーハウス クロス・ウェーブ船橋 &オンライン	2	34

学会賞委員会

実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	議題数	参加人数
2月21日	第4回学会賞委員会（2024年度）	オンライン	7	15
4月24日	第1回学会賞委員会	オンライン	9	18
5月20日	2025年度FA財団論文賞推薦論文選考委員会	オンライン	2	—
7月7日	第2回学会賞委員会	オンライン	9	18
9月12日	SICE FES 2025 Annual Conference Award 選考委員会	The Empress Hotel and Convention Centre, Chaing Mai, Thailand	2	—
11月7日	第3回学会賞委員会	オンライン	10	18

会誌出版委員会

実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	議題数	参加人数
1月19日	2024年度第6回会誌出版委員会	事務局&オンライン	6	24
2月27日	2025年度引継ぎ会	事務局&オンライン	5	4
3月28日	第1回会誌出版委員会	事務局&オンライン	6	23
5月30日	第2回会誌出版委員会	事務局&オンライン	7	25
7月16日	第3回会誌出版委員会	事務局&オンライン	7	25
9月3日	特別会誌出版委員会	事務局&オンライン	9	20
10月9日	第4回会誌出版委員会	事務局&オンライン	7	22
12月2日	第5回会誌出版委員会	事務局&オンライン	7	19

和文論文集委員会

実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	議題数	参加人数
1月22日	2024年度第3回和文論文集委員会	オンライン	4	6
4月25日	第1回和文論文集・編集合同委員会	オンライン	4	26
7月10日	第2回和文論文集委員会	オンライン	4	9

英文論文集委員会

実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	議題数	参加人数
2月3日	2024年度第3回英文論文集委員会	オンライン	4	9
4月15日	第1回英文論文集委員会	オンライン	4	9
7月14日	第2回英文論文集委員会	オンライン	4	10
9月30日	2025年度英文論文集編集委員会	オンライン	7	25

カンファレンス委員会

実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	議題数	参加人数
11月7日	第1回カンファレンス委員会	オンライン	8	21

インダストリ委員会

実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	議題数	参加人数
1月17日	第5回インダストリ委員会(2024年度)	オンライン	11	11
1月31日	SICE 安全のための計測・制御・システムを考 える会 第140回タスクフォース会合	慶應義塾大学 日吉キャンパス &オンライン	—	10
2月26日	SICE 安全のための計測・制御・システムを考 える会 第141回タスクフォース会合	慶應義塾大学 日吉キャンパス &オンライン	—	9
2月27日	2024年度第5回国際標準化委員会	事務局&オンライン	7	9
4月23日	SICE Wagora 第1回ミーティング	事務局&オンライン	3	17
5月21日	第1回国際標準化委員会	事務局&オンライン	8	9
5月28日	第1回国際標準化賞小委員会	事務局&オンライン	1	7
6月25日	第1回インダストリ委員会	事務局&オンライン	11	11
6月10日	SICE Wagora 第2回ミーティング	事務局&オンライン	3	12
7月1日	第2回国際標準化賞小委員会	事務局&オンライン	1	6
7月1日	第2回国際標準化委員会	事務局&オンライン	5	8

8月6日	第2回 インダストリ委員会	オンライン	11	10
10月9日	第3回 国際標準化委員会	事務局&オンライン	8	9
12月17日	第3回 インダストリ委員会	オンライン	11	9
12月17日	第4回 国際標準化委員会	事務局&オンライン	10	12

メンバー委員会

実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	議題数	参加人数
1月24日	2024年度第5回メンバー委員会	オンライン	8	13
2月14日	SICE DIA 第1回定例会	オンライン	3	10
4月14日	プロセス塾 WG 第1回	オンライン	2	14
5月19日	2025年度第1回メンバー委員会	オンライン	8	15
5月20日	SICE DIA 第2回定例会	オンライン	3	10
7月18日	プロセス塾 WG 第2回	オンライン	4	13
8月22日	2025年度第2回メンバー委員会	事務局&オンライン	8	16
9月2日	プロセス塾 WG 第3回	オンライン	4	10
10月28日	SICE DIA 第3回定例会	オンライン	3	8
12月3日	2025年度第3回メンバー委員会	オンライン	8	11
12月15日	SICE DIA 第4回定例会	事務局&オンライン	3	8

部門協議会

実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	議題数	参加人数
1月23日	2024年度第5回部門協議会	事務局&オンライン	5	13
4月23日	2024年度第6回&2025年度第1回	エッサム神田ホール 2号館 702 &オンライン	6	15
7月9日	部門支部新旧合同協議会	事務局&オンライン	5	17
10月2日	2025年度第2回部門協議会	事務局&オンライン	6	13
12月2日	2025年度第3回部門支部合同協議会	事務局&オンライン	4	12

計測部門

実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	議題数	参加人数
2月19日	2025年度第1回センシングフォーラム運営委員会	オンライン	5	18
2月19日	2024年度第4回&2025年度第1回計測部門運営委員会	オンライン	7	11
6月19日	2025年第2回センシングフォーラム運営委員会	オンライン	2	13
6月24日	2025年第1回力学量計測部会運営委員会	事務局&オンライン	8	15 (内・対面 9)
7月1日	2025年度第2回計測部門運営委員会	オンライン	7	11
9月25日	2025年第3回センシングフォーラム運営委員会	群馬大学 桐生キャンパス総合 研究棟 403号室	6	18 (対面)
9月26日	2025年第3回計測部門運営委員会	群馬大学 桐生キャンパス総合 研究棟 403号室	4	10 (対面)
11月21日	第110回パターン計測部会運営委員会	東京大学 駒場IIキャンパス	10	3 (対面)
12月5日	2025年第2回力学量計測部会運営委員会	東洋テック株式会社 会議室&オンライン	8	22 (内・対面 14)
12月17日	第1回温度計測部会運営委員会	オンライン	7	9

制御部門

実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	議題数	参加人数
------	--------------------	------	-----	------

1月30日	制御部門運営委員会メーリングリストの作成	オンライン		
3月3日	制御部門事業委員会	大阪工業大学	5	5
3月3日 ～10日	2025年度第1回広報委員会	メール審議	2	4
3月4日	制御部門学術委員会	大阪工業大学	5	30
3月5日	制御部門運営委員会	大阪工業大学	23	30
4月14日	制御部門事業委員会	オンライン	5	10
4月30日	MSCS2025とISCS2025のホームページの保存	オンライン		
6月27日	制御理論若手合宿のホームページの開設	オンライン		
9月18日	制御部門運営委員会	オンライン	21	28
11月17日	制御部門運営委員会	オンライン	25	25

システム・情報部門

実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	議題数	参加人数
1月16日	自律分散システム部会運営委員会	KDDI 維新ホール	2	12
2月28日	コンピューターショナル・インテリジェンス部会運営委員会	オンライン	4	9
3月10日	知能工学部会第1回運営委員会	近畿大学 東大阪キャンパス	7	9
3月14日 ～15日	社会システム部会第1回運営委員会	アートホテル石垣島 &オンライン	5	17
7月3日	自律分散システム部会第2回運営委員会	オンライン	7	13
7月10日	コンピューターショナル・インテリジェンス部会運営委員会	電気通信大学 &オンライン	4	7
8月7日	システム工学部会第1回運営委員会	オンライン	4	5
9月12日	自律分散システム部会第3回運営委員会	東京農工大	7	12
11月13日	知能工学部会第2回運営委員会	東北大学	6	11
11月14日 ～21日	社会システム部会第2回運営委員会	東北大学&オンライン &メール審議	4	41

システムインテグレーション部門

実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	議題数	参加人数
1月10日	第1回SI部門新旧合同運営委員会	東北大学東京分室 &オンライン	10	19
3月3日	第2回SI部門運営委員会	メール審議	4	—
4月14日	第3回SI部門運営委員会	メール審議	11	—
6月5日	第4回SI部門運営委員会	やまがた県民ホール &オンライン	14	25
7月18日	第5回SI部門運営委員会	メール審議	6	—
9月4日	第6回SI部門運営委員会	東京科学大学 &オンライン	10	26
10月10日	第7回SI部門運営委員会	メール審議	5	—
11月14日	第8回SI部門運営委員会	メール審議	6	—
12月11日	第9回SI部門運営委員会	広島国際会議場 &オンライン	6	32
12月11日	ユニバーサルデザイン応用システム部会運営委員会	広島国際会議場	0	7
12月12日	フィールドロボティクス部会委員会	広島国際会議場	0	17

産業応用部門

実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	議題数	参加人数
1月29日	第10回SICE計装技術交流部会	オンライン	4	5
2月13日	第1回ネット部会OTセキュリティWG	オンライン	5	7
2月19日	第1回産業ネットワーク・システム部会	事務局&オンライン	10	19

2月19日	第1回ネット部会 OT データ連携 WG	事務局&オンライン	2	7
2月28日	第1回新旧合同産業応用部門運営委員会	オンライン	3	8
3月13日	第11回SICE 計装技術交流部会	オンライン	5	5
3月28日	第2回産業応用部門運営委員会	オンライン	5	9
4月10日	第2回ネット部会 OT セキュリティ WG	オンライン	5	7
4月16日	第2回産業ネットワーク・システム部会	事務局&オンライン	10	17
4月16日	第2回ネット部会 OT データ連携 WG	事務局&オンライン	10	17
4月24日	第1回SICE 計装技術交流部会	事務局&オンライン	4	6
5月22日	第3回産業応用部門運営委員会	オンライン	6	9
5月27日	第3回ネット部会 OT データ連携 WG	住友重工追浜事業所 &オンライン	3	7
6月11日	第3回ネット部会 OT セキュリティ WG	オンライン	5	8
7月7日	第4回産業応用部門運営委員会	オンライン	3	10
7月8日	第2回SICE 計装技術交流部会	オンライン	3	6
7月10日	第3回産業ネットワーク・システム部会	三菱電機 &オンライン	10	20
7月10日	第4回ネット部会 OT データ連携 WG	三菱電機 &オンライン	4	12
8月20日	第4回ネット部会 OT セキュリティ WG	オンライン	5	9
9月4日	第7回SICE 計装技術交流部会	事務局&オンライン	3	7
9月24日	第5回産業応用部門運営委員会	オンライン	4	9
12月23日	第6回産業応用部門運営委員会	事務局&オンライン	4	9

ライフエンジニアリング部門

実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	議題数	参加人数
4月4日	第1回部門・4部会合同運営委員会	オンライン	10	10
9月18日	第2回部門・4部会合同運営委員会	千葉大学 &オンライン	8	9

支部協議会

実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	議題数	参加人数
2月3日	2024年度第5回支部協議会	事務局&オンライン	5	16
4月23日	2024年度第6回&2025年度第1回支部協議会 (部門との合同協議会)	エッサム神田ホール 第2ビル702会議 室&オンライン	8	19
7月23日	第2回支部協議会	事務局&オンライン	6	18
10月2日	第3回支部協議会 (部門との合同協議会)	事務局&オンライン	6	15
11月27日	第4回支部協議会	事務局&オンライン	4	11

北海道支部

実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	議題数	参加人数
1月31日	2024年度支部会議	オンライン	5	8, 委任状 32
1月31日	2024年度第6回支部運営委員会&2025年度第1回支部運営委員会	オンライン	2	8
3月13日 ~3月28日	2025年度支部奨励賞選考委員会	メール審議	1	6
4月17日	2025年度第2回支部運営委員会	オンライン	3	9
9月19日 ~9月30日	2025年度第3回支部運営委員会	メール審議	1	10
12月16日 ~12月20日	2025年度第4回支部運営委員会	メール審議	3	10

東北支部

実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	議題数	参加人数
2月12日	東北支部会議	オンライン	3	5

中部支部

実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	議題数	参加人数
2月1日	第56期支部会議	名古屋大学 &オンライン	6	25
2月1日	第1回事業・運営委員会	名古屋大学 &オンライン	5	25
3月25日	第2回事業・運営委員会	オンライン	8	22
7月1日	第3回事業・運営委員会	オンライン	10	20
11月11日	第4回事業・運営委員会	オンライン	7	23

北陸支部

実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	議題数	参加人数
1月12日	第29期（令和7年）支部会議	大学コンソーシアム 富山駅前キャンパス 研修室1	5	15
1月17日	第29期（令和7年）新旧合同運営委員会	大学コンソーシアム 富山駅前キャンパス 研修室1	6	9
5月20日	第1回運営委員会	オンライン	15	6
7月28日 ～8月1日	第2回運営委員会	メール審議	1	7
9月20日	第3回運営委員会	オンライン	12	7
11月11日 ～23日	第4回運営委員会	メール審議	6	7

関西支部

実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	議題数	参加人数
5月13日	令和7年度 第1回運営委員会	オンライン	6	19
6月26日	令和7年度 第2回運営委員会	オンライン	9	15
9月4日	令和7年度 第3回運営委員会	大阪工業大学	10	17
10月27日	令和7年度 第4回運営委員会	オンライン	10	11
12月17日	令和7年度 第5回運営委員会	オンライン	16	13

中国支部

実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	議題数	参加人数
5月15日	中国支部拡大運営委員会	オンライン	3	12
6月26日	中国支部臨時運営委員会	オンライン	1	10
10月17日	役員会議	オンライン	4	4
11月6日	中国支部運営委員会	メール審議	2	20

四国支部

実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	議題数	参加人数
4月1日	支部運営会議	オンライン	3	7
5月26日	四国支部学術講演会第1回実行委員会	オンライン	8	8
10月2日	四国支部学術講演会第2回実行委員会	オンライン	6	7
11月29日	拡大支部運営委員会	香川大学	7	16

九州支部

実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	議題数	参加人数
1月11日	令和7年度 SICE 九州支部 第1回拡大運営委員会	オンライン	7	18
1月11日	第55期支部会議	オンライン	8	18
3月27日 ～4月9日	第1回事業委員会	メール審議	1	19
6月30日	令和7年度 SICE 九州支部 第2回運営委員会	オンライン	7	11
10月9日	令和7年度 SICE 九州支部 第3回運営委員会	オンライン	9	10

10月13日 ～17日	第2回事業委員会	メール審議	1	19
11月29日 ～30日	第3回事業委員会	九州工業大学 戸畑キャンパス	4	12
11月30日 ～12月24日	第4事業委員会	メール審議	1	19